

青森県立美術館

年報

平成24年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 企画展
- 045 常設展

学芸

- 052 美術資料収集
- 053 美術資料貸出状況
- 054 作品保存修復

教育普及

- 056 普及プログラム
- 060 スクールプログラム
- 062 サポートスタッフ
- 063 メンバーシッププログラム

パフォーミングアーツ

- 066 演劇
- 070 ドラマリーディング
- 073 音楽

サービス等

- 082 貸館
- 084 図書室
- 086 キッズルーム・フリーアトリエ
- 087 博物館実習

資料

- 090 広報
- 091 広聴
- 092 入館者数
- 093 運営予算・決算
- 094 組織
- 095 関係規程等
- 099 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年2月	総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
2005年9月20日	美術館竣工
2006年3月17日	「運営諮問会議」設置
2006年4月1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年6月13日	開館プレス発表
2006年7月13日	開館（館長 三村 申吾）
2007年7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第11号）
2007年9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置
2008年7月19日	あおり犬屋外連絡通路開通
2008年7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年1月1日	新館長 鷹山ひばり 就任
2010年5月7日	入館者150万人達成
2010年7月8日	あおり犬えさ皿完成
2011年7月11日	入館者200万人達成
2011年7月13日	開館5周年
2012年11月14日	入館者250万人達成

展覧会

企画展

フィンランド展

Art & Air展

奈良美智展

常設展

第1期－第5期

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ × 縦 × 横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事のみを記載している。

フィンランドのくらしとデザイン ムーミンが住む森の生活

開催概要

会期：2012年4月7日（土）－2012年6月3日（日）

開催日数：57日間

主催：フィンランドのくらしとデザイン展実行委員会（青森県立美術館、青森朝日放送、あおもりデザイン協会、あおもりインテリアコーディネーター倶楽部、青森県観光連盟）

協賛：株式会社千葉室内

後援：フィンランド大使館、フィンランドセンター、東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社

特別協力：フィンエアー

協力：アルテック社、イッタラ（フィスカース・グループ）、株式会社スキャンデックス、マリメッコ社、株式会社ルック、株式会社タトル・モリ エイジェンシー、社団法人日本フィンランド協会、小海フィンランド協会、株式会社 竹尾、弘前大学北日本新エネルギー研究所、青森県菓子工業組合、青森市タクシー協会、深浦町

企画・運営協力：株式会社キュレイターズ

企画協力：宇都宮美術館

観覧料：一般1,200（1,000）円、高大生700（600）円、小中生300（200）円

※（ ）内は20名以上の団体料金及び前売り

入場者数

31,876人

展覧会カタログ

「フィンランドのくらしとデザイン ムーミンが住む森の生活」

企画・構成：株式会社キュレイターズ

執筆：エリナ・ボネリウス（タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション）、ミンナ・トゥルティアイネン（ガレン＝カラ美術館）、橋本優子（宇都宮美術館）、池田亨（青森県立美術館）、伊藤鮎（静岡市美術館）、福満葉子（長崎県美術館）、飯尾由貴子（兵庫県立美術館）、吉澤菜摘（株式会社キュレイターズ）

判型：B5判変形（192×257）・276頁

発行：株式会社キュレイターズ

関連企画

（1）トークセッション「ムーミンが住む森の生活」

ムーミンの原画を所蔵するタンペレ市立美術館の学芸員ほか展覧会関係者が、世界中の人々の心をとらえるムーミンの物語の魅力、またその背景にあるフィンランドの自然や伝統的な生活

について語った。

日時：2012年4月7日（土） 13:30－15:30

場所：青森県立美術館シアター

トーカー：エリナ・ボネリウス（タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション学芸員）、橋本優子（宇都宮美術館主任学芸員）、池田 亨（青森県立美術館学芸主幹）

（2）ワークショップ「マリメッコ生地でファブリックパネルをつくる」

日本でも人気のマリメッコの生地を使い、室内装飾用のパネルを制作した。

①日時：2012年3月28日（水） 10:00－11:30

場所：A-Factory 2階スペース

②日時：2012年4月11日（水）及び30日（月・祝）

10:30－12:00

場所：青森県立美術館ワークショップA

講師：高樋 忍（あおもりインテリアコーディネーター倶楽部）

参加者数：75名

（3）ワークショップ「あおもり犬をつくろう フィンランド展 ver.」

2011年冬に渋谷パルコミュージアムで開催した青森県立美術館コレクション展での関連ワークショップで大好評を得たプログラムを、フィンランド展特別バージョンで実施。樹脂粘土を使って、あおもり犬とムーミンのキーホルダーを作った。

日時：2012年5月12日（土） 13:30－16:00

場所：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：30名

（4）講演会「北欧デザインの中のフィンランド・モダンデザイン」

日時：2012年5月16日（水） 15:00－17:00

場所：青森県立美術館ワークショップA

講師：島崎 信（武蔵野美術大学名誉教授）

主催：公益社団法人インテリア産業協会 東北支部

参加者数：40名

（5）学芸員によるギャラリートーク

担当学芸員による解説を聞きながら鑑賞できるギャラリートークを毎週日曜日に実施した。

期間中の毎週日曜日（9回） 14:00－15:00

参加者数：1回あたり5名－20名

(6) 出前講座「フィンランドのくらしとデザイン」

展覧会についての見どころなどを紹介し、興味を持ってもらうとともに美術館に足を運んでもらうため、学芸員が訪問し講義を行う出前講座を実施した。

- ・ 2012年4月26日（木） 弘前実業高等学校 38名
- ・ 2012年5月14日（月） 青森中央短期大学 120名
- ・ 2012年5月17日（木） 青森市ろうあ協会 30名

(7) ナイトミュージアム

展覧会最終週にナイトミュージアムを実施し、開館時間を延長したほか、特別料金の設定、企画展に加え常設展の一部観覧、美術館のライトアップ、ロゴマーク点灯時間の延長、1階エントランスと美術館の白壁にフィンランドのオーロラ映像の投影などを行った。

日時：2012年5月28日（月）－31日（木） 17:30－21:00

2012年6月1日（金） 18:30－21:00

入館者数：514名（5日間）

(8) あおもり北欧フェア

フィンランド展開催を機に、色々な場所でフィンランドを知ってもらい、県立美術館に親しんでもらうため、県内のカフェや菓子店、雑貨店などで、フィンランドや北欧にちなんだオリジナル商品などを販売した。

期間：2012年4月1日（日）－6月3日（日）

協力：青森県菓子工業組合

参加店舗数：飲食店・菓子店24店舗、雑貨屋11店舗

(9) フィンランド大使来青記念レクチャー

フィンランド展開催を機に、フィンランド大使夫妻が来青したので記念レクチャーを実施し、フィンランドデザインのルーツについての講演を行った。

日時：2012年5月8日（火） 10:30－11:30

場所：県立美術館シアター

①レクチャー

講師：フィンランド国特命全権大使 ヤリ・グスタフソン氏

②フィンランド展Q & Aトーク

トーカー：ヤリ・グスタフソン、アンナ・グスタフソン（大使夫人）、橋本優子（宇都宮美術館主任学芸員）



ポスター



展示風景

20世紀、フィンランドの近代美術とモダンデザインは、美術・デザイン史において独自の位置を確立した。とりわけモダンデザインは、1950年代以降、国際的に高い評価を得て、その後の世界のデザインシーンに大きな影響を及ぼした。単なるナチュラル志向でもなく、厳格で禁欲的な機能主義でもない、「全ての人々にとって、あらゆる観点から良いモダニズム」を追求するフィンランド・モダンデザインの系譜は、今日の「ユニヴァーサル・デザイン」や「エコロジー・デザイン」の原点にもなっている。

本展では、フィンランドが生んだ代表的なキャラクターであるトーヴェ・ヤンソンによる「ムーミン」の原画を展示し、そこに描かれたフィンランドのライフスタイルを紹介、さらにフィンランド人の心の原点である神話「カレワラ」を題材に描いた画家アクセリ・ガレン＝カレラと建築家エリエル・サーリネンの作品を通して、フィンランド芸術の根幹となっている民族主義を俯瞰するとともに、フィンランドの国民的建築家・デザイナーのアルヴァ・アアルトやカイ・フランクの製品デザイ

ン、マリメッコのテキスタイル、さらには現在の公共デザインでの取り組みを紹介し、現代におけるフィンランドのデザインと芸術の意義を探った。

また、青森会場での特別展示として弘前大学北日本新エネルギー研究所の協力のもと、北国でのエコ・エネルギーの取組について紹介するコーナーを設けた。

出品作品

第1章 フィンランド・デザインの黎明

アクセリ・ガレン＝カレラ
蔵書票「マリー&アクセル・ガレン」
1896
木版、紙
11.5×6.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
クッション「翼」
1897
ポブリン地、刺繍、アププリケ
φ36.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
クッション「イソギンチャク」
1900－1902
ポブリン地、刺繍、アププリケ
39.0×39.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
クッション「海獣」
1900－1903
ポブリン地、刺繍、アププリケ
34.0×64.5
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
ドア・ハンドル
木
L21.0×G10.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
ペーパー・ナイフ
木
L38.0×W6.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
ガレン＝カレラ自邸兼アトリエ「カレラ」
1901
デジタル画像による複製写真
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
「タルヴァスパー」：エスポーの自邸とアトリエ
1913
デジタル画像

アクセリ・ガレン＝カレラ
1900年パリ万国博覧会フィンランド館、
「アイリスの間」のルイユ「炎」
1899
ウール
260.0×190.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
1900年パリ万国博覧会フィンランド館、
「アイリスの間」の壁掛け「ライチョウ」
1899
毛（横糸）、綿（縦糸）
43.0×226.0
フィンランド・デザイン・ミュージアム（ガ
レン＝カレラ美術館に寄託）

アクセリ・ガレン＝カレラ
レリーフ「サンボの奪還」
1894
木
27.0×35.5
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画：
第1章より
1930
水彩、紙
52.5×33.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画：
第1章より
水彩、紙
19.0×27.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画：
第1章より
水彩、紙
44.5×33.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画：
第2章より
1925
水彩、紙
49.0×31.5
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画：
第3章より
水彩、紙マット
穴寸：38.0×30.3
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画：
第5章より
水彩、紙
50.0×33.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
書籍『装丁本カレワラ』のためのデザイン
原画
1922
水彩、鉛筆、紙
19.0×10.5
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
死と花
1896
木版、紙、5色のヴァリエーション
12.0×6.5
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
風景
1894
油彩、葉巻の箱の蓋
12.7×19.1
アイノラ財団

アクセリ・ガレン＝カレラ
岩で覆われた岸辺のボート、トゥルヴァの
古い教会の近くにて
1884
油彩、キャンヴァス
38.0×50.5
ヨスタ・セラッキウス美術財団

アクセリ・ガレン＝カレラ
サンボの鑄造（スケッチ）
1893
油彩、キャンヴァス
39.5×31.0
ヨスタ・セラッキウス美術財団

アクセリ・ガレン＝カレラ
倒れた松
1904
油彩、キャンヴァス、板に糊付け（裏打ち）
30.5×22.0
ヨスタ・セラッキウス美術財団

アクセリ・ガレン＝カレラ
オオヤマネコの巣穴
1906
油彩、キャンヴァス
38.0×29.0
ヨスタ・セラッキウス美術財団

アクセリ・ガレン＝カレラ
伐木
1909
油彩、合板
22.5×16.5
ヨスタ・セラッキウス美術財団

アクセリ・ガレン＝カレラ
マンタの急流
1917
油彩、キャンヴァス
65.0×55.5
ヨスタ・セラッキウス美術財団

アクセリ・ガレン＝カレラ
サウナの外で
1889
油彩、ボード
44.5×35.5
ヨスタ・セラッキウス美術財団

アクセリ・ガレン＝カレラ
兄弟殺し（スケッチ）
c.1897
油彩、キャンヴァス
29.5×39.5
ヨスタ・セラッキウス美術財団

アクセリ・ガレン＝カレラ
オオヤマネコの巣穴
1906
パステル、グアッシュ、ボード
68.0×51.0
フォータム美術財団

アクセリ・ガレン＝カレラ
ポスター「国民的啓発/歌と音楽の祭り/
1900年、於ヘルシンキ」
1900
リトグラフ、紙
47.0×64.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
ポスター「アレクシス・キヴィ著『七人兄
弟』刊行/挿絵：アクセリ・ガレン＝カレラ/
ユルイェ・ウエイリン出版（ヘルシンキ）」
1907
リトグラフ、紙
110.0×70.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
ヴァイナミョイネンとアイノ
1890
油彩、キャンヴァス、ガレン＝カレラによ
るオリジナルの額付き
117.0×117.0
個人蔵

アクセリ・ガレン＝カレラ
書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画：
第4章より
1929
水彩、紙
22.0×14.5
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画：
第2章より
水彩、鉛筆、紙
52.5×33.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
ドア・ハンドル
木
L26.0×H7.5
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
ペーパー・ナイフ
木
L35.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
ペーパー・ナイフ
木
L35.5×W10.0
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ
ペーパー・ナイフ
木
L32.0×W8.5
ガレン＝カレラ美術館

アクセリ・ガレン＝カレラ ペーパー・ナイフ 木 L37.0 ガレン＝カレラ美術館	アクセリ・ガレン＝カレラ 書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画： 第2章より 水彩、紙 49.0×31.5 ガレン＝カレラ美術館	アクセリ・ガレン＝カレラ（挿絵・装丁） 原著：アレクシス・キヴィ 書籍『七人兄弟』（革特装版） 1931 印刷、紙 30.5×24.0×6.0 フィンランド大使館	ヴィクトル・ウェスターホルム レボサーリの水岸 1910 油彩、キャンヴァス 47.0×81.0 メリタ美術財団
アクセリ・ガレン＝カレラ ガレン＝カレラ自邸兼アトリエ「カレラ」 1901 デジタル画像による複製写真 ガレン＝カレラ美術館	アクセリ・ガレン＝カレラ 書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画： 第4章より 1929 水彩、紙 8.0×22.5 ガレン＝カレラ美術館	アクセリ・ガレン＝カレラ（挿絵・装丁） 原著：アレクシス・キヴィ 書籍『七人兄弟』（初版） 1908 印刷、紙 23.7×16.4×5.1 個人蔵	ヴィクトル・ウェスターホルム 冬のキュミ川にて 1919 油彩、キャンヴァス 69.0×128.5 UPMキュンメネ文化財団
アクセリ・ガレン＝カレラ ガレン＝カレラ自邸兼アトリエ「カレラ」 1901 デジタル画像による複製写真 ガレン＝カレラ美術館	アクセリ・ガレン＝カレラ 書籍『装丁本カレワラ』のためのデザイン 原画 水彩、鉛筆、紙 20.0×27.0 ガレン＝カレラ美術館	アクセリ・ガレン＝カレラ（装飾） スキー板 木 L300.0×W9.0 ガレン＝カレラ美術館	ウスコ・ニーストロム エーロ・ヤルネフェルト自邸兼アトリエ「ス ヴィランタ」 1901 デジタル画像 ヤルヴェンパー市立美術館
アクセリ・ガレン＝カレラ ガレン＝カレラ自邸兼アトリエ「カレラ」 1901 デジタル画像による複製写真 ガレン＝カレラ美術館	アクセリ・ガレン＝カレラ 書籍『装丁本カレワラ』のためのデザイン 原画 水彩、鉛筆、紙 20.0×14.5 ガレン＝カレラ美術館	アルヴィド・レイエルンド 田舎家の部屋で 1870 油彩、キャンヴァス 44.5×60.0 フォータム美術財団	エーロ・ヤルネフェルト スオミの風景 1903 油彩、キャンヴァス 152.0×222.0 フォータム美術財団
アクセリ・ガレン＝カレラ 1900年パリ万国博覧会フィンランド館、 「アイリスの間」のリュウ「炎」のスケッチ 1899 ウール 260.0×190.0 ガレン＝カレラ美術館	アクセリ・ガレン＝カレラ 書籍『装丁本カレワラ』のためのデザイン 原画 水彩、鉛筆、紙 21.0×16.0 ガレン＝カレラ美術館	アルベルト・エーデルフェルト ジャン・シペリウス 1904 鉛筆、木炭、水彩、グアッシュ、紙 55.0×40.0 アイノラ財団	エーロ・ヤルネフェルト コリ高原から望む 1927 グアッシュ、紙 81.0×126.0 フォータム美術財団
アクセリ・ガレン＝カレラ 1900年パリ万国博覧会フィンランド館、 「アイリスの間」の壁掛け「ライチョウ」 1899 毛（横糸）、綿（縦糸） 43.0×226.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム（ガ レン＝カレラ美術館に寄託）	アクセリ・ガレン＝カレラ（挿絵・装丁） 書籍『装丁本カレワラ』（初版・特別装丁版） 1922 木版、印刷、紙、革装 22.5×16.2×5.0 社団法人日本フィンランド協会	アンティ・ファヴェン 夏至祭の踊り 1911 油彩、キャンヴァス 115.0×124.0 メリタ美術財団	エーロ・ヤルネフェルト アルフレッド・ウィリアム・フィンチ エリエル・サーリネン 試作椅子「コティ」 1903 オーク（ワックス仕上げ）、ウール張地、真 鍮金具（ニッケル・メッキ） H132.0×W68.0×D63.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
アクセリ・ガレン＝カレラ 書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画： 第1章より 水彩、鉛筆、紙 52.5×33.0 ガレン＝カレラ美術館	アクセリ・ガレン＝カレラ（挿絵・装丁） 書籍『装丁本カレワラ』（1941年版） 1941 印刷、紙 23.0×15.0×5.4 個人蔵	ヴァイノ・アアルトネン アレクシス・キヴィ（フィンランド国立劇 場の前の彫刻） 1939 デジタル画像	エリエル・サーリネン 書斎用デスク・チェア 1908 D55.0×W50.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
アクセリ・ガレン＝カレラ 書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画： 第1章より 水彩、紙 52.5×33.0 ガレン＝カレラ美術館	アクセリ・ガレン＝カレラ（挿絵・装丁） 書籍『装丁本カレワラ』（復刻版） 1982 印刷、紙、箱付き 31.5×24.5×5.1 個人蔵	ヴァイノ・プロムシュテット タベストリー「生贄」（フィンランドの偶像 崇拜） 1901 毛（横糸）、綿（縦糸） 138.0×86.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	エリエル・サーリネン 鉄道省事務室の椅子 1909 オーク（ワックス仕上げ）、木彫装飾 H82.0×W52.0×D52.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
アクセリ・ガレン＝カレラ 書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画： 第1章より 水彩、紙 15.0×27.0 ガレン＝カレラ美術館	アクセリ・ガレン＝カレラ（挿絵・装丁） 書籍『七人兄弟』（1958年版） 1958 印刷、紙 23.2×15.5×5.4 個人蔵	ヴァイノ・プロムシュテット 冬景色 c.1890 油彩、キャンヴァス 42.0×60.0 メリタ美術財団	エリエル・サーリネン ヘルシンキ中央駅の事務椅子 1908/1909 オーク（ワックス仕上げ）、オーク積層合板 （座） H91.0×W41.5×D42.5 フィンランド・デザイン・ミュージアム
アクセリ・ガレン＝カレラ 書籍『大カレワラ』のためのデザイン原画： 第1章より 水彩、紙 44.5×33.0 ガレン＝カレラ美術館		ヴィクトル・ウェスターホルム カルヤーの冬景色 1912 油彩、キャンヴァス 66.0×141.0 アモス・アンダーソン美術館	

エリエル・サーリネン バラ図案のルイユ 1904 ウール 280.0×190.0 メリタ美術財団	エリエル・サーリネン 銀行小切手:500マルク (1922年版) 1922 紙、印刷 12.0×20.4 ノルデア銀行ヘルシンキ本店 銀行博物館・歴史資料室	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 オロフスボリ集合住宅 1903 デジタル画像	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 ヘルシンキ中央駅:側面バース (広場側) c.1904–1914 デジタル画像による複製図面 (原図:鉛筆、紙、縮尺不明) 68.0×132.0 フィンランド建築博物館
エリエル・サーリネン 椅子「ハンネス」 (ソルタヴァラのハンネス・サーリネン邸の椅子) c.1908 マホガニー (フレーム)、皮 (座) H80.0×W56.0×D52.0.SH45.0 ノルデア銀行ヘルシンキ本店 銀行博物館・歴史資料室	エリエル・サーリネン 銀行小切手:1.000マルク (1922年版) 1922 紙、印刷 12.0×20.4 ノルデア銀行ヘルシンキ本店 銀行博物館・歴史資料室	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 エオル集合住宅:立面図 (ルオツィ通り側ファサード) 1901 デジタル画像による複製図面 (原図:インク、水彩、水彩用紙、縮尺1:66.66) 63.5×99.7 フィンランド建築博物館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 ヘルシンキ中央駅:大コンコースのバース 1913 デジタル画像による複製図面 (原図:インク、茶紙、縮尺不明) 48.5×56.0 フィンランド建築博物館
エリエル・サーリネン カンサリス・オサケ銀行ソルタヴァラ支店インテリア (a)レアンダー・ビルディング外観(b)接客ゾーン(c)支店長室 1905 (a)1906 (b)c.1911(c) デジタル画像による複製写真 ノルデア銀行ヘルシンキ本店 銀行博物館・歴史資料室	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 1900年パリ万国博覧会フィンランド館 1900 デジタル画像による複製写真 フィンランド建築博物館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 エオル集合住宅:立面図 (カタヤノッカ通り側ファサード) 1901 デジタル画像による複製図面 (原図:インク、水彩、水彩用紙、縮尺1:66.66) 64.5×100.0 フィンランド建築博物館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 ヘルシンキ中央駅:待合室バース 1910 デジタル画像による複製図面 (原図:インク、茶紙、縮尺不明) 19.0×35.5 フィンランド建築博物館
エリエル・サーリネン 銀行小切手:50マルク (1909年版) 1909 紙、印刷 9.3×15.5 ノルデア銀行ヘルシンキ本店 銀行博物館・歴史資料室	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 ボホヨラ保険会社ビルディング 1901 デジタル画像による複製写真 フィンランド建築博物館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 エオル集合住宅 1903 デジタル画像	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 ヘルシンキ中央駅:待合コンコースのバース 1911 デジタル画像による複製図面 (原図:鉛筆、水彩、紙、縮尺不明) 43.0×57.0 フィンランド建築博物館
エリエル・サーリネン 椅子「ハンネス」 (ソルタヴァラのハンネス・サーリネン邸の椅子) c.1908 マホガニー (フレーム)、皮 (座) H80.0×W56.0×D52.0.SH45.0 ノルデア銀行ヘルシンキ本店 銀行博物館・歴史資料室	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 ファビアン通り17番地の集合住宅:断面図 1900 デジタル画像による複製図面 (原図:トレーシング用布、インク、縮尺不明) 49.5×63.5 ヘルシンキ市政資料室・行政裁判所	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 「ヴィトレスク」:サーリネン邸とリンドグレン邸の立面図 (中庭側ファサード) 1902 デジタル画像による複製図面 (原図:インク、水彩、厚紙、縮尺1:50) 56.5×133.0 フィンランド建築博物館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 カレワラ会館案:敷地・全体俯瞰図 1921 デジタル画像による複製図面 (原図:鉛筆、スケッチ用紙、縮尺不明) 55.0×89.0 フィンランド建築博物館
エリエル・サーリネン 銀行小切手:100マルク (1909年版) 1909 紙、印刷 10.2×17.0 ノルデア銀行ヘルシンキ本店 銀行博物館・歴史資料室	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 ファビアン通り17番地の集合住宅:1階平面図 1900 デジタル画像による複製図面 (原図:トレーシング用布、インク、縮尺不明) 50.0×63.0 ヘルシンキ市政資料室・行政裁判所	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 「ヴィトレスク」:サーリネン邸とリンドグレン邸の立面図 (湖側ファサード) 1902 デジタル画像による複製図面 (原図:インク、水彩、厚紙、縮尺1:50) 56.5×133.0 フィンランド建築博物館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 カレワラ会館案:外観バース (海側) 1921 デジタル画像による複製図面 (原図:鉛筆、スケッチ用紙、縮尺不明) 26.5×75.5 フィンランド建築博物館
エリエル・サーリネン 銀行小切手:1.000マルク (1909年版) 1909 紙、印刷 12.0×20.0 ノルデア銀行ヘルシンキ本店 銀行博物館・歴史資料室	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 ファビアン通り17番地の集合住宅 1901 デジタル画像	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 「ヴィトレスク」:サーリネン邸とスタジオ 1903 デジタル画像	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 ファビアン通り17番地の集合住宅:立面図 (ボホヨイネン・マカシーン通り側ファサード) 1900 デジタル画像による複製図面 (原図:トレーシング用布、インク、縮尺不明) ヘルシンキ市政資料室・行政裁判所
エリエル・サーリネン 銀行小切手:100マルク (1922年版) 1922 紙、印刷 12.0×13.6 ノルデア銀行ヘルシンキ本店 銀行博物館・歴史資料室	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 オロフスボリ集合住宅:立面図 (カウッピアーン通り側ファサード) 1901 デジタル画像による複製図面 (原図:インク、水彩、水彩用紙、縮尺1:66.66) 57.5×99.5 フィンランド建築博物館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築 設計事務所 ヘルシンキ中央駅:正面バース c.1904–1914 デジタル画像による複製図面 (原図:鉛筆、紙、縮尺不明) 59.0×131.0 フィンランド建築博物館	

ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 クマのフリーズ装飾:エリエル・サーリネン 1900年バリ万国博覧会フィンランド館:正面入口のフリーズ装飾「クマ」 1900 デジタル画像による複製写真 フィンランド建築博物館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 装飾・家具デザイン:ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 木工:ヘルシンキ・プーセツパテダス工務店 壁面装飾+ステンドグラス:S.ウオリオ装飾工房+エミール・ティアーアイネン ポホヨラ保険会社ビルディング:玄関ホールと中央階段 1901 デジタル画像による複製写真 フィンランド建築博物館	トーヴェ・ヤンソン 無題 (書籍『ムーミン谷の仲間たち』のための挿絵原画) 1930-1939 水彩、紙 14.6×13.2 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション	トーヴェ・ヤンソン スナフキンのママのおばさんが持っていた天蓋つきベッド (書籍『ムーミン谷の仲間たち』のための挿絵原画) 1962 インク、紙 19.5×11.5 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション
ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 クマの彫刻:エミール・ウィクストローム 1900年バリ万国博覧会フィンランド館:屋上の彫刻「クマ」 1900 デジタル画像による複製写真 フィンランド建築博物館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 装飾・家具デザイン:ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 木工:ヘルシンキ・プーセツパテダス工務店 壁面装飾+ステンドグラス:S.ウオリオ装飾工房+エミール・ティアーアイネン ポホヨラ保険会社ビルディング:階段室 1901 デジタル画像による複製写真 フィンランド建築博物館	トーヴェ・ヤンソン 壁の穴から「沈黙の園」を眺めるヘムレンさん (書籍『ムーミン谷の仲間たち』のための挿絵原画) 1962 インク、紙 18.2×12.1 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション	トーヴェ・ヤンソン 一家の写真:1878年、ヘルシンキにて (書籍『ムーミン谷の冬』のための挿絵原画) 1957 インク、紙 9.5×13.0 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション
ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 フレスコ画:アクセリ・ガレン=カレラ 1900年バリ万国博覧会フィンランド館:内部 1900 デジタル画像による複製写真 ガレン=カレラ美術館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 壁面装飾+ステンドグラス:S.ウオリオ装飾工房+エミール・ティアーアイネン ポホヨラ保険会社ビルディング:階段室 1901 デジタル画像による複製写真 フィンランド建築博物館	トーヴェ・ヤンソン 日曜日の雪合戦 (書籍『ムーミン谷の冬』のための挿絵原画) 1957 インク、紙 12.3×12.6 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション	トーヴェ・ヤンソン 海泡石の電車のなかで泣いているサロメちゃん (書籍『ムーミン谷の冬』のための挿絵原画) 1957 インク、紙 9.0×13.5 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション
ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 リスのフリーズ装飾:エリエル・サーリネン 1900年バリ万国博覧会フィンランド館:東側入口のフリーズ装飾「リス」 1900 デジタル画像による複製写真 フィンランド建築博物館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 装飾・家具デザイン:ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 木工:ヘルシンキ・プーセツパテダス工務店 壁面装飾+ステンドグラス:S.ウオリオ装飾工房+エミール・ティアーアイネン ポホヨラ保険会社ビルディング:中央階段室の彫刻柱 1901 デジタル画像による複製写真 フィンランド建築博物館	トーヴェ・ヤンソン 雨のなかをやって来たスナフキン (書籍『ムーミン谷の11月』のための挿絵原画) 1970 インク、紙 11.1×18.1 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション	トーヴェ・ヤンソン 雪のなかのムーミンとミィ (書籍『ムーミン谷の冬』のための挿絵原画) 1957 インク、紙 8.9×15.4 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション
ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 家具「白樺」:エリエル・サーリネン 椅子、ルイユ (敷物)「炎」、壁掛け「ライチョウ」:アクセリ・ガレン=カレラ 1900年バリ万国博覧会フィンランド館:「アイリスの間」 1900 デジタル画像による複製写真 ガレン=カレラ美術館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 彫刻:エミール・ウィクストローム ヘルシンキ中央駅 1914 デジタル画像	トーヴェ・ヤンソン スクルッタおじさんが夢見た小川 (書籍『ムーミン谷の11月』のための挿絵原画) 1970 インク、カードボード 15.7×14.4 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション	トーヴェ・ヤンソン 夏休みに出かけるひとびと (雑誌『ガラム』1950年9号のための挿絵原画) 1950 インク、紙 11.7×14.4 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション
ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 装飾・家具デザイン:ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 木工:ヘルシンキ・プーセツパテダス工務店 壁面装飾+ステンドグラス:S.ウオリオ装飾工房+エミール・ティアーアイネン ポホヨラ保険会社ビルディング:接客ゾーン 1901 デジタル画像による複製写真 フィンランド建築博物館	ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所 彫刻:ヒルダ・フローディン 入口扉:エリック・エルストロム ポホヨラ保険会社ビルディング:正面入口(アレクサンテル通り側) 1901 デジタル画像による複製写真 フィンランド建築博物館	トーヴェ・ヤンソン 無題 (書籍掲載なし) インク、紙 17.1×13.4 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション	トーヴェ・ヤンソン 月夜の密造酒づくり (雑誌『ガラム』1951年1号のための挿絵原画) 1951 インク、紙 29.8×20.2 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション
	トーヴェ・ヤンソン 浜辺のたき火に当たるムーミンたち (書籍『小さなトロールと大きな洪水』のための挿絵原画) 1945 インク、紙 9.0×17.2 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション	トーヴェ・ヤンソン スクレーピング (引っ掻き)、黒いカードボード 18.8×13.0 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション	トーヴェ・ヤンソン 若い女性 (自画像) 1942 油彩、キャンヴァス 96.0×80.0 スオミ相互生命保険会社
		トーヴェ・ヤンソン ファンタジー 1954 テンペラ、キャンヴァス 104.5×300.0 メリタ美術財団	

トーヴェ・ヤンソン（挿絵・装丁・著） 書籍『ムーミン谷の冬』（初版、ハード・カバー） 1957 印刷、紙 18.5×13.0×1.8 個人蔵	トーヴェ・ヤンソン（挿絵・装丁・著） 書籍『ムーミン谷の仲間たち』（初版、ハード・カバー） 1962 印刷、紙 18.5×13.0×1.7 個人蔵	ベッカ・ハロネン、アンティ・ハロネン ベッカ・ハロネン自邸兼アトリエ「ハロセニエミ 1902 デジタル画像 トゥースラ市立美術館「ハロセニエミ」	猪熊弦一郎（挿絵） 翻訳：森本覚丹 書籍『フィンランド国民的叙事詩カレワラ』（邦訳初版・上製版） 1937 印刷、紙 27.0×19.5×5.5 フィンランド大使館
トーヴェ・ヤンソン（挿絵・装丁・著） 書籍『たのしいムーミン一家』（初版、ハード・カバー） 1948 印刷、紙 8.7×13.2×1.9 個人蔵	ハンナ・ロンベリ 冬の午後 1893 油彩、キャンヴァス 42.0×55.0 メリタ美術財団	ミハエル・シルキン フクロウ 1960 陶 H24.0 フォータム美術財団	路谷紅児（挿絵・装丁） 原著：アレクシス・キヴィ 翻訳：森本ヤス子 書籍『七人兄弟』（邦訳初版） 1942 印刷、紙 13.0×8.0×2.5 フィンランド大使館
トーヴェ・ヤンソン（挿絵・装丁・著） 書籍『たのしいムーミン一家』（初版、ソフト・カバー） 1948 印刷、紙（ソフトカバー） 18.7×12.2×1.2 個人蔵	ベール・オロフ・ヤンソン アトリエで制作中のトーヴェ・ヤンソン デジタル画像による複製写真 タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション	ユッシ・マンティネン 若い牡鹿（ハラジカ） 1949 ブロンズ H35.0 フォータム美術財団	第2章 モダン・デザインの黄金時代
トーヴェ・ヤンソン（挿絵・装丁・著） 書籍『ムーミンババの思い出』（初版、ハード・カバー） 1950 印刷、紙 18.7×12.8×1.6 個人蔵	ベッカ・ハロネン 冬の松 1908 油彩、キャンヴァス 117.5×70.0 メリタ美術財団	ユッシ・ラーサネン・ヴァイオリン工房（フィンランド） 5弦カンテレ（民族楽器） 2009 木、木製ベグ、馬素弦 L70.0×D12.0×H6.0 日本カンテレ友の会桑島実穂氏	カイ・フランク ボウル「DA」 1946 陶器（ファヤンス焼き） H9.2×φ16.9 フィンランド・デザイン・ミュージアム
トーヴェ・ヤンソン（挿絵・装丁・著） 書籍『ムーミン谷の夏まつり』（初版、ハード・カバー） 1954 印刷、紙 18.6×12.3×1.5 個人蔵	ベッカ・ハロネン 冬景色 1915 油彩、キャンヴァス 70.5×50.0 アイノラ財団	ラルス・ソנק シベリウス夫妻自邸「アイノラ」 1904 デジタル画像 アイノラ財団	カイ・フランク カップ&ソーサー「TM」 1948 磁器 upH4.5×φ6.6, saucerH8.7×φ11.8 フィンランド・デザイン・ミュージアム
トーヴェ・ヤンソン（挿絵・装丁・著） 書籍『ムーミン谷の仲間たち』（初版、ハード・カバー） 1962 印刷、紙 18.5×13.0×1.7 個人蔵	ベッカ・ハロネン 材木を流す人々 1925 油彩、キャンヴァス 74.0×177.0 UFMキュンメネ文化財団	ルイス・スパーレ 教会からの帰路 1896 油彩、キャンヴァス 37.5×56.0 アモス・アンダーソン美術館	カイ・フランク クリーム・サーヴァー「MK」 1948 磁器、コルク（蓋） H12.5×φ6.7 フィンランド・デザイン・ミュージアム
トーヴェ・ヤンソン（挿絵・装丁・著） 書籍『ムーミンババ海へ行く』（初版、ハード・カバー） 1965 印刷、紙 21.0×13.5×1.8 個人蔵	ベッカ・ハロネン 風景 1918 油彩、キャンヴァス 74.0×65.0 メリタ美術財団	作者不明 アレクシス・キヴィ終焉の家 デジタル画像 トゥースラ市立美術館「ハロセニエミ」	カイ・フランク 蓋付き容器「IS」 1949 陶器（ファヤンス焼き） H7.0×φ15.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
トーヴェ・ヤンソン（挿絵・装丁・著） 書籍『ムーミンババ海へ行く』（初版、ソフト・カバー） 1965 印刷、紙 21.0×13.5×1.8 個人蔵	ベッカ・ハロネン サンボの略奪（スケッチ） 1919 グアッシュ、木炭、鉛筆、紙 43.0×33.5 メリタ美術財団	作者不明 トゥオヒトルヴィ（民族楽器） 1978 白樺の皮 L45.2×φmax7.8 国立音楽大学楽器学資料館	カイ・フランク 蓋付き容器「IS」 1949 陶器（ファヤンス焼き） H12.5×φ10.9 フィンランド・デザイン・ミュージアム
トーヴェ・ヤンソン（挿絵・装丁・著） 書籍『ムーミンババ海へ行く』（初版、ソフト・カバー） 1965 印刷、紙 21.0×13.5×1.8 個人蔵	ベッカ・ハロネン 冬 1900 油彩、キャンヴァス 98.5×67.5 個人蔵	小坂憲正 オマージュ作品「カレワラ会館2012」 2012 千年杉（尾鷲）、木彫 作家蔵	カイ・フランク カップ&ソーサー「BA:キルタ」 1951–1952 陶器（ファヤンス焼き） cupH5.5×φ8.0, saucerH2.0×φ13.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム

カイ・フランク 蓋付きクリーム・サーヴァー「BA:キルタ」 1951－1952 陶器（ファヤンス焼き） H6.0×φ8.5 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 塩入れ「F」 1952 耐火粘土器（シャモット） H6.0×φ4.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ボウル「ビトボイタ657」 1977 プラスチック H7.7×17.0×19.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ピッチャー「Tupa5201」 1948 ガラス H16.2×φ11.5×W13.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
カイ・フランク シュガー・ボット「BA:キルタ」 1951－1952 陶器（ファヤンス焼き） H6.0×φ8.5 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク フィンランド国有鉄道食堂車の角皿「G」 1955 陶器（ファヤンス焼き） H3.0×20.5×20.5 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ティー・カップ&ソーサーBAU「ティーマ」 1979－1980 陶 cup:H6.0×φ8.0/220ml, plate:H2.5×φ14.0 スキャンデックス	カイ・フランク 皿「Tupa5230－145」 1948 ガラス H2.5×φ14.1 フィンランド・デザイン・ミュージアム
カイ・フランク 大皿「BA:キルタ」 1951－1952 陶器（ファヤンス焼き） H3.0×φ28.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 蓋付き容器「IA」 1957－1959 陶器（ファヤンス焼き） H6.1×11.0×11.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク マグカップBAU「ティーマ」 1979－1980 陶 H8.0×φ8.0/300ml スキャンデックス	カイ・フランク ボウル「Tupa5231－205」 1948 ガラス H8.5×φ21.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
カイ・フランク 皿「BA:キルタ」 1951－1952 陶器（ファヤンス焼き） H2.5×φ23.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク オードブル皿「KF1」 1957 陶器（ファヤンス焼き） H8.0×23.1×23.1 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 皿BAU「ティーマ」 1979－1980 陶 H3.3×φ26.0 スキャンデックス	カイ・フランク ゴブレット「11111－012」 1953 ガラス H8.1×φ6.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
カイ・フランク 大角皿「BA:キルタ」 1951－1952 陶器（ファヤンス焼き） H4.0×W21.0×L31.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク オードブル皿「KF2」 1957 陶器（ファヤンス焼き） H4.0×30.5×25.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 皿BAU「ティーマ」 1979－1980 陶 H3.0×φ21.0 スキャンデックス	カイ・フランク タンブラー「5023－035」 1948 ガラス H12.4×φ8.5 フィンランド・デザイン・ミュージアム
カイ・フランク 角皿「BA:キルタ」 1951－1952 陶器（ファヤンス焼き） H4.0×13.5×3.5 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク オードブル皿「KF3」 1958 陶器（ファヤンス焼き） H8.0×23.1×23.1 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 長方形大皿BAU「ティーマ」 1979－1980 陶 H4.5×24.0×32.0 スキャンデックス	カイ・フランク タンブラー「2744－020」 1955 ガラス H8.1×φ8.1 フィンランド・デザイン・ミュージアム
カイ・フランク 深皿「BA:キルタ」 1951－1952 陶器（ファヤンス焼き） H5.0×φ15.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ボウル 1957 スチール（エナメル塗装） H6.0×φ14.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 正方形野菜皿BAU「ティーマ」 1979－1980 陶 H4.5×16.0×16.0 スキャンデックス	カイ・フランク タンブラー「2744」の贈答用パッケージ 1955 印刷、紙 H18.0×φ8.2 フィンランド・デザイン・ミュージアム
カイ・フランク ボウル「SA/BA:キルタ」 1952 陶器（ファヤンス焼き） H7.0×φ13.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 冷蔵庫用ボックス 1957 スチール（エナメル塗装） H8.5×15.0×15.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 深皿BAU「ティーマ」 1979－1980 陶 H5.5×φ15.0 スキャンデックス	カイ・フランク タンブラー「1711」 1958 ガラス H12.5×φ7.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
カイ・フランク 持ち手付き角皿「BA:キルタ」 1951－1952 陶器（ファヤンス焼き）、籐（フレーム） H4.0×13.5×3.5 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク マグ「ビトボイタ290」 1977 プラスチック H6.5×φ9.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク タンブラー「Tupa」 1948 ガラス H7.5×φ7.3 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ピッチャー「5601」 1954 ガラス H14.3×φ13.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
カイ・フランク 蓋付き水差し「BA:キルタ」 1951－1952 陶器（ファヤンス焼き） H17.0×φ14.0.W19.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ボウル「ビトボイタ664」 1977 プラスチック H2.2×22.0×25.7 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク カップ「Tupa」 1948 ガラス H6.7×φ10.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ピッチャー「1609－090」 1954 ガラス H23.2×φ8.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム

カイ・フランク ピッチャー「1621」 1954 ガラス、藤（持ち手） H23.0×φ14.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 蓋付き花瓶「ブルティロ3418」 1963 ガラス、カバ（蓋） H12.2×φ10.8 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ワイン・グラス「セルヴス5045-023」 1966 ガラス H12.0×φ6.7 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 自然形態から製品のデザインへ（ドローイング） 1970's インク、紙 24.0×18.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
カイ・フランク ピッチャー「1610」 1956 ガラス H22.0×φ10.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 蓋付き花瓶「ブルティロ3419-240」 1960 H24.1×φ15.5 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク マデイラ・ワイン・グラス「サラ2179-006」 1969 ガラス H7.7×φ5.2 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 蓋物BAU「ティーマ」 1979-80 陶 H12.5×φ10.5 スキャンデックス
カイ・フランク カクテル・ミキサー 1950's ガラス H22.0×φ11.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク タンブラー「ルスティカ1770-015」 1963 ガラス H7.7×φ6.3 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ワイン・グラス「サラ2179-015」 1969 ガラス H9.1×φ9.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 皿BAU「ティーマ」 1979-1980 陶 H3.3×φ23.0 スキャンデックス
カイ・フランク 皿「5268」 1954 ガラス H2.0×φ20.9 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ジョッキ「ルスティカ1771-030」 1963 ガラス H11.5×φ7.3 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク デザート・ボウル「サラ2179-034」 1969 ガラス H8.8×φ11.3 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 皿BAU「ティーマ」 1979-1980 陶 H2.5×φ17.0 スキャンデックス
カイ・フランク 角皿「5269-135」 1954 ガラス H2.0×14.3×14.3 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ピッチャー「ルスティカ1649-100」 1963 ガラス H15.5×φ11.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 皿・ボウル用リング 1974 ガラス H2.0-4.0×φ10.0-15.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 小皿セット「ティーマ」 2011 陶 円形H2.0×φ12.0, 三角形H3.0×12.0×12.0, 四角形H4.0×12.5×12.5 スキャンデックス
カイ・フランク c.1954 ガラス、スチール（持ち手） bucketH11.5×φ10.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク タンブラー「ルーツリタリ5011-020」 1966 ガラス H7.9×φ7.5 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 陶磁器デザインのドローイング 1950's 鉛筆、クレヨン、紙 8.0×17.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 蓋物BAU「ティーマ」 1979-1980 陶 H6.5×φ10.5 スキャンデックス
カイ・フランク 二重ボウル「1372」 1954 ガラス largeH20.0×φ21.2, smallH18.0×φ22.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク タンブラー「ルーツリタリ5011-030」 1963 ガラス H13.5×φ7.6 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ガラス器デザインのドローイング 1950's 鉛筆、クレヨン、紙 23.5×29.5 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ヴィネガー・ボトルBAU「ティーマ」 1979-80 陶、コルク（蓋） H14.0×6.0×5.5/0.2L スキャンデックス
カイ・フランク 調味料入れセット「2193」 1953 ガラス、ティーク inegarbottleH6.8×φ4.5, peppercasterH6.5×φ4.5, mustardjarH6.5×φ4.5, saltbowlH4.0×φ4.5, trayH1.0×14.0×14.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ジョッキ「ルーツリタリ5611-050」 1966 ガラス H12.2×φ8.1 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ガラス器デザインのドローイング 1950's 鉛筆、インク、タコ・カード（紙） 11.0×15.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 蓋付ピッチャーBAU「ティーマ」 1979-80 陶 H155×210×130/1.0L スキャンデックス
カイ・フランク オブジェ「KF235空飛ぶ円盤」 1955 ガラス H17.0×φ20.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク ワイン・グラス「セルヴス5045-012」 1966 ガラス H9.0×φ5.9 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク 皿・ボウル用リングのカラー・スキーム（ドローイング） c.1974 鉛筆、クレヨン、紙 23.0×22.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク タンブラー 1955 ガラス H8.0×φ8.0/210ml スキャンデックス
カイ・フランク ボウル「KF266」 1960 ガラス H15.0×φ18.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム			

カイ・フランク タンブラー 1955 ガラス H12.0×φ9.0/400ml スキャンデックス	カイ・フランク ゴブレット「1111-012」 1953 ガラス H8.1×φ6.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク タンブラー 1955 ガラス H8.0×φ8.0/210ml スキャンデックス	アルヴァ・アアルト チェアNo.23（バイミオ・サナトリウム旧蔵） 1929-1932 マホガニー（ニス塗装）、金属パイプ（ペンキ塗装） H80.0×W47.0×D58.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）
カイ・フランク タンブラーセット（専用パッケージ付き） 1955 ガラス（手吹き）、印刷、紙 glass+H7.5×φ7.5/200ml スキャンデックス	カイ・フランク ゴブレット「1111-012」 1953 ガラス H8.1×φ6.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク タンブラー 1955 ガラス H12.0×φ9.0/400ml スキャンデックス	アルヴァ・アアルト アームチェアNo.26（バイミオ・サナトリウム旧蔵） 1929-1932 マホガニー（ニス塗装）、金属パイプ（ペンキ塗装） H78.0×W63.0×D63.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）
カイ・フランク タンブラーセット（専用パッケージ付き） 1955 ガラス（手吹き）、印刷、紙 glass+H10.0×φ8.5/340ml スキャンデックス	カイ・フランク タンブラー「5023-018」 1948 ガラス +H7.5×φ7.8 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク タンブラー 1955 ガラス H12.0×φ9.0/400ml スキャンデックス	アルヴァ・アアルト アームチェア「バイミオ」（バイミオ・サナトリウム旧蔵） 1932 鋳型成形ブナ積層合板（ニス塗装）、成形カバ積層合板（ペンキ塗装） H60.0×W63.0×D86.0 アルヴァ・アアルト美術館
カイ・フランク 蓋付き容器「IS」 1949 陶器（ファヤンス焼き） H7.0×φ15.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク シュナップス・グラス「5023-006」 1948 ガラス H5.5×φ5.7 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク、カイ・エンヴァルト（協働デザイナー）、ウッラ・ブロコベ（協働デザイナー） トレイ付きオードブル皿「BA:キルタ」 1957 陶器（ファヤンス焼き）、プラスチック（トレイ） eachdish12.0×12.0×12.0, tray15.0(eachside) フィンランド・デザイン・ミュージアム	アルヴァ・アアルト アームチェアNo.41「バイミオ」 1932 成形カバ積層合板（ニス塗装:肘掛・脚）、曲木成形カバ合板（着色ニス塗装:背・座） H64.0×W60.0×D80.0.SH36.0 個人蔵
カイ・フランク マグカップBAU「ティーマ」 1979-1980 陶 H8.0×φ8.0/300ml スキャンデックス	カイ・フランク タンブラー「2744-020」 1955 ガラス H8.1×φ8.1 フィンランド・デザイン・ミュージアム	トーヴェ・ヤンソン ムーミン・マグカップ「万歳！」 2012 陶 H8.0×φ8.0/300ml スキャンデックス	アルヴァ・アアルト アーム・チェアNo.31／カンティレヴァー・アームチェア 1932 鋳型成形カバ積層合板（ニス塗装:肘掛・脚）、成形斑目カバ材（ニス塗装:背・座） H69.0×W61.0×D70.0 アルテック社（アルヴァ・アアルト美術館寄託）
カイ・フランク マグカップBAU「ティーマ」 1979-1980 陶 H8.0×φ8.0/300ml スキャンデックス	カイ・フランク タンブラー「2744-020」 1955 ガラス H8.1×φ8.1 フィンランド・デザイン・ミュージアム	カイ・フランク（トレイ）、サーラ・ホベア（皿） オードブル皿セット「1367」 プロトタイプ 1953 頃、制作 1955-1967 ヌータヤルヴィ社（フィンランド） ガラス、チーク 皿：H4.0×φ12.0、トレイ：30.0×30.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	アルヴァ・アアルト アーム・チェアNo.31／カンティレヴァー・アームチェア 1932 鋳型成形カバ積層合板（ニス塗装:肘掛・脚）、成形斑目カバ材（ニス塗装:背・座） H69.0×W61.0×D70.0 アルテック社（アルヴァ・アアルト美術館寄託）
カイ・フランク マグカップBAU「ティーマ」 1979-1980 陶 H8.0×φ8.0/300ml スキャンデックス	カイ・フランク タンブラー「1711」 1958 ガラス H12.5×φ7.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	アルヴァ・アアルト ムーラメ教会の椅子（オリジナル） 1928 鍛鉄、革 H92.0×W96.0×D58.0 ユヴァスキラ中央フィンランド博物館（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト アーム・チェアNo.42 1932 成形カバ積層合板（ニス塗装:肘掛・脚）、曲木成形カバ合板（着色ニス塗装:背・座） H72.0×W60.0×D75.0.SH33.0 個人蔵
カイ・フランク マグカップBAU「ティーマ」 1979-1980 陶 H8.0×φ8.0/300ml スキャンデックス	カイ・フランク タンブラー「1711」 1958 ガラス H12.5×φ7.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	アルヴァ・アアルト スタッキング・チェアNo.11（バイミオ・サナトリウム旧蔵） 1929 カバ（ニス塗装） H80.0×W48.5×D49.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト アーム・チェアNo.34／カンティレヴァー・アームチェア（バイミオ・サナトリウム旧蔵） 1933 鋳型成形ブナ積層合板（ニス塗装:肘掛・脚）、クロス厚張り（クッション材入り:背・座） H74.0×W61.0×D72.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）
カイ・フランク マグカップBAU「ティーマ」 1979-1980 陶 H8.0×φ8.0/300ml スキャンデックス	カイ・フランク タンブラー「ルスティカ1770-015」 1963 ガラス H7.7×φ6.3 フィンランド・デザイン・ミュージアム	アルヴァ・アアルト チェアNo.611 1929 成形カバ積層合板（ニス塗装:フレーム）、麻布（クロス編み:背・座） H80.0×W48.5×D49.0.SH45.0 個人蔵	
カイ・フランク 小皿セット「ティーマ」 2011 陶 円形H2.0×φ12.0、三角形H3.0×12.0×12.0、四角形H4.0×12.5×12.5 スキャンデックス	カイ・フランク タンブラー 1955 ガラス H8.0×φ8.0/210ml スキャンデックス		

アルヴァ・アアルト アームチェアNo.402 1933 成形カバ積層合板（ニス塗装：肘掛・脚）、クロス厚張り（スプリング、ポリウレタン及びポリエステル製クッション材入り：背・座） H76.0×W61.0×D70.0,SH42.0 個人蔵	アルヴァ・アアルト スツールNo.×600 1954 成形カバ積層合板（ニス塗装：脚・座）、革（座） H45.0×W38.0×D38.0 個人蔵	アルヴァ・アアルト ペンダント・ランプNo.A330 1954 真鍮（研磨仕上げ）、プラスチック製ケーブル shade:H22.0×φ18.0, base:H6.0×φ10.0, cable:L200.0 個人蔵	アルヴァ・アアルト フロア・ランプ「天使の翼」No.A805 1956 スチール（焼付塗装仕上げ／無垢）、革H173.0, shade:W33.0×D51.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）
アルヴァ・アアルト アーム・チェアNo.401／カンティレヴァー・アームチェア 1933 鋳型成形カバ積層合板（ニス塗装：肘掛・脚）、クロス厚張り（クッション材入り：背・座） H98.0×W62.0×D82.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト バイミオ・サナトリウムの壁付照明（バイミオ・サナトリウム旧蔵） 1933 スチール（塗装仕上げ）、金属（無塗装） H26.0×φ9.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト ペンダント・ランプ「コケモモ」No.A338 1958 アルミニウム（焼付塗装仕上げ） H22.0×φ19.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト フロア・ランプNo.A805 1956 スチール（塗装仕上げ：傘）、真鍮（研磨仕上げ：支柱）、革（ベース及びスタンドのカヴァー）、プラスチック製ケーブル base:φ52.0, stand:H174.0, cable:L250.0 個人蔵
アルヴァ・アアルト アームチェアNo.401 1933 成形カバ積層合板（ニス塗装：肘掛・脚）、ウール・クロス厚張り（スプリング、ポリウレタン及びポリエステル製クッション材入り：背・座） H105.0×W62.5×D80.0,SH40.0 個人蔵	アルヴァ・アアルト バイミオ・サナトリウムの壁付照明（バイミオ・サナトリウム旧蔵） 1933 金属、半透明ガラス H30.0×φ35.5 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト ペンダント・ランプNo.A338 1958 スチール（塗装仕上げ）、プラスチック製ケーブル shade:H22.0×φ18.0, base:H6.0×φ12.0, cable:L250.0 個人蔵	アルヴァ・アアルト デスク・ランプ「シニョン」No.A704 1957 スチール、真鍮（焼付塗装仕上げ）、革H38.0×φ40.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）
アルヴァ・アアルト バイミオ・サナトリウムのスツール（バイミオ・サナトリウム旧蔵） 1932 カバ（ニス塗装）、金属パイプ H43.5×φ48.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト バイミオ・サナトリウムのテーブル／枕元用照明（バイミオ・サナトリウム旧蔵） 1933 金属（塗装・無塗装） H30.0×φc.25.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト ペンダント・ランプ「手榴弾」No.A110 1951ー1952 真鍮（焼付塗装仕上げ／無塗装） H41.0×φ15.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト 木工レリーフ 1930's 鋳型成形カバ積層合板（ニス塗装：レリーフ）、カバ（ベース） H33.0×W38.0×D16.0 アルヴァ・アアルト美術館
アルヴァ・アアルト スツールNo.60／L型脚のスツール 1933 鋳型成形カバ積層合板（ニス塗装：脚）、成形斑目カバ材（ニス塗装：座） H44.0×φ40.3 アルテック社（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト ペンダント・ランプ「黄金の鐘」 1937 真鍮 H20.0×φ16.0 アルヴァ・アアルト美術館	アルヴァ・アアルト ペンダント・ランプNo.A110 1952 アルミニウム（塗装仕上げ）、真鍮、プラスチック製ケーブル shade:H44.0×φ16.0, base:H5.0×φ13.0, cable:L250.0 個人蔵	アルヴァ・アアルト 木工レリーフ 1933 鋳型成形カバ積層合板（ニス塗装：レリーフ）、カバ（ベース） H46.0×W39.0×D5.0 アルヴァ・アアルト美術館
アルヴァ・アアルト スツールNo.60 1933 成形カバ積層合板（ニス塗装：脚）、カバ材（ニス塗装：座） H44.0×W38.0×D38.0 個人蔵	アルヴァ・アアルト トペンダント・ランプNo.A330S 1939 スチール（真鍮メッキ）、プラスチック製ケーブル shade:H20.0×φ17.0, base:H6.0×φ12.0, cable:L250.0 個人蔵	アルヴァ・アアルト ペンダント・ランプNo.A111 1961 金属（焼付塗装仕上げ） H46.0×φ18.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト 木工レリーフ 1936 鋳型成形カバ積層合板（ニス塗装：レリーフ）、カバ（ベース） H90.0×W84.0×D8.4 アルヴァ・アアルト美術館
アルヴァ・アアルト スツールNo.Y61 1947 成形カバ積層合板（ニス塗装：脚）、麻布（クロス編み：座） H44.0×W41.0×D41.0 個人蔵	アルヴァ・アアルト ペンダント・ランプNo.A440 1959 腐食オパール・ガラス、プラスチック製ケーブル shade:H23.0×φ19.0, base:H6.0×φ10.0, cable:L200.0 個人蔵	アルヴァ・アアルト シーリング・ライトNo.A624 1955 アルミニウム（焼付塗装仕上げ） H30.0×φ45.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト 木工レリーフ 1933 鋳型成形カバ積層合板（ニス塗装：レリーフ）、カバ（ベース） W33.6×W33.6×D3.0 アルヴァ・アアルト美術館
	アルヴァ・アアルト ペンダント・ランプ「黄金の鐘」第2版 No.A330 1950ー1953 真鍮 H24.0×φ13.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト ペンダント・ランプNo.A335 1955 アルミニウム（焼付塗装仕上げ） H42.0×φ31.0 ユヴァスキラ市（アルヴァ・アアルト美術館寄託）	アルヴァ・アアルト 木工レリーフ 1947 鋳型成形カバ積層合板（ニス塗装：レリーフ）、カバ（ベース） W75.0×W68.0×D3.5 アルヴァ・アアルト美術館

アルヴァ・アアルト 木エレリーフ 1933 鋳型成形カバ積層合板（ニス塗装：レリーフ）、カバ（ベース） W35.0×W40.0×D4.0 アルヴァ・アアルト美術館	アンニカ・リマラ 生地「ブケッティ」のミニ・ドレス（クルーヴィ） 1964、1967 綿プリント L81.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	アンニカ・リマラ ユニヴァーサル・クロージング「パロ」シリーズ 1971 綿プリント L67.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	イシモト・フジオ 生地「オラス」のフード付きドレス（ユルツタ） 1976、1977 綿プリント L150.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
アルヴァ・アアルト 木エレリーフ 1954 鋳型成形カバ積層合板（ニス塗装：レリーフ）、カバ（ベース） W60.0×W45.0×D13.5 アルヴァ・アアルト美術館	アンニカ・リマラ 生地「クッカ」のドレス（カヴァル） 1965 綿プリント フィンランド・デザイン・ミュージアム	アンニカ・リマラ ユニヴァーサル・クロージング「タサライタ」シリーズ 1967 綿プリント L25.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	イシモト・フジオ 生地「オラス」のドレス（ラッラス） 1976、1977 綿プリント L166.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
アルヴァ・アアルト ドア・ハンドル 1950's ブロンズ H25.0×W14.5×D9.0 アルヴァ・アアルト美術館	アンニカ・リマラ 生地「ケイダス」のドレス（カシノ） 1967 綿プリント L92.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	アンニカ・リマラ ユニヴァーサル・クロージング「タサライタ」シリーズ 1967 綿プリント L40.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	イシモト・フジオ 生地「ヤマ」 1977 綿プリント L930.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
アルヴァ・アアルト スツールNo.60 1933 成形カバ積層合板（ニス塗装：脚）、カバ材（ラミネート貼り：座） H44.0×W38.0×D38.0 個人蔵	アンニカ・リマラ 生地「ペトローリ」のドレス（シルクス） 1963 綿プリント L85.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	アンニカ・リマラ ユニヴァーサル・クロージング「タサライタ」シリーズ 1967 綿プリント L60 フィンランド・デザイン・ミュージアム	イシモト・フジオ 生地「タイガ」 1978 綿プリント L100.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
アルヴァ・アアルト スツールNo.60 1933 成形カバ積層合板（ニス塗装：脚）、カバ材（リノリウム貼り：座） H44.0×W38.0×D38.0 個人蔵	アンニカ・リマラ 生地「イソ・ライネ」のドレス（ティール） 1965 綿プリント L84.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	アンニカ・リマラ ユニヴァーサル・クロージング「タサライタ」シリーズ 1967 綿プリント L125.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ヴオッコ・ヌルメスニエミ 生地「プレニッカ」のドレス（ヌトゥカス） 1959 綿プリント L96.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
アルヴァ・アアルト スツールNo.60 1933 成形カバ積層合板（ベンキ塗装：脚）、カバ材（ベンキ塗装：座） H44.0×W38.0×D38.0 個人蔵	アンニカ・リマラ 生地「ビルヴィ」のドレス（ヨクセリ） 1963、1966 綿プリント L101.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	アンニカ・リマラ ユニヴァーサル・クロージング「タサライタ」シリーズ 1967 綿プリント L65.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ヴオッコ・ヌルメスニエミ 生地サンプル帳「ピッコロ」 1953 綿プリント、紙ラベル 30.0×30.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
アルヴァ・アアルト スツールNo.60 1933 成形カバ積層合板（ベンキ塗装：脚）、カバ材（ベンキ塗装：座） H44.0×W38.0×D38.0 個人蔵	アンニカ・リマラ 生地「ルーック」のドレス（ソッケリ） 1963 綿プリント L93.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	アンニカ・リマラ ユニヴァーサル・クロージング「パロ」シリーズ 1971 綿プリント L142.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ヴオッコ・ヌルメスニエミ 生地サンプル帳「ピッコロ」 1953 綿プリント、紙ラベル 30.0×30.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
アルヴァ・アアルト スツールNo.60 1933 成形カバ積層合板（ベンキ塗装：脚）、カバ材（ベンキ塗装：座） H44.0×W38.0×D38.0 個人蔵	アンニカ・リマラ ユニヴァーサル・クロージング「タサライタ」シリーズ 1967 綿プリント L20 フィンランド・デザイン・ミュージアム	アンニカ・リマラ、オイヴァ・トイッカ（生地） 生地「クークナ」のシャツ・ドレス（フィリップボヴナ） ※クークナ＝月（時間） 1961、1960 綿プリント L89.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ヴオッコ・ヌルメスニエミ 生地「ピッコロ」のシャツ（ヨカポイカ） ※ヨカポイカ＝誰も皆 1953、1956 綿プリント L50.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム

ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地「ピッコロ」のシャツ・ドレス（ティッ テリ） 1953、1959 綿プリント L85.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地サンブル帳「ピッコロ」 1953 綿プリント、紙ラベル 30.0×30.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ベンティ・リント 生地「ライック」のドレス（ミスティ） 1971 綿プリント L86.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ミーラ・ズカレ ホームタウン・マグカップ「公園」 2012 陶 H8.0×φ8.0/300ml スキャンデックス
ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地「ノッパ」のジャンプ・スーツ 1954、1950's 綿プリント L92.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地「ナスティ」のドレス（ヘイルヘルマ） ※ナスティ＝釘の目 1957、1958 綿プリント L92.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ベンティ・リント 生地「ルースケ」のドレス（ライナ） 1974 綿プリント L147.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ミーラ・ズカレ ホームタウン・マグカップ「海」 2012 陶 H8.0×φ8.0/300ml スキャンデックス
ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地「ガレリア」のシャツ（カールナバイ タ） 1956、1959 綿プリント L78.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ノーラ・ニーニコスキ、ワキサカ・カツジ （生地） 生地「カタラ」のドレス（オヴェラ） 1971、2011 綿プリント L85.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	マイヤ・イソラ 生地「アップルシーニ」 ※アップルシーニ＝オレンジ 1950 綿プリント W140.0ー150.0×L90.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ミーラ・ズカレ ホームタウン・マグカップ「街角」 2012 陶 H8.0×φ8.0/300ml スキャンデックス
ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地「エラマンランカ」のドレス 1954、1956 綿プリント L110.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ノーラ・ニーニコスキ、ワキサカ・カツジ （生地） 生地「カタラ」のドレス（オヴェラ） ※カタラ＝邪悪 1971、2011 綿プリント L82.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	マイヤ・イソラ 生地「キヴェット」 1956 綿プリント 個人蔵	ミーラ・ズカレ ホームタウン・マグカップ「ダウンタウン」 2012 陶 H8.0×φ8.0/300ml スキャンデックス
ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地「ナスティ」のドレス（ヘイルヘルマ） 1957、1958 綿プリント L92.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ベア・ヨセフソン マグカップHEL2012 2012 陶 H11.5×φ9.0/400ml スキャンデックス	マイヤ・イソラ 生地「マンティ」 ※マンティ＝松 1959 綿プリント W170.0×L135.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	リーサ・スヴァント、ワキサカ・カツジ（生 地） 生地「ティエット」の部屋着（コッペロ） 1974 綿プリント L146.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地「ビルプト・バラプト」のフード付き コート 1958 綿プリント L62.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ベア・ヨセフソン エスプレッソ・カップ&ソーサーHEL2012 2012 陶 cup:H6.5×φ6.0/100ml, saucer:H11.5×φ11.5 スキャンデックス	マイヤ・イソラ 生地「ヨーナス」 1961 綿プリント 個人蔵	ワキサカ・カツジ 生地「ハナ」 1969 綿プリント L250.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム
ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地「クールピーロ」のコート・ドレス（キ ラティエ） 1959 綿プリント L87.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ベア・ヨセフソン 皿HEL2012 2012 陶 H11.5×φ22.0 スキャンデックス	マイヤ・イソラ 生地「ロッキ」 1961 綿プリント 個人蔵	ワキサカ・カツジ 子どものための「ボボー」シリーズ 1974 個人蔵
ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地「クールピーロ」のコート・ドレス（キ ラティエ） 1959 綿プリント L87.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ベア・ヨセフソン 皿HEL2012 2012 陶 H11.5×φ22.0 スキャンデックス	マイヤ・イソラ 生地「ウニコ」 1964 綿プリント 個人蔵	ワキサカ・カツジ 生地「ブブー」 1974 個人蔵
ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地「ナディア」のコート・ドレス（イロイ ネン・タッキ） 1959、1960 綿プリント L94.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ベア・ヨセフソン ボウルHEL2012 2012 陶 H7.0×φ15.0/600ml スキャンデックス	マイヤ・イソラ 生地「カイヴォ」 1964 綿プリント 個人蔵	ワキサカ・カツジ 子どものための「ボボー」シリーズ 1974 個人蔵
ヴォッコ・ヌルメスニエミ 生地「ヘブスククー」 1957 綿プリント W95.0×L48.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ベンティ・リント 生地「レイム」のドレス（クーロケ） 1972 綿プリント L140.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	マイヤ・イソラ（生地） 生地「レツパケルットゥ」のスカート 1949、1951 綿プリント L64.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	ワキサカ・カツジ 子どものための「ボボー」シリーズ 1974 個人蔵
		ワキサカ・カツジ、ベンティ・リント（生地） 生地「ハッタラ」のチュニック（ハラッ ティ） 1970、1971 綿プリント L150.0 フィンランド・デザイン・ミュージアム	

第3章 「グッド・デザイン」 で生み出す

アアルト大学建築学部木工コース

Luukku House 1/50木製模型

2012

木

30.0×30.0×60.0

アアルト大学建築学部木工コース

アルヴァ・アアルト+アルテック社

2ndCycleプロジェクトで収集した椅子

個人蔵

アルヴァ・アアルト+アルテック社

2ndCycleプロジェクトで収集した椅子

個人蔵

アルヴァ・アアルト+アルテック社

2ndCycleプロジェクトで収集した椅子

個人蔵

アルヴァ・アアルト+アルテック社

2ndCycleプロジェクトで収集した椅子

個人蔵

アルヴァ・アアルト+アルテック社

2ndCycleプロジェクトで収集した椅子

個人蔵

アルヴァ・アアルト+アルテック社

2ndCycleプロジェクトで収集した椅子

個人蔵

アルヴァ・アアルト+アルテック社

2ndCycleプロジェクトで収集した椅子

個人蔵

アルヴァ・アアルト+アルテック社

2ndCycleプロジェクトで収集した椅子

個人蔵

アルヴァ・アアルト+アルテック社

2ndCycleプロジェクトで収集した椅子

個人蔵

アルヴァ・アアルト+アルテック社

2ndCycleプロジェクトで収集した椅子

個人蔵

アルヴァ・アアルト+アルテック社

スツールNo.60

個人蔵

アルヴァ・アアルト+アルテック社

ペンダント・ランプA338

個人蔵

イオナ・イロットゥ+ベトリ・サルメラ+

エーヴァ・シヴラ (切手デザイン)

シート切手「フィンランド・デザイン:クラ

シック編」(アクセリ・ガレン=カレラほか)

2000

印刷、紙

7×15

フィンランド郵便博物館

エリエル・サーリネン

シート切手 (独立後に初めて発行された
フィンランドの郵便切手)

1917

印刷、紙

28.3×21.5

フィンランド郵便博物館

カリ・ピーッポ (切手デザイン)

シート切手「フィンランド・デザイン」

(カイ・フランクほか)

1998

印刷、紙

7×15

フィンランド郵便博物館

サンナ・タスキネン (切手デザイン)

ミニチュア・シート切手「カイ・フランク生

誕100年」

2011

印刷、紙

17.3×16.3

フィンランド郵便博物館

タバーニ・アアルトマー (切手デザイン)

コイル切手「ヴィトレスク」(ゲセリウス・

リンドグレン・サーリネン建築設計事務所)

2005

印刷、紙

14×20

フィンランド郵便博物館

タバーニ・アアルトマー (切手デザイン)

コイル切手「ジャン・シベリウス」(シベリ

ウスの肖像ほか)

2004

印刷、紙

14×20

フィンランド郵便博物館

タバーニ・アアルトマー (切手デザイン)

コイル切手「ジャン・シベリウス」(シベリ

ウス夫妻の肖像ほか)

2004

印刷、紙

14×20

フィンランド郵便博物館

バイヴィ・ヴァイニオンパー (切手デザイ
ン)

切手「ムーミンとスナフキン」(トーヴェ・
ヤンソン)

2004

印刷、紙

11.5×17.5

フィンランド郵便博物館

ベッカ・ピーッポ (切手デザイン)

ミニチュア・シート切手「カレワラ原画よ
り」(アクセリ・ガレン=カレラ)

2004

印刷、紙

7×10.6

フィンランド郵便博物館

ベンティ・ラヒカイネン (切手デザイン)

二連切手「ピエリスヤルヴィ湖畔の秋景色」
(エーロ・ヤルネフェルト)

1993

印刷、紙

11.5×17.5

フィンランド郵便博物館

掲載記事

朝日新聞

2012年3月30日（金）
「講演会」トークセッション「ムーミンが住む森の生活」

2012年4月8日（日）
自然豊かなフィンランドの暮らし 県立美術館で6月まで展覧会 ヤンソンの油彩画も

2012年5月12日（土）
「フィンランド展」 入場者2万人達成
県美、中重さんに記念品

2012年6月2日（土）
フィンランド展 入場者3万人に

東奥日報

2012年2月24日（金）
「ムーミンの世界」満喫を 4月からフィンランド展 県美

2012年4月7日（土）
絵画や工芸ずらり350点 県美でフィンランド展 きょう開幕

2012年4月28日（土）
北欧のデザイン 県美が魅力発信 弘実で出前講座

2012年5月9日（水）
商品デザイン ルーツは 県立美術館フィンランド展 大使夫妻が講演

陸奥新報

2012年2月21日（火）
県美に「ムーミンの森」 4月からフィンランド生活展

2012年3月23日（金）
北欧の魅力感じて フィンランド展で関連企画 県立美術館

2012年4月7日（土）
北欧のデザイン紹介 フィンランドくらし展 県美で報道内覧会

2012年4月30日（月）
フィンランドのデザインに理解 県立美術館が弘実高で出前講座

2012年5月8日（火）
「暮らし、文化知って」 知事と懇談 フィンランド大使来青

2012年5月10日（木）
フィンランド大使来青講演 「資質伸ばす教育を」

2012年6月2日（土）
入場者3万人突破 県美「フィンランド生活展」 後藤さん(山形)に記念品

デーリー東北

2012年2月21日（火）
4月7日からフィンランド展 青森県立美術館国内初の総合展示

読売新聞

2012年2月21日（火）
フィンランド紹介展 4月7日から開催 県立美術館

2012年4月4日（水）
フィンランド・デザイン巡回展

2012年4月11日（水）
北欧の温かみ感じて 県立美術館 家具や絵画など展示

2012年5月8日（火）
フィンランド大使、県庁訪問 県立美術館できょう講演

2012年5月12日（土）
フィンランド紹介展 2万人目に記念品

河北新報

2012年5月3日（木）
青森県立美術館企画展 「フィンランドのくらしとデザイン ムーミンが住む森の生活展」

2012年5月10日（木）
「ムーミンの森」北欧の生活紹介 青森県立美術館

毎日新聞

2012年4月12日（木）
ムーミン生んだ国 暮らしと風土紹介 県立美術館でフィンランド展

2012年5月9日（水）
ムーミン外交 進める フィンランド展 県立美術館で大使講演

Art and Air ー空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語 或いは、人間は如何にして天空に憧れ、 飛行の精神をもって如何に世界を認識してきたか。

開催概要

会期：2012年7月21日（土）－9月17日（月・祝）

開催日数：59日間

主催：Art and Air展実行委員会（青森県立美術館、青森テレビ、株式会社タミヤ、株式会社フジドリームエアラインズ、青森県立三沢航空科学館）

協賛：ヤマトロジスティクス株式会社、ゲインズ株式会社、青森空港ビル株式会社、青森オフセット印刷株式会社

特別協力：防衛省海上幕僚監部、日本航空株式会社、株式会社ハセガワ、株式会社青島文化教材社

協力：所沢航空発祥記念館、青森空港振興会議、青森空港国際化促進協議会、三沢空港ターミナル株式会社、旅館とびない本館、ホテル山上、青森プラモデラーズクラブ、青森空港写真クラブ、エフエム青森

後援：財団法人日本航空協会、航空ジャーナリスト協会、株式会社アートボックス、航空ファン、青森県航空協会、青森県教育委員会、むつ市、東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社、FMアップルウェーブ

観覧料：一般 1,500 (1,300) 円、高大生 800 (700) 円、小中生無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

入場者数：18,267人

関連企画

(1) 《プレイベント》中ハシクシゲ 写真彫刻プロジェクト：零戦と桜花

Art and Air 展において展示される中ハシクシゲ作品の制作を6月1日（金）より開始。プラモデル等の立体物を微細に接写した膨大な写真を貼りあわせて実物大の「零戦52型」と「桜花」を制作した。

(2) 《プレイベント》青秀祐インスタレーション「Operation A」の公開制作

展覧会に先がけ、6月28日より飛行機をモチーフにした作品を手がける現代美術家青秀祐のインスタレーションをワークショップ&公開制作にて設置した。

(3) こども美術館デイ

展覧会の会期にあわせ夏休み恒例の「こども美術館デイ」を同時開催とし、中学生以下は企画展、常設展ともに観覧無料とした。

(4) ワークショップエリアに Art and Air 展と連動した展示

- ・防衛省海上幕僚監部の自衛隊機の写真展示
- ・FDA、JAL のポスター掲示
- ・青森空港写真クラブの写真展示
- ・青森プラモデラーズクラブの飛行機模型展示

(5) 夏休み親子ギャラリーツアー「Art and Air展を楽しむ」

実施日：2012年7月31日、8月1、2、7、8、9日

時間：11:00－、14:00－（各回40分程度）

対象：小学生以上

参加者数：延べ62名

(6) 夏のドラマリーディング「あおぞらにビュビュン」

実施日：6月23日（土） 14:00－、19:00－

6月24日（日） 14:00－

会場：シアター

参加者数：延べ155名

- ・公演で使用した零戦舞台セットは、8月4日（土）から12日（日）まで照明と音楽を入れながらシアターで展示。

(7) アーティストトーク（展覧会参加作家によるギャラリートーク）

日時：2012年7月21日（土） 10:30－12:00

会場：1階エントランス、企画展示室

参加作家：青秀祐／中ハシクシゲ／中村哲也／八谷和彦

参加者数：50名

(8) 講演会「空と飛行機をめぐる断想：いつかある晴れた日に、きっとまた会えるでしょう」

講師：工藤健志（当館学芸員）

日時：2012年9月17日（月・祝） 14:00－15:30

会場：シアター

参加者数：100名

(9) あおぞらコンサート

本展テーマ音楽を作曲した伊藤ゴローと、チェリスト徳澤青弦によるライブを開催した。

日時：2012年7月27日（金） 15:00－15:30、18:00－18:30

場所：地下2階総合案内所後方

参加者数：延べ60名

展覧会カタログ

仕様：B5 サイズ、200頁

編集：Art and Air 展実行委員会、工藤健志

編集補助：板倉容子、乗田菜々美

ブックデザイン：乗田菜々美

会場写真撮影：柿崎真子

テキスト：工藤健志

寄稿：押井守、工藤和彦、澄川喜一、松浦晋也

制作：岩崎梓

発行者：近藤正司

発行元：Pヴァイン・ブックス

発売元：株式会社スペースシャワーネットワーク



ポスター



展示風景

人間は遙か昔から大空に対し憧れを抱き、多くの人々が飛翔を夢みて、挑戦と挫折の歴史が繰り返されてきた。空に対する強い想いは、幾多のすぐれた芸術作品を生みだし、また科学技術も大きく発展することになる。やがて20世紀に入り、空を飛ぶ機械“飛行機”が発明されると、すぐさま人々は飛行距離やスピードを競うようになり、そこでまた様々な伝説が生まれていく。そして、科学技術時代を象徴するモチーフとして、飛行機はあらゆる文化の中に深く浸透していった。

また目に見えない空気の力を利用して空を飛ぶ飛行機そのものも、プロペラ、翼、胴体などそれぞれが美しいラインを持っており、その造形的な美しさが世界中の人々を魅了し続けている。

さらに人間が実際に高いところから大地を見下ろせるようになって、「世界」の認識の仕方や、人間の意識は劇的に変化した。本展は、「空」と「飛行機」をモチーフとする様々な作品、資料をとおして、そうした現代に生きる我々の意識や感情、欲望の在処を探り、「空を飛ぶ」ことの意味を問い直す展覧会である。

それまで地上を移動することしかできなかった人間の二次元的な思考は、「空を飛ぶ」ことでどのように変化したのだろうか。本展が「空」と「飛行機」とおし、我々が暮らす「現代文明」と我々「現代人」の意識の在り方について考えてみた。

出品作品

1-01
青秀祐
Operation“ A”
2012
和紙にデジタルプリント、他
850×900×892.5
作家

チャプター 1：見上げるー飛行・飛翔の夢

1-001
稲垣足穂・中村宏
機甲本 *ikaros*
1973
銅
30×21×8.5
うらわ美術館

1-002
オノレ・ドーミエ
イカロスの墜落〜『古代史』31
1842
リトグラフ・紙
28.5×20.6
町田市立国際版画美術館

1-003
アンリ・マティス
ジャズ / イカロス
1947
ポショワール・アルシュ紙
27.2×40.7
青森県立美術館

1-004
山口勝弘
イカロスシリーズ コンポジション
2009
カンヴァスボード、カンヴァス、木、アクリル、青色ダイオード等
170×122
世田谷美術館

1-005
レオナルド・ダ・ヴィンチ
『鳥の飛翔に関する手稿』（アウグスト・マリノーニ原典翻刻 谷一郎、小野健一、斎藤泰弘訳、岩波書店）
1979
書籍
飛行神社

1-006
レオナルド・ダ・ヴィンチ「空気スクリュー」
2012
ドイツレベル製キット完成品
22×22×21

1-007
レオナルド・ダ・ヴィンチ「グライダー」
2012
ドイツレベル製キット完成品
39×17×10.5

1-008
レオナルド・ダ・ヴィンチ「グライダー」
2006
模型
100×60×14
所沢航空発祥記念館

1-009
オットー・リリエントールの飛行実験
(1895年6月29日、リッターフェルデ)
データ出力

1-010
ジョン・T. ダニエルズ
ライトフライヤー号の初飛行
1903
データ出力

1-011
ハセガワ
1/16 ミュージアムモデル「ライト フライヤー1」
1985
キット完成品
76.5×40.2×15.3
株式会社ハセガワ

1-012
サントス・デュモンの飛行機「14-bis」
データ出力

1-013
サン＝テグジュペリ
『戦ふ操縦士』（河出書房新社）
1939
書籍
飛行神社

1-014
サン＝テグジュペリ
『空の開拓者』（河出書房新社）
1945
書籍
所沢航空発祥記念館

1-015
サン＝テグジュペリ
『星の王子様 オリジナル版』（岩波書店）
2000
書籍
青森県立美術館

1-016
飛内源一郎
1/72「コードロンC635 シムーン」
エレール製キット完成品
作家

1-017
ハセガワ
1/48「P38-L ライトニング」
キット完成品
株式会社ハセガワ

1-018
リンドバークとスピリット・オブ・セントルイス号
データ出力

1-019
「空の寵児偉業成る リンディ夫妻霞ヶ浦に安着」（昭和6年8月27日）
1931
写真特報
26×38
個人

1-020
飛内源一郎
1/72「ライオンNPY-1 スピリット・オブ・セントルイス号」
テスター製キット完成品
作家

1-021
「大飛行アルバム6 南太平洋に散った“米国の宝”イヤーハート」（大阪毎日新聞 昭和14年8月18日）
1939
写真特報
30.5×45.5

1-022
新日本図叢書第13『イヤーハート 最後の飛行』（隅田久尾訳、育生社弘道閣）
1943
書籍
所沢航空発祥記念館

1-023
飛内源一郎
1/53「ロッキードL-10 エレクトラ」
ウイリアムズ製キット完成品
作家

1-024
ロッキードベガ型
データ出力
写真提供：航空ファン

1-025
ロッキードL-10 エレクトラ型
データ出力
写真提供：航空ファン

1-026
アルバトロスD.II のコクピットに収まるリヒトホーフェンと彼の部隊の面々
データ出力

1-027
ハセガワ
1/8 ミュージアムモデル「フォッカーDr. I」
キット完成品
83.8×72.2×35.8
株式会社ハセガワ

1-028
飛内源一郎
1/72「アルバトロスD.II」
キット完成品
作家

1-029
徳川好敏
「飛行機之操縦」
1960 頃
自筆原稿
所沢航空発祥記念館

1-030
徳川好敏
「代々木初飛行の回顧録」
1960 頃
自筆原稿
所沢航空発祥記念館

1-031
ハンス・グラード1910年型
データ出力
提供：日本航空協会

1-032
アンリ・ファルマン1910年型
データ出力
提供：日本航空協会

1-033
奈良原式1号機
データ出力
提供：日本航空協会

1-034
喜多川秀男
日本陸軍の会式一号
1911
データ出力
提供：所沢航空発祥記念館

1-035
青嶋正夫
浮田幸吉の飛行機（想像模型）
2011
バルサ、和紙
95×34×25
株式会社青島文化教材社

1-036
『児雷也豪傑譚』五編（美図垣笑顔作、香蝶楼国貞画）
1846
合巻本
17.5×11.5
早稲田大学図書館

1-037
『児雷也豪傑譚』二十編（美図垣笑顔作、香蝶楼国貞画）
1852
合巻本
17.5×11.5
早稲田大学図書館

1-038
二宮忠八
「カラス型飛行器」模型
ミクストメディア
65×64×28
飛行神社

1-039 二宮忠八 「玉虫型飛行器」模型 ミクストメディア 155×88×52 飛行神社	1-048 実験工房 試験飛行家W.S. 氏の眼の冒険 1953 オートスライド (DVD) 構成：山口勝弘、音楽：鈴木博義、撮影：北代省三 4 分40 秒 横田茂ギャラリー	1-057 喜多川秀男 日本陸軍のドボアチンD-1 1924 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	2-003 鍬形蕙斎 日本名所の絵 江戸時代後期 木版・紙 39.6×56.8 神戸市立博物館
1-040 二宮忠八 『凧と飛行機にかけた生涯』（広井力 監修、天満堂書店） 1977 書籍 飛行神社	1-049 忽那光一郎 Wind Speed O No.582 2008 C-print 78×99 作家	1-058 喜多川秀男 帝国飛行協会の磯部式ルンブラー・タウペ 1915 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	2-004 葛飾北斎 中国鳥瞰図（仮） 江戸時代後期 木版・紙 41×53.2 神戸市立博物館
1-041 関猛 『二宮忠八伝』（日光書院） 1944 書籍 飛行神社	1-050 忽那光一郎 Wind Speed O No.616 2009 C-print 78×99 作家	1-059 喜多川秀男 毎日新聞のライアンNYP 1927 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	2-005 橋保春 高野山細見絵図（上、下） 1813 紙本着色 上：128.2×177.8、下：128.4×177 神戸市立博物館
1-042 二宮忠八 玉虫型飛行器設計図 データ出力 飛行神社	1-051 忽那光一郎 Wind Speed O No.700 2010 C-print 99×78 ワンピース倶楽部 嶋津充氏	1-060 喜多川秀男 日本航空輸送株式会社の中島フォッカー・スーパーユニバーサル 1929 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	2-006 歌川貞秀 京都一覽図画（六枚続） 1864 木版・紙 36×146.3 神戸市立博物館
1-043 二宮忠八 題名不詳（飛行機の絵） 紙本着色 191×41 飛行神社	1-052 喜多川秀男 日本陸軍のブレリオ11-2bis 1911 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	1-061 喜多川秀男 朝日新聞社のシェルパC-19 1932 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	2-007 歌川貞秀 大坂名所一覽（九枚続） 1865 木版・紙 35.8×217.1 神戸市立博物館
1-044 周延 上野公園風船之図 1890 紙本着色 108×24 早稲田大学図書館	1-053 喜多川秀男 日本陸軍のソッピース2 1918 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	1-062 喜多川秀男 毎日新聞社のロッキード・アルテア 1932 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	2-008 吉田初三郎 聖山名久井岳之図（原画） 1933 絹本着色 55×168 三戸町教育委員会
1-045 恩地孝四郎 飛行官能 1934 本 27.5×20×1.3 うらわ美術館	1-054 喜多川秀男 日本陸軍の雄飛号飛行船とモ式四型 1915 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	1-063 喜多川秀男 朝日新聞社の三菱雁型 1937 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	2-009 吉田初三郎 弘前市之図（原画） 1933 絹本着色 75×341 弘前市立図書館
1-046 恩地孝四郎 Poème No.8 蝶の季節 1948 マルチブロック・紙 45.6×35.2 青森県立美術館	1-055 喜多川秀男 日本陸軍の乙式一型偵察機サルムソン2A2 1919 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	2-001 歌川広重 名所江戸百景 深川洲崎十万坪 1857 木版・紙 33.5×22.0 川崎・砂子の里資料館	2-010 撮影者不詳 題名不詳〈B-29 からの富士山〉 1945 ゼラチン・シルバー・プリント 23.2×33.7 IZU PHOTO MUSEUM
1-047 山口勝弘 試験飛行家W.S. 氏の眼の冒険（スチール写真） 1953 / 2012 RC ペーパー、パネル貼り 29.7×42 (4点) 横田茂ギャラリー	1-056 喜多川秀男 日本陸軍のユンカースJF-6 1922 データ出力 提供：所沢航空発祥記念館	2-002 歌川広重 名所江戸百景 目黒新富士 1857 木版・紙 33.5×22.0 川崎・砂子の里資料館	

2-011 撮影者不詳 題名不詳〈富士山とB-29 編隊〉 1945 ゼラチン・シルバー・プリント 20.3×25.4 IZU PHOTO MUSEUM	2-020 日建設計 東京スカイツリー® デザインスケッチ 2005 データ出力 8点 株式会社日建設計	3-002 北脇昇 空の決別 1937 油彩・キャンバス 117×80.5 東京国立近代美術館	3-010 斎藤文人 特攻機米艦突入図 1943 頃 絹本着色 132×198.7 靖國神社遊就館
2-012 撮影者不詳 題名不詳〈富士山とB-29 編隊〉 1945.4.13 ゼラチン・シルバー・プリント 16×22.5 IZU PHOTO MUSEUM	2-021 工藤政志 東京スカイツリー® 写真 2007-2012 データ出力 3点 提供：作家	3-003 石川寅治 渡洋爆撃 1942 油彩・キャンバス 165×202.5 東京国立近代美術館（無期限貸与）	3-011 『聖戦美術』（陸軍美術協会） 1939 画集
2-013 撮影者不詳 題名不詳〈東京へ向かうB-29 編隊〉アメリカ軍 1944-1945 ゼラチン・シルバー・プリント 18.8×24.3 IZU PHOTO MUSEUM	2-022 池田淳一郎 Construction of TOKYO SKYTREE® The Movie 2009-2012 2012 映像（DVD） 8 分56 秒 作家	3-004 御厨純一 ニューギニア沖東方敵機動部隊強襲 1942 油彩・キャンバス 194×259 東京国立近代美術館（無期限貸与）	3-012 『大東亜戦争海軍美術』（大日本海洋美術協会） 1943 画集 モマ・コンテンポラリー
2-014 撮影者不詳 題名不詳〈富士山とヘルキャット編隊〉 1945 ゼラチン・シルバー・プリント 各9.1×11.2（8点） IZU PHOTO MUSEUM	2-023 松江泰治 JP-02 01 2012 type C print 44.8 × 56 作家	3-005 久保克彦 図案対象 正午あるいは真夏 1942 紙本着色、コラージュ 145×234.5 東京藝術大学	3-013 『大東亜戦美術』（朝日新聞東京本社） 1943 画集 モマ・コンテンポラリー
2-015 撮影者不詳 報国飛行機 1933-1944 絵葉書（ゼラチン・シルバー・プリント） 8.6×13.8 IZU PHOTO MUSEUM	2-024 松江泰治 JP-02 02 2012 type C print 44.8 × 56 作家	3-006 久保克彦 図案対象 午後3時あるいは秋 1942 紙本着色、コラージュ 145×145 東京藝術大学	3-014 『航空美術』（大日本航空美術協会） 1943 画集 モマ・コンテンポラリー
2-016 撮影者不詳 快翔するMC20 型輸送機 1940 頃 絵葉書（ゼラチン・シルバー・プリント） 8.5×13.5 IZU PHOTO MUSEUM	2-025 松江泰治 JP-02 03 2012 type C print 44.8 × 56 作家	3-007 杉全直 整備教室 1943 頃 油彩・キャンバス 90.8×115.3 姫路市立美術館	3-015 『大東亜戦美術 第二輯』（朝日新聞社） 1945 画集 モマ・コンテンポラリー
2-017 川澄明男 丹下健三と「東京計画1960」全体模型 1961 データ出力 提供：株式会社丹下都市建築設計	2-026 松江泰治 JP-02 04 2012 type C print 44.8 × 56 作家	3-008 福田豊四郎 落下傘 1943 紙本着色、岩絵具 183×129.4 秋田県立近代美術館	3-016 陸軍少年飛行兵ポスター（画：中村研一） 1944 原色版印刷・紙 71.5×56.7 モマ・コンテンポラリー
2-018 黒川紀章1/5500「農村都市計画」模型 1960（模型制作：1995年） 木、真鍮 12×181×181 森美術館	チャプター3：空と飛行機の物語		3-017 陸軍少年飛行兵ポスター（画：佐藤敬） 1944 原色版印刷・紙 70.5×50 モマ・コンテンポラリー
2-019 日建設計 東京スカイツリー® 1/500 紛体模型 2010 ナイロン樹脂 23.5×23.5×126.8 株式会社日建設計	3-001 新井勝利 虹と艦爆 紙本着色 57×87 所沢航空発祥記念館	3-009 斎藤文人 日米空中戦の図 1943 頃 絹本着色 132×198.5 靖國神社遊就館	3-018 北村小松 模型飛行機「ぶた号」 1961 ミクストメディア 77×52×25 青森県近代文学館
			3-019 映画「燃ゆる大空」スチール写真 1940 ゼラチン・シルバー・プリント 各10×14（3点） 青森県近代文学館

3-020 映画「燃ゆる大空」シナリオ 青森県近代文学館	3-029 三菱一〇式艦上戦闘機 原図 1920 頃 ペン・布、紙 70×100.5 三菱重工業株式会社	3-039 三菱一式陸上攻撃機 30.5×40 三菱重工業株式会社	3-049 『アサヒグラフ』昭和6年8月26日号（朝日新聞社） 1931 雑誌 個人
3-021 北村小松 『燃ゆる大空』（大日本雄弁会講談社） 1940 書籍 青森県近代文学館	3-030 三菱一〇式艦上戦闘機 一般図 1920 頃 青焼図 39×29 三菱重工業株式会社	3-040 三菱一式陸上攻撃機 改修図面 1944 頃 青焼図 81.5×117.5 三菱重工業株式会社	3-050 『アサヒグラフ』昭和6年9月16日号（朝日新聞社） 1931 雑誌 個人
3-022 北村小松 『太平洋航空路』（博文館） 1940 書籍 青森県近代文学館	3-031 堀越二郎 三菱零式艦上戦闘機 1976 紙・ペン、鉛筆 各21×29.5（2点） 三菱重工業株式会社	3-041 タミヤ 1/48「三菱一式陸上攻撃機11 型」 1996 キット完成品 株式会社タミヤ	3-051 『アサヒグラフ』昭和8年8月2日号（朝日新聞社） 1933 雑誌 個人
3-023 北村小松 『吾が趣味を語る 模型飛行機について』（『雄弁』第21 巻第3 号、大日本雄弁会講談社） 1930 雑誌 青森県近代文学館	3-032 三菱零式艦上戦闘機プロペラ・ブレード 1944 頃 ジュラルミン 25×128×8 三菱重工業株式会社	3-042 三菱四式重爆撃機 飛龍 ゼラチン・シルバー・プリント 40.5×51.5 三菱重工業株式会社	3-052 『アサヒグラフ』昭和12年5月号（朝日新聞社） 1937 雑誌 個人
3-024 北村小松 『模型製作者の工房 私の模型飛行機“狸号”その他』（『航空朝日』第2 巻第4 号、朝日新聞東京本社） 1941 雑誌 青森県近代文学館	3-033 三菱零式艦上戦闘機21 型 風洞試験結果 1943 頃 鉛筆・トレーシングペーパー 各29.5×19.5（2点） 三菱重工業株式会社	3-043 三菱九六式陸上攻撃機 ゼラチン・シルバー・プリント 29.5×40 三菱重工業株式会社	3-053 『アサヒグラフ』昭和12年5月12日号（朝日新聞社） 1937 雑誌 個人
3-025 北村小松 『少女と模型飛行機』（『少女倶楽部』第19 巻第10 号、大日本雄弁会講談社） 1941 雑誌 青森県近代文学館	3-034 1993年3月25日に小川原湖で回収された三菱零式艦上戦闘機21 型破片 個人	3-044 Takumi 明春 1/350「日本海軍 戦艦大和」 2012 タミヤ製キット完成品 作家	3-054 「空前の壮挙 日比親善飛行」（東京日日新聞 昭和10年11月） 1935 写真特報 30.5×46.1 個人
3-026 北村小松 『ガソリン・エンジン機物語』（『模型航空』第1 巻第4 号、東京日日新聞社・大阪日日新聞社） 1942 雑誌 青森県近代文学館	3-035 タミヤ 1/32「三菱海軍零式艦上戦闘機二一型」 2006 キット完成品 株式会社タミヤ	3-045 『少年』（明治45年1月号、時事新報社）特別 附録「新案飛行双六」（画：服部愿夫） 1911 雑誌附録 54.7×38.9 個人	3-055 「日比親善本社機勇躍飛ぶ」（大阪毎日新聞 昭和10年11月） 1935 写真特報 30×45.7 個人
3-027 北村小松 『戦力増強と模型航空』（『少国民文化』第2 巻第9 号、日本少国民文化協会） 1943 雑誌 青森県近代文学館	3-036 三菱局地戦闘機 雷電 ゼラチン・シルバー・プリント 26×42.5 三菱重工業株式会社	3-046 うちわ絵 1910年代 23.3×24.4 個人	3-056 「脅威の記録を双翼に寄せ、疾風の早迴機、ゴールへ」（同盟ニュース 昭和13年7月16 日） 1938 写真特報 26.5×38.3 個人
3-028 北村小松 他 「オモチャの国のオヤジ達」（『オール読物』第10 巻第4 号、文芸春秋社） 1955 雑誌 青森県近代文学館	3-037 三菱局地戦闘機 雷電 風洞試験結果 1943 頃 鉛筆・トレーシングペーパー 各29.5×19.5（3点） 三菱重工業株式会社	3-048 『アサヒグラフ臨時増刊 東日本航空号』 昭和4年8月（朝日新聞社） 1929 雑誌 個人	3-057 「明朗 旅客機の華 エアガールの試験飛行」（朝日新聞 昭和13年8月） 1938 写真特報 37.5×51.8 個人

3-058 「友邦イランへ“そよかぜ号”出発」(大阪毎日新聞 昭和14年4月12日) 1939 写真特報 45.1×30.5 個人	3-068 『神風画報』(朝日新聞社) 1937 雑誌 3冊 個人	3-077 「ニッポン号堂々祖国に凱旋」(東京日日新聞 昭和14年10月) 1939 写真特報 30.3×46.1 個人	3-087 「三菱MC-20」旅客機絵葉書セット 1940頃 原色版印刷・紙 各9.5×14.5(3点) 個人
3-059 『航空朝日』昭和15年12月号(朝日新聞社) 1940 雑誌 個人	3-069 神風号ペーパークラフト 1937 雑誌附録 26.5×38.5 個人	3-078 「ニッポン号」ソリッドモデル 1940 キット 個人	3-088 「大東亜の空を征く MC20 展覧会」写真集 1942頃 記念アルバム 25.0×26.0 三菱重工株式会社
3-060 『航空朝日』昭和16年2月号(朝日新聞社) 1940 雑誌 個人	3-070 大阪朝日新聞社 神風号 亜欧連絡記録大飛行世界記録完成 記念写真 1937 原色版印刷・紙 26.0×36.7 個人	3-079 1/32「三菱双発型陸上輸送機(96式陸上攻撃機改造機) ニッポン号」 模型 79×52×17 三菱重工株式会社	3-089 「翼日本の詩 新鋭機MC20 展覧会」写真集 1942頃 記念アルバム 27.0×36.0 三菱重工株式会社
3-061 『航空朝日』昭和16年5月号(朝日新聞社) 1941 雑誌 個人	3-071 マルサン 1/50「神風号」 1960年代前半 プラモデル 個人	3-080 三菱双発型陸上輸送機(96式陸上攻撃機改造機) ニッポン号 ゼラチン・シルバー・プリント 30.8×39.5 三菱重工株式会社	3-090 飛内源一郎 1/72「ツボレフANT-25 長距離機」模型 キット完成品 作家
3-062 『航空朝日』昭和16年6月号(朝日新聞社) 1941 雑誌 個人	3-072 マルサン「三菱雁型(キ-15)通信連絡機 神風号」 1960年代前半 プラモデル 個人	3-081 飛内源一郎 1/72「ニッポン号」 LS製キット完成品 作家	3-091 飛内源一郎 1/48「ダグラスDC-3 大和号 極東航空バージョン」模型 モノグラム製キット完成品 作家
3-063 『機械化』昭和16年2月号(山海堂出版部) 1941 雑誌 個人	3-073 飛内源一郎 1/72「神風号」 キット完成品 作家	3-082 「大日本航空株式会社」ポスター 1940頃 原色版印刷・紙 111×80 個人	3-092 飛内源一郎 1/72「フォード・トライモーター」模型 エアフィックス製キット完成品 作家
3-064 『飛行日本』昭和18年7月号(大日本飛行協会) 1943 雑誌 所沢航空発祥記念館	3-074 今竹七郎 「世界一周大飛行」ポスター 1939 原色版印刷・紙 110×79 個人	3-083 「大日本航空バンコク便」ポスター 原色版印刷・紙 108×80 日本航空株式会社	3-093 飛内源一郎 1/72「デバビラントDH.88 コメット」模型 エアフィックス製キット完成品 作家
3-065 祝神風凱旋旗 1937 布に印刷 70×82 個人	3-075 小畑六平 「世界一周大飛行」ポスター 1939 原色版印刷・紙 62×46 個人	3-084 「川西式四発旅客飛行艇」パンフレット 1940頃 冊子 30.5×25.5 個人	3-094 飛内源一郎 1/72「ダグラスDC-3 桜号 大日本航空バージョン」模型 イタレリ製キット完成品 作家
3-066 「“神風”立川を出発 一路東京へ」(大阪朝日新聞 昭和12年4月) 1937 写真特報 37×51.8 個人	3-076 「世界一周大飛行の壮途に上る新鋭国産大毎機」(大阪毎日新聞 昭和14年7月) 1939 写真特報 30.5×45.0 個人	3-085 川西式四発旅客飛行艇 模型 57×37×10 財団法人日本航空協会	3-095 飛内源一郎 1/72「ボーイング247」模型 ウィリアムブラザーズ製キット完成品 作家
3-067 「神風 凱旋行進」(大阪朝日新聞 昭和12年5月) 1937 写真特報 36.8×51.4 個人		3-086 三菱MC-20 模型 32×23×8 財団法人日本航空協会	3-096 飛内源一郎 1/72「ビッカース・ビミー・コマーシャル」模型 キット完成品 作家

3-097 国民学校補助教材「羽搏飛行機」 飛行機模型 モマ・コンテンツボラリー	3-109 堀七蔵、阿部広司 少国民の科学『竹とんぼと滑空機』（皇国青年教育協会） 1943 書籍 モマ・コンテンツボラリー	3-118 アオシマ B 級急上昇滞空競技機「レッドウイング」 1963 木製模型キット 株式会社青島文化教材社	3-128 小松崎茂 タミヤ 1/72「日本海軍零式戦闘機32 型」 1964 水彩・紙 20×39 株式会社タミヤ
3-098 国民学校初等科四学年程度用「蝶々組立材料」 飛行機模型 モマ・コンテンツボラリー	3-110 木村秀政 『模型飛行機読本』（大日本飛行協会） 1944 書籍 モマ・コンテンツボラリー	3-119 「ドヴォワチーヌD.30」図面集 1928 図面 31.5×21 個人	3-129 小松崎茂 タミヤ 1/72「日本陸軍二式戦闘機 鍾馗」 1964 水彩・紙 21×42 株式会社タミヤ
3-099 国民学校初等科第一学年飛行機 飛行機模型 モマ・コンテンツボラリー	3-111 『最新ソリッドモデルの工作入門』（文林堂） 1960 書籍 モマ・コンテンツボラリー	3-120 「ドヴォワチーヌD.33」図面 1929 頃 図面 49×41.2 個人	3-130 小松崎茂 タミヤ 1/72「日本海軍局地戦闘機 雷電」 1970 水彩・紙 27×48 株式会社タミヤ
3-100 5、6年用工作「キングヘリコプター」 飛行機模型 モマ・コンテンツボラリー	3-112 静岡第1 号機（ニューポール機）と青島次郎 1929年11月 データ出力 提供：株式会社青島文化教材社	3-121 「ドヴォワチーヌD.33」水平尾翼図面 1929 頃 図面 48×104.5 個人	3-131 小松崎茂 タミヤ 1/72「日本陸軍四式戦闘機 疾風」 1970 水彩・紙 26.5×50.5 株式会社タミヤ
3-101 ベビーグライダー「つばめ号」 飛行機模型 モマ・コンテンツボラリー	3-113 青嶋正夫 「静岡2 号機（アプロ504K）」 ラジコン 110×90×30 株式会社青島文化教材社	3-122 「ドヴォワチーヌD.33B」図面 1931 頃 図面 31.5×20.5 個人	3-132 小松崎茂 タミヤ 1/72「日本海軍試作局地戦闘機 震電」 1970 水彩・紙 25.5×46.5 株式会社タミヤ
3-102 C 級グライダーキット「東京号」 飛行機模型 モマ・コンテンツボラリー	3-114 青嶋正夫 昭和初期の角胴機（レプリカ） 1994 パルサ、和紙 143×103×25 株式会社青島文化教材社	3-123 「ドヴォワチーヌD.620」パンフレット 1934 頃 冊子 30.5×24.1 個人	3-133 小松崎茂 タミヤ 1/50「日本海軍局地戦闘機 紫電改」 1963 水彩・紙 22×42.5 株式会社タミヤ
3-103 双胴模型グライダーキット「G-4 キュムラス号」 飛行機模型 モマ・コンテンツボラリー	3-115 青嶋正夫 複葉模型飛行機 2009 ひのき、和紙 60×60×27 株式会社青島文化教材社	3-124 「ドヴォワチーヌD.510J」図面集 1935 頃 図面 31.5×21 個人	3-134 小松崎茂 タミヤ 1/50「日本陸軍三式戦闘機 飛燕」 1964 水彩・紙 20×40 株式会社タミヤ
3-104 角胴模型飛行機「B1 イーグルレッド号」 飛行機模型 モマ・コンテンツボラリー	3-116 青嶋正夫 A 字型模型飛行機 2010 ひのき、和紙 43×43×10 株式会社青島文化教材社	3-125 ジョセフ・ルブリ書簡 1931年7月4日 手紙 27.2×21.2 個人	3-135 タミヤ 1/72「日本海軍零式戦闘機32 型」 1964 キット完成品 株式会社タミヤ
3-105 1/100「ボーイングB29 実体模型」 ソリッドモデルキット モマ・コンテンツボラリー	3-117 アオシマ A 級普及機「ベビーレッドウイング」 1963 木製模型キット 株式会社青島文化教材社	3-126 工藤富治写真アルバム 写真アルバム 個人	
3-106 木製模型飛行機（羽ばたき機） 木製模型キット完成品 モマ・コンテンツボラリー		3-127 古井智 Mushroom cloud# 1011/Castle Bravo 2011-2012 油彩・木製パネル 90×120 作家	
3-107 鈴木正五 『学童用模型飛行機とグライダーの作り方』（科学教材社） 1941 書籍 モマ・コンテンツボラリー			
3-108 柴田眞三朗 『模型航空機の理論と設計』（受験研究社増進堂） 1941 書籍 モマ・コンテンツボラリー			

3-136 タミヤ 1/72「日本陸軍二式戦闘機 鍾馗」 1964 キット完成品 株式会社タミヤ	3-145 中村宏 B727 1974 油彩・キャンバス 162×112 練馬区立美術館	M-002 小泉和明 スペースウルフ 2000 水彩・紙 27×38.7 松本零士	M-012 松本零士 試製高高度戦闘機「キ-99」 模型 松本零士
3-137 タミヤ 1/72「日本海軍局地戦闘機 雷電」 1970 キット完成品 株式会社タミヤ	3-146 中村宏 車窓篇type2（コクピット） 1975 油彩・キャンバス 130×162.3 練馬区立美術館	M-003 ハセガワ 1/72「宇宙海賊キャプテンハーロック ス ペースウルフ SW-190」 2011 キット完成品 株式会社ハセガワ	M-013 1/10「零式艦上戦闘機52 型」 模型 松本零士
3-138 タミヤ 1/72「日本陸軍四式戦闘機 疾風」 1970 キット完成品 株式会社タミヤ	3-147 石田徹也 飛べなくなった人 1996 アクリル・板 103×145.6 静岡県立美術館	M-004 ハセガワ 1/72「スペースウルフ SW-190“ハーロック カスタム”」 2012 キット完成品 株式会社ハセガワ	M-014 1/32「九七式戦闘機」 模型 松本零士
3-139 タミヤ 1/72「日本海軍試作局地戦闘機 震電」 1970 キット完成品 株式会社タミヤ	3-148 O JUN 着陸 2007 顔料、岩絵具、ガラス、鉄・紙 119x171 作家	M-005 松本零士 「親父の親心」(『ケースハード』6 巻、第8 話、小学館) 1996 ペン・紙 38×26.9 (24 枚)、38.3×54.1 (1 枚) 松本零士	M-015 1/24「一式戦闘機“隼”3 型」 模型 松本零士
3-140 タミヤ 1/50「日本陸軍三式戦闘機 飛燕」 1964 キット完成品 株式会社タミヤ	3-149 O JUN 日と金星 2007 顔料、岩絵具、ガラス、鉄・紙 119x171 作家	M-006 鏡筒式射爆照準器 74.8×8×5.5 松本零士	M-016 小松崎茂 題名不詳 1976 ペン・紙 14.7×25.7 松本零士
3-141 会田誠 紐育空爆之図（戦争画RETURNS） 1996 襖、蝶番、日本経済新聞、ホログラムペー パーにプリント・アウトしたCGを白黒コ ピー、チャコールペン、水彩絵具、アクリル 絵具、油性マーカー、事務用修正ホワイト、 鉛筆、その他（六曲一隻屏風） 169×378 高橋コレクション	3-150 池田学 水窟 2010 ペン・紙 22×27 個人	M-007 光像式射爆照準器 Type 1 MkII 14.5×26×11 松本零士	4-001 マン・レイ 「回転ガラス板」のマルセル・デュシャン 1920 / 1975 ゼラチン・シルバー・プリント 35.5×25.8 国立国際美術館
3-142 風間サチコ 大日本防空戦士・2670 2009 木版・和紙、パネル 182×360 作家	3-151 池田学 Gate 2010 ペン・紙 22×27 個人	M-008 八九式活動寫眞銃改二 1929 75.5×30×14.5 松本零士	4-002 マン・レイ デュシャンのアトリエにて、「回転ガラス 板」 1920 / 1975 ゼラチン・シルバー・プリント 28.7×22.5 国立国際美術館
3-143 横尾忠則 テレビ 1966 油彩・キャンバス 72.7×60.6 個人	3-152 松本零士 「クイーンエメラルダス」屏絵（『銀河鉄道 999』16 巻、第7 話、小学館） 1998 水彩、ペン・紙 34×46 松本零士	M-009 1/100「GX ロケット」 模型 55×11×11 松本零士	4-003 マン・レイ デュシャンのアトリエにて、「回転半球」 1920 頃 / 1980 C プリント 30.2×22.8 国立国際美術館
3-144 横尾忠則 ヘル 2003 油彩・キャンバス 116.7×90.9 作家	M-001 松本零士 「クイーンエメラルダス」屏絵（『銀河鉄道 999』16 巻、第7 話、小学館） 1998 水彩、ペン・紙 34×46 松本零士	M-010 1/200「H-BB ロケット」 模型 30×12×9 松本零士	4-004 「ファルマンF50BN2 爆撃機」プロペラ 1921 頃 木 280×17.9×22 所沢航空発祥記念館

チャプター４：飛行機のメカニズムとフォルム、そしてデザイン

4-005 「甲式四型戦闘機」(日本楽器製)プロペラ 1931 木 247×18.8×23 所沢航空発祥記念館	4-013 大西将美 タミヤ 1/48「フィーゼラーFi156C シュトルヒ」 2007 水彩・ボード 71.6×44.4 株式会社タミヤ	4-021 島村英二 タミヤ 1/48「三菱零式艦上戦闘機五二型 / 五二型甲」 2008 水彩・ボード 41.3×52.0 株式会社タミヤ	4-030 タミヤ 1/48「ヴォートF4U-1A コルセア」 2001 キット完成品 株式会社タミヤ
4-006 中村宏 「第21 回早稲田祭ポスター」原画 1973 鉛筆、インク、墨・紙 51.2×36.9 練馬区立美術館	4-014 大西将美 タミヤ 1/48「三菱零式艦上戦闘機二二型 / 二二型甲」 2010 水彩・ボード 48.4×68.5 株式会社タミヤ	4-022 タミヤ 1/48「雷電21 型 日本海軍局地戦闘機」 1973 キット完成品 株式会社タミヤ	4-031 石橋謙一 ハセガワ 1/72「メッサーシュミット Bf109G-6“東部戦線”」 1995 水彩・紙 35.6×51.0 個人
4-007 中村宏 第21 回早稲田祭ポスター 1973 印刷(青・黄)・紙 112×72 名古屋市美術館	4-015 大西将美 タミヤ 1/48「ヴォートF4U-1A コルセア」 2001 水彩・ボード 48.7×61.6 株式会社タミヤ	4-023 タミヤ 1/48「日本海軍零式艦上戦闘機32型」 1982 キット完成品 株式会社タミヤ	4-032 石橋謙一 ハセガワ 1/72「三式単座戦闘機 飛燕Ⅰ型 丁“本土防空戦”」 1994 水彩・紙 35.6×50.9 個人
4-008 明和電機 Mustang 2000 ミクストメディア 78.8×58×16.1 作家	4-016 大西将美 タミヤ 1/32「三菱海軍零式艦上戦闘機二一型」 2006 水彩・ボード 48.7×71.0 株式会社タミヤ	4-024 タミヤ 1/48「日本海軍零式艦上戦闘機52 丙型」模型 1983 キット完成品 株式会社タミヤ	4-033 石橋謙一 ハセガワ 1/72,「中島一式戦闘機 隼Ⅱ型乙 “飛行教導隊”」 水彩・紙 35.5×50.9 個人
4-009 高荷義之 タミヤ 1/48「雷電21 型日本海軍局地戦闘機」 1973 水彩・ボード 51.5×72.6 株式会社タミヤ	4-017 佐竹政夫 タミヤ 1/48「スーパーマリンスピットファイアMk.Vb」 1994 水彩・ボード 40.0×52.7 株式会社タミヤ	4-025 タミヤ 1/48「三菱零式艦上戦闘機五二型 / 五二型甲」 2008 キット完成品 株式会社タミヤ	4-034 石橋謙一 ハセガワ 1/200「日本航空 ボーイング 747 -400」 1989 水彩・紙 34.5×50.6 個人
4-010 高荷義之 タミヤ 1/48「日本海軍零式艦上戦闘機32 型」 1982 水彩・ボード 51.3×72.1 株式会社タミヤ	4-018 佐竹政夫 タミヤ 1/48「フォッケルウルフFw190A-3」 1994 水彩・ボード 37.7×50.7 株式会社タミヤ	4-026 タミヤ 1/48「スーパーマリンスピットファイア Mk.Vb」 1994 キット完成品 株式会社タミヤ	4-035 石橋謙一 ハセガワ 1/72「P-51B ムスタング“マルコムフード”」 1993 水彩・紙 35.9×51.2 個人
4-011 高荷義之 タミヤ 1/48「日本海軍零式艦上戦闘機52 丙型」 1983 水彩・ボード 51.5×72.4 株式会社タミヤ	4-019 佐竹政夫 タミヤ 1/48「ノースアメリカンP-510D マスタング」 1995 水彩・ボード 37.7×50.7 株式会社タミヤ	4-027 タミヤ 1/48「フォッケルウルフFw190A-3」 1994 キット完成品 株式会社タミヤ	4-036 石橋謙一 ハセガワ 1/72「三菱零式艦上戦闘機32 型 “報国”」 水彩・紙 35.6×51.1 個人
4-012 高荷義之 タミヤ 1/48「三菱一式陸上攻撃機11 型」 1996 水彩・ボード 42.0×59.5 株式会社タミヤ	4-020 佐竹政夫 タミヤ 1/48「メッサーシュミットBf109E3」 1996 水彩・ボード 36.2×48.7 株式会社タミヤ	4-028 タミヤ 1/48「メッサーシュミットBf109E3」 1996 キット完成品 株式会社タミヤ	4-037 石橋謙一 カーチスSBC-4 ヘルダイバー艦上爆撃機レキシントン搭載 VS-2 所属第3 中隊 1990 水彩・ボード 36.2×51.4 個人

4-038 石橋謙一 ソッピース キャメル 水彩・紙 36.1×51.4 個人	4-046 小泉和明 アオシマ 1/72「川西 紫電11 型甲」 1995 水彩・紙 13×22 株式会社青島文化教材社	4-054 横山宏 ハセガワ 1/32「メッサーシュミット Bf109G-6」 2008 キット完成品 作家	4-063 ハセガワ 1/72「VF-0B 可変翼複座型“マクロスゼロ”」 2004 キット完成品 株式会社ハセガワ
4-039 小池繁夫 ハセガワ 1/48「F-104J スターファイター “航空自衛隊”」 2000 水彩・紙 19×36.5 作家	4-047 小泉和明 アオシマ 1/72「川西 紫電11 型乙」 1995 水彩・紙 22×43 株式会社青島文化教材社	4-055 横山宏 「メッサーシュミット Bf109G-6」(ジオラマ 写真) 2008 データ出力 2点 提供：作家	4-064 ハセガワ 1/72「VF-0A/S w/ ゴースト」 2005 キット完成品 株式会社ハセガワ
4-040 小池繁夫 ハセガワ1/32「三菱局地戦闘機 雷電 21 型」 2011 水彩・紙 28.5×37.4 作家	4-048 小泉和明 アオシマ 1/72「フォッケウルフ T a 152H-1」 1995 水彩・紙 37×58 株式会社青島文化教材社	4-056 横山宏 バンダイ 1/24「紫電改」 キット完成品 作家	4-065 ハセガワ 1/48「VF-1J/A バルキリー“バーミリオン小 隊”」 2010 キット完成品 株式会社ハセガワ
4-041 横山宏 ハセガワ1/48「九州 局地戦闘機 震電改 “ジェットバージョン”」 2007 コンピュータグラフィックス 作家	4-049 梶田達二 アオシマ 1/72「イギリス陸軍戦闘機 ホー カーハリケーン」 1964 水彩・紙 21×41 株式会社青島文化教材社	4-057 横山宏 ハセガワ マシーネンクリーガー1/20「傭兵 軍 反重力装甲戦闘機 ファルケ Pkf.85冬期 迷彩仕様」 2009 キット完成品 作家	4-066 ハセガワ 1/48「VF-1S/A バルキリー“スカル小隊”」 2010 キット完成品 株式会社ハセガワ
4-042 ハセガワ 1/72,「中島 一式戦闘機 隼II型乙“飛行教 導隊”」 1982 キット完成品 株式会社ハセガワ	4-050 横山宏 ファインモールド 1/72「メッサーシュミッ ト Bf109 K-4“ボーデンブラッテ”」 2006 コンピュータグラフィックス 作家	4-058 天神英貴 ハセガワ 1/72「VF-0B 可変翼複座型“マク ロスゼロ”」 2004 コンピュータグラフィックス 作家	4-067 天神英貴 ハセガワ1/72「エースコンバット 震電II」 2012 コンピュータグラフィックス 作家
4-043 ハセガワ 1/48「川西局地戦闘機 紫電改」 1988 キット完成品 株式会社ハセガワ	4-051 横山宏 ファインモールド 1/72「メッサーシュミッ ト Bf109 G-10“レーゲンスブルグ工場製”」 2006 コンピュータグラフィックス 作家	4-059 天神英貴 ハセガワ 1/72「VF-0A/S w/ ゴースト」 2005 コンピュータグラフィックス 作家	4-068 「エースコンバット 震電II」デモ映像 2011 映像 (DVD) 株式会社バンダイナムコゲームス
4-044 ハセガワ 1 / 72「ヴォートXF5U-1“フライングバン ケーキ”」 1992 キット完成品 株式会社ハセガワ	4-052 横山宏 エアフィックス 1/24「スーパーマリン ス ピットファイアMk.Vb」 2007 キット完成品 作家	4-060 天神英貴 ハセガワ 1/72「VF-0C (単座型デルタ翼機) VMFAT-203 ホークス」 2008 コンピュータグラフィックス 作家	4-069 ハセガワ 1/72「エースコンバット 震電II」 2012 キット完成品 株式会社ハセガワ
4-045 ハセガワ 1/48「F-104J スターファイター“航空自衛 隊”」 2000 キット完成品 株式会社ハセガワ	4-053 横山宏 「スーパーマリン スピットファイアMk.Vb」 (ジオラマ写真) 2007 データ出力 2点 提供：作家	4-061 天神英貴 ハセガワ 1/48「VF-1J/A バルキリー“バー ミリオン小隊”」 2010 コンピュータグラフィックス 作家	4-070 ハセガワ 1/72「VF-0A/S w/ ゴースト」 2010 キット完成品 株式会社ハセガワ
		4-062 天神英貴 ハセガワ1/48「VF-1S/A バルキリー“スカ ル小隊”」 2010 コンピュータグラフィックス 作家	4-071 ハセガワ 1/8 ミュージアムモデル「ロイヤルエアー クラフトSE.5a」 1981 キット完成品 株式会社ハセガワ

4-072 ハセガワ 1/72「F-15E ストライク イーグル“アイドルマスター 如月千早”」 2010 キット完成品 株式会社ハセガワ	4-082 ノムラトイ「DC-6B」 1960年代前半 ブリキ玩具 50×43×15 個人	4-093 1/100「日本航空コンコルド」 1965 模型 116×50×35 日本航空株式会社	4-104 日本航空定期航空案内 冊子 日本航空株式会社
4-073 ハセガワ 1/72「F/A-18F スーパーホーネット“アイドルマスター 秋月律子”」 2010 キット完成品 株式会社ハセガワ	4-083 マスタヤ「C-130」 1960年代前半 ブリキ玩具 57×41.5×17 個人	4-094 日本航空創立時ポスター 1951 原色版印刷・紙 73×52 日本航空株式会社	4-105 日本航空国内線定期航空案内 冊子 日本航空株式会社
4-074 ハセガワ 1/72「Su-33 フランカーD“アイドルマスター 星井美希”」 2010 キット完成品 株式会社ハセガワ	4-084 「B-50」 1950年代前半 ブリキ玩具 48×37×14.5 個人	4-095 日本航空DC-4（ノースウエスト航空カラー）ポスター 1951-1952 原色版印刷・紙 52×73 日本航空株式会社	4-106 黒澤明 日本エアシステムMD-90 デザイン原画 1995 鉛筆、水彩・紙 22.9×84、24.4×87.8、20.1×84.4 日本航空株式会社
4-075 横浜潤馬 1/32「LVG CVI」 ウイングナットウイングス製キット完成品 作家	4-085 『LES PREMIERS AEROPLANES 1907-18』 1962 書籍 所沢航空発祥記念館	4-096 日本航空DC-8 ポスター 1960年代 オフセット・紙 100×63 日本航空株式会社	4-107 1/30「FDA エンブラエル175 1号機」 模型 87×100×30 株式会社フジドリームエアラインズ
4-076 清水圭 1/32「DH.9a NINAK」 ウイングナットウイングス製キット完成品 作家	4-086 『War Planes in Battle Dress 1914-18』 1963 書籍 所沢航空発祥記念館	4-097 1/200「日本航空 ボーイング767-300ER」 模型 23.8×27.5×7.9 日本航空株式会社	4-108 1/100「FDA エンブラエル175」 模型 31×26×7（6点） 株式会社フジドリームエアラインズ
4-077 久保憲之 1/32「ゴダGV」 ウイングナットウイングス製キット完成品 作家	4-087 日本航空第4代制服 1967 制服 日本航空株式会社	4-098 1/100「日本航空 ボーイング787」 模型 60.1×56.7×20 日本航空株式会社	4-110 FDA ベイントスキーム 2008 データ出力 提供：株式会社フジドリームエアラインズ
4-078 飛内源一郎 1/72「新明和US1 海難救助艇」 ハセガワ製キット完成品 作家	4-088 日本エアシステム初代制服 1971 制服 日本航空株式会社	4-099 1/50「日本航空 ボーイング777-200」 模型 121.8×127.4×37 日本航空株式会社	4-111 「五月晴に世界記録の爆音」（朝日新聞 昭和13年5月） 1938 写真特報 個人
4-079 飛内源一郎 1/72「ソッピースキャメル」 アカデミー製キット完成品 作家	4-089 日本航空スチュワーデス 写真パネル 日本航空株式会社	4-100 日本航空『旅の手帳』 1965 冊子 日本航空株式会社	4-112 航空研究所長距離機絵葉書 1937 原色版印刷・紙 各9×14（11点） 個人
4-080 飛内源一郎 1/72「スパッドS.XⅢ」 アカデミー製キット完成品 作家	4-090 1/50「日本航空DC-3“金星号”」 1951 模型 40×40×10 日本航空株式会社	4-101 日本航空チケットホルダー 1953 チケットホルダー 日本航空株式会社	4-113 木村秀政 1/10「航研機」 模型 279×150×36 青森県立三沢航空科学館
4-081 ヨネザワ「DC-7C」 1960年代前半 ブリキ玩具 60×50×17 個人	4-091 1/50「日本航空マーチン2-0-2 “すい星号”」 1951 模型 57×44×42 日本航空株式会社	4-102 日本航空チケットホルダー 1950年代 チケットホルダー 日本航空株式会社	4-114 1/25「YS-11」 模型 128×118×34 五戸町図書館
	4-092 1/70「日本エアシステムYS-11」 模型 45.7×37.5×12.8 日本航空株式会社	4-103 日本航空香港線パンフレット 1955 冊子 日本航空株式会社	

4-115 1/50「YS-11 試作機」三面図 1962 青焼図 83.5×186 三菱重工株式会社	4-125 木村秀政 『模型飛行機読本』（大日本飛行協会） 1944 書籍 所沢航空発祥記念館	5-003 北代省三 模型飛行機 1960年代以降 木、金属、和紙、プラスチック、ゴム 170×170×55	5-013 北代省三 『模型飛行機入門』のための写真 1970年代前半 ゼラチン・シルバー・プリント 24.9×17.5、16.4×24.8、28.5×22.6（3点）
4-116 1/50「YS-11 量産機」全体図面 青焼図 83.5×186 三菱重工株式会社	4-126 木村秀政 『模型航空機の基礎』（東京日日新聞社） 1941 書籍 所沢航空発祥記念館	5-004 北代省三 『模型飛行機入門』（美術出版社） 1976 書籍	5-014 北代省三 ラジコン模型飛行機による航空撮影 1972 ゼラチン・シルバー・プリント 19.2×19.3、19.6×19、19×19.2、19.2×19.3、 19.2×19、19×19.2、19.3×19.3、19.8×19.3 （8点）
4-117 S37.8.30 YS-11 初飛行の日に 1962 写真 23.5×17.8 三菱重工株式会社	4-127 『航空学入門』（酣燈社） 1975 書籍 五戸町図書館	5-005 北代省三 翼型（大） 1970年代 木 8.4×67.5、7.3×50.5、7.3×47.5、6×45.2、 4.7×32.8（5点）	I-002 八谷和彦 OpenSky Project 1190×890×550
4-118 First Flight（Aug 30'62） 1962 写真 上12.5×18.0 下11.5×16.5 三菱重工株式会社	4-128 木村秀政旧蔵写真「航研機」 写真パネル 42×53 所沢航空発祥記念館	5-006 北代省三 翼型（小） 1970年代 真鍮 3.6×24.3	初級滑空機 PRIMARY GLIDER M-02 2006 木、FRP、ジュラルミン、アルミ、ステンレ ス、その他 131.5×963.6×313.0 金沢21世紀美術館
4-119 木村秀政 YS-11 組立手順アルバム 1962 頃 アルバム 31×28 三菱重工株式会社	4-129 木村秀政旧蔵写真「A-26」 写真パネル 40×53 所沢航空発祥記念館	5-007 北代省三 翼型（小） 1970年代 木 3.5×21.4（3点）	Fairy Finder 02 ー空を見るための望遠鏡 2005 液晶モニター、DVD、紙管、偏光フィルター など 作家
4-120 木村秀政 『飛行機の話』（三省堂） 1930 書籍 五戸町図書館	4-130 木村秀政旧蔵写真「A-26」 写真パネル 38.2×53 所沢航空発祥記念館	5-008 北代省三 翼のリブ部分のための治具 1970年代 木 3.3×7.7（6点）	Open Sky 2.0 予告編 2006 映像（DVD） 1分48秒 作家
4-121 木村秀政 『初歩の航空ハンドブック』（山海堂） 1951 書籍 飛行神社	4-131 木村秀政旧蔵写真「YS-11」 書籍 40×53 所沢航空発祥記念館	5-009 北代省三 風速測定器収納箱 1987 木 13.5×13.5×8.3	パイロットコスチュームを着た1/1MOMOKO 2006 ミクストメディア 作家
4-122 木村秀政 『飛行機革命』（要書房） 1952 書籍 飛行神社	4-132 『航空の技術と精神 - 藤田雄蔵中佐遺稿』（木村秀政編、朝日新聞社） 1940 五戸町図書館	5-010 北代省三 ゴム動力用竹籤曲げ治具 1970年代 木 24.4×15.5	金沢市民芸術村での公開テストフライト 2008 映像（DVD） 9 分20 秒 作家
4-123 木村秀政 『とべ！飛行船』（山と溪谷社） 1976 書籍 飛行神社	5-001 パナマレンコ 四つのフリップ・フロップ（揚力発生器） 1990 ミクストメディア 50.0×35.0×120.0	5-011 北代省三 子供用飛行機玩具 1970年代 木 17×15×7、24×28×6（2点）	「日本のデザイン2010」のためのイラストパ ネル（イラスト：モリナガ・ヨウ） 2010 パネル 作家
4-124 木村秀政 『飛行機の切手』（丸ノ内出版） 1973 書籍 飛行神社	5-002 糸川英夫 『一式戦闘機 隼』の回転性能に関するドロー イング 1992 鉛筆・紙 各29.7×21.0（2点）	5-012 北代省三 図面 1970年代 鉛筆・紙 各79.2×109.3（2点）	5-015 ロータス102B 1991 全長434× 全幅215 株式会社タミヤ
			5-016 中村哲也 ヒドラ 2012 FRP、ポリウレタン 53×28×184 作家

5-017 東京スカナー 2003 映像(DVD)監修：押井守 監督：松宏彰 企画：森ビル株式会社 制作：矢部俊男、杉山央 音楽：記島邦明 20 分 森ビル株式会社	5-026 中村宏 飛行機（機械學宣言） 1970 インク、鉛筆・紙 19.2×27 練馬区立美術館	OHKA 43b 2006-2012 写真、セロテープ、布テープ 650×650×60 作家	G-008 「人力飛行機ソロモン」アーヘム篇 地図 1971 30.2×21.1 ポスター・ハリス・カンパニー
5-018 細江英公 Vron Vron Vrrr! 1971 / 2012 ゼラチン・シルバー・プリント 55.8×37.9 作家	5-027 中村宏 飛行机 1969 色鉛筆・紙 21.8×36.8 練馬区立美術館	Sounds of ZERO 1999-2012 肉声による編集音 (CD) 13 分59 秒 作家	G-009 『季刊 地下演劇』第5号（地下演劇編集委員会 / 演劇実験室◎天井桟敷） 1972 雑誌 21×15.2 ポスター・ハリス・カンパニー
5-019 稲垣足穂 題名不詳（飛行船の絵） 1970 鉛筆、パステル・ボード 31.4×40.5 個人	5-028 中村宏 『現代詩手帖』（思潮社）1969年5月号 表紙 絵原画 1969 インク、墨・紙 29.2×24.1 練馬区立美術館	常設展示（展示室G） 寺山修司：「人力飛行機ソロモン」 G-001 設計：河田悠三、復元制作：simizzy 人力飛行機ソロモン（復元） 2012 アルミ、布、他 860×390×150 青森県立美術館	青森空港ビルサテライト展示（到着ロビー） I-004 伊藤隆介 Realistic Virtuality（Air Commuter） 2001 CCDカメラ、ビデオ・プロジェクタ、モニター、ミクストメディア 作家
5-020 稲垣足穂 『ヒコーキ野郎たち』（新潮社） 1969 書籍 飛行神社	5-029 中村宏 『現代詩手帖』（思潮社）1969年7月号 表紙 絵原画 1969 インク、墨・紙 21.3×29.5 練馬区立美術館	G-002 デザイン：横尾忠則＋横尾ヤスエ 「人力飛行機ソロモン」ポスター 1970 シルクスクリーン・紙 109.8×79.5 青森県立美術館	
5-021 稲垣足穂 『ヒコーキ野郎たち』原稿（複製） 1969 データ出力 提供：大田区立郷土博物館	5-030 中村宏 衣装崇拜 1971 シルクスクリーン・紙 30×21 青森県立美術館	G-003 設計：河田悠三 「人力飛行機ソロモン」舞台装置図面 1970 25.7×36.4 ポスター・ハリス・カンパニー	
5-022 飛内源一郎 1/10「ブレリオX I」 アマティ製キット完成品 個人	5-031 中村宏 飛行機不時着す 1963 油彩・キャンバス 80.3×116.4 練馬区立美術館	G-004 デザイン：榎本了彦 「人力飛行機ソロモン」チケット 1970 9×25.8 ポスター・ハリス・カンパニー	
5-023 稲垣足穂・中村宏 『機械學宣言 地を匍う飛行機と飛行する蒸気機関車』（仮面社） 1970 銅、本 17.5×12.0×4.7 うらわ美術館	5-032 中村宏 模型界 1974 油彩・キャンバス 90.9×116.7 練馬区立美術館	G-005 デザイン：榎本了彦 「人力飛行機ソロモン」地図 1970 29.8×41.9 ポスター・ハリス・カンパニー	
5-024 稲垣足穂・中村宏 『機械學宣言 地を匍う飛行機と飛行する蒸気機関車』（普及版、仮面社） 1970 書籍 青森県立美術館	I-003 中ハンクシゲ Missing 2012 1785×785×300 ATAIU SEA 2012 写真、セロテープ、布テープ 1100×900×350 作家	G-006 「人力飛行機ソロモン」ヨーロッパ公演 台本 1971 冊子 24.5×17.5 ポスター・ハリス・カンパニー	
5-025 中村宏 『機械學宣言』のための挿絵原画 1969 ペン・紙 27×19.2 練馬区立美術館		G-007 「人力飛行機ソロモン」ナンシー篇 舞台写真 1971 データ出力 ポスター・ハリス・カンパニー	

掲載記事

東奥日報

2012年6月27日（水）

空、飛行機テーマに400点 県立美術館 来
月21日から企画展

2012年7月12日（木）

来館者を「おもてなし」 県美コンシェル
ジュ 21日デビュー 16人の研修スタート

2012年7月21日（土）

空と飛行機の文化史 企画展、県美できょう
開幕

陸奥新報

2012年5月26日（土）

空と飛行機テーマ ジャンル超えた400作
品展示 県美7月から夏の企画展

2012年8月2日（木）

幻想的な音世界で魅了 県美 伊藤さん(青
森出身)ライブ

デーリー東北

2012年5月26日（土）

青森県立美術館 7月21日から「Art and Air」
飛行機モチーフに展示

2012年7月21日（土）

児童ら記念に紙飛行機飛ばす 青森県立美
術館 きょうから企画展

読売新聞

2012年5月26日（土）

空と飛行機めぐる展覧会 青森で7月 江
戸時代の鳥瞰図など

2012年7月25日（水）

飛行機の模型や絵画ずらり 9月17日まで
県立美術館で展覧会

聖教新聞

2012年8月4日（土）

Art & Air展 空と飛行機をめぐる、芸術と
科学の物語 来月17日まで 青森県立美術
館

奈良美智：君や 僕に ちょっと似ている

NARA Yoshitomo: a bit like you and me...

開催概要

会期：2012年10月6日（土）－2013年1月14日（月・祝）

開催日数：95日

開館時間：9:30－17:00

*会期中第2、4金曜日は21時まで開館

主催：奈良美智展青森実行委員会（青森県立美術館、青森放送、NPO法人harappa、青森県観光連盟）

共催：東奥日報社

協賛：SHISEIDO、北斗建設株式会社、弘果グループ、青森銀行、みちのく銀行

助成：公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団

協力：十和田市現代美術館、青い森鉄道、ホテル青森、AVRIL

後援：青森県教育委員会、弘前市、JR東日本盛岡支社、JR東日本秋田支社、青森観光コンベンション協会、弘前観光コンベンション協会、八戸観光コンベンション協会、テレビ岩手、ABS秋田放送

観覧料：一般 1,200 (1,000) 円、高大生 700 (600) 円、小中生 300 (200) 円

※() 内は20名以上の団体料金及び前売り

★巡回館：横浜美術館（2012.7.14－9.23）

熊本市現代美術館（2013.1.26－4.14）

入場者数

80,275人

関連イベント

(1) アーティストトーク

作家の奈良美智氏が新作について語った。

日時：2012年12月24日（月・祝） 14:00－15:00

会場：青森県立美術館シアター、(中継会場)ワークショップA

参加者数：220名、(中継会場) 170名

(2) レクチャー「奈良美智の『肖像』論」

本展公式カタログのメインテキストを執筆した加藤磨珠枝氏を講師に、奈良美智作品の魅力を、肖像の歴史との関わりからレクチャーした。

レクチャー講演録はネット公開している。

講師：加藤磨珠枝氏（美術史家、立教大学准教授）

日時：2012年11月3日（土・祝） 14:00－15:30

会場：青森県立美術館シアター

参加者数：80名

レクチャー講演録：

www.aomori-museum.jp/exhibition/Lecture20121103.pdf

(3) 「あおり犬帽子プロジェクト」+「もう一つのあおり犬プロジェクト」

十和田市現代美術館、弘前市のNPO法人harappaとの共同により、県民参加によって秋の帽子を作り、それをかぶる「あおり犬」を公開した。

プロジェクトは奈良美智氏のアイディアから生まれたが、その作業は延べ300人以上にのぼるボランティアの力によって達成された。

作家の細田孝子氏がデザイン監修し、その後はボランティアによる帽子の裁断パターンの制作、材料となるセーター・マフラー集め、裂織りの手法を用いたパーツづくり、教育施設も巻き込んだパーツの縫い合わせ、協賛企業による設置作業など、多くの人の手作業をつないだプロジェクトとなった。

11月6日の完成披露セレモニーでは、ボランティア約120名が完成を祝った。

帽子設置期間：2012年10月6日（土）－11月11日（日）

また、会期中、移転したキッズルームに「もう一つのあおり犬プロジェクト」コーナーを併設し、「帽子プロジェクト」作業状況を写真で紹介するとともに、秋の帽子と共布で作成した帽子を展示し、帽子を被りながら写真撮影ができるようにした。

さらに、ワークショップ前の廊下に本展にちなんだ絵を描いたり、その絵を展示できるコーナーを設けた。

設置期間：2012年10月6日（土）－2013年1月14日（日・祝）

設置場所：県立美術館 展示室H

(障害者文化芸術活動等特別啓発事業)

(4) ドラマリーディング「あおり犬のおはなし」

奈良美智氏の立体作品「あおり犬」の物語を朗読劇で上演した。

県立美術館舞台芸術総監督の作・演出によるもので、青森県立美術館ドラマリーディングクラブ、青森市内中学生、県民参加者(公募)、県内演劇人などによって上演された。

第1回公演 2012年10月6日（土） 13:00－(約30分)

会場：青森県立美術館内（あおり犬前）

参加者数：50名

第2回公演 2012年12月22日（土） 13:00－(約30分)

会場：青森県立美術館シアター

参加者数：85名

(5) 鑑賞ワークショップ「50歳から出会う奈良美智ワールド」
学芸員によるシニア向けの鑑賞ワークショップを開催した。

作家と同世代の参加者を対象に、作品鑑賞をしながらレクチャーを行い、その後お互いの感想を発表しあった。

日時：2012年10月20日（土）、11月17日（土）、12月15日（土）

いずれも10:00-11:30

参加者数：[10/20] 18名、[11/17] 21名、[12/15] 6名

(6) ナイトミュージアム+ギャラリートーク

会期中の第2・4金曜日と会期最終週の平日に夜間開館を実施した。

実施日：2012年10月12日、26日、11月9日、23日、12月14日、
28日、2013年1月7日-11日

夜間開館時間：17:00-21:00

参加者数：1,150名

また、第2金曜日に学芸員によるギャラリートークを実施した。

日時：2012年10月12日、11月9日、12月14日、2013年1月11日

いずれも18:00-（約40分）

集合場所：展覧会会場入口

(7) ライブ「ワイルドサイドば歩（あさ）げ！～walk on the
wild side.～」

ミュージシャン山口洋と細海魚のライブ演奏がNPO法人
harappaにより行われた。ライブの前後と休憩時間には、奈良
美智氏がDJを務めた。

日時：2012年10月6日（土） 18:30-20:00

場所：県立美術館シアター

参加者数：200名

(8) 特設カフェの開設

本展開催に伴うイベントとして、来場者が気兼ねなくお茶などを
飲みながら展覧会の余韻を楽しむための場所として特設カ
フェを開設した。

設置期間：会期中の土日祝日、ナイトミュージアム実施日、1月
2-3日、計45日間

開設場所：地下1階（キッズルームを模様替え）

カフェ名：PeacePalace（ピースパレス、子ども部屋の意）

運営者：TEA&Co.（弘前市）代表 漆館 斉

利用者数：8,198名

(9) もみのきプロジェクト

「あおり犬帽子プロジェクト」終了後の写真スポットとして、
奈良美智氏の作品「^{もみ}樅の子」からイメージを膨らませた「も
みのき」を館内に設置した。白色の高さ3メートルのツリーに
奈良作品関連グッズを装飾し展示した。

期間：2012年11月13日（火）-12月28日（金）

場所：県立美術館1階エントランス

(10) 冬休み特別企画「遊んで、学んで、ポンッ！」

冬休みの小学生を対象にしたクイズラリーやゆるキャラの撮影

会、「もみのきプロジェクト」で使用した奈良作品関連グッズ
等を景品にしたくじ引きを実施した。

〈クイズラリー「これ、知ってた？」〉

日時：2012年12月22日（土）-24日（月・祝）

場所：県立美術館1階エントランス

対象：小学生以下

参加者数：295名（3日間）

〈ゆるキャラと写真でポンッ！〉

日時：2012年12月22日（土）-24日（月・祝）

場所：県立美術館1階コミュニティホール、外部通路、正面
ひさし下

参加キャラ：いくべえ（県観光連盟）、ナマポン（青森市水産
業課）、ねぶたん、ハネトン（青森市観光課）、たか丸くん（弘
前市観光物産課）

〈新春くじ引き大会〉

日時：2013年1月1日（火・祝）

場所：県立美術館1階シアター前

対象：小学生、中学生

参加者数：175名



ポスター



展示風景

日本を代表する弘前市出身の現代美術家・奈良美智の新作による巡回展。

2001年に横浜美術館で、初めての大規模な個展「I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.」が開催されてから約10年。その間、創作ユニット・グラフとのコラボレーションや陶芸など、さまざまな作品形態、手法を試みてきた奈良だが、今回は、自らの創作の原点に立ち返り、オーソドックスな絵画や彫刻といった形式の中から新しい表現の可能性を切り開く、作家活動の節目の展覧会となった。初挑戦の巨大なブロンズ彫刻や、新境地を感じさせる絵画、ドローイングなど109点を展示。

そして、新作109点に加え、常設展示スペースに、初期作品からの軌跡をたどることができる当館所蔵の奈良作品を展示。さらに、「フラフラガーデン」など開館時から固定されていた常設展示を一部大幅に変えて、見所を増やした。

さらに冬季は雪のため通常閉鎖している「八角堂」を会期中のみオープン。その存在を知らない人も多い「八角堂」について、この機会に広くアピールすることができた。

作品リスト

001
《White Ghost》
2010 (大 /large)
FRP、ウレタン仕上げ
365.8×259.1×167.6

002
《ノッポのお姉さん》
2012
ブロンズ
215.0×116.0×122.0

003
《ちょっと意地悪》
2012
白銅
153.0×125.0×135.0

004
《真夜中の巡礼者》
2012
ブロンズ
158.0×58.0×64.0

005
《考えるお姉さん》
2012
ブロンズ
39.3×36.5×36.4

006
《ルーシー》
2012
ブロンズ
142.0×155.0×150.0

007
《悲しい時》
2012
ブロンズ
98.0×78.0×88.0

008
《セソコ猫》
2012
ブロンズ
149.0×125.0×133.0

009
《縦の子》
2012
ブロンズ
213.0×52.0×42.5

010
《Unknown》
2012
白銅
44.5×45.0×34.0

011
《ロングヘアー猫目少女》
2012
ブロンズ
33.0×11.5×11.5

012
《リーゼント犬》
2012
ブロンズ
51.5×28.0×35.5

013
《彫刻のための習作群》
2011-2012
石膏 (8点組)
26.0×16.0×19.0 / 38.0×23.0×24.5 /
36.0×22.0×22.5 / 38.0×23.0×23.5 /
27.5×27.0×29.0 / 58.5×32.0×32.5 /
58.0×40.5×39.5 / 59.0×20.0×24.0

014
《彫刻のためのエスキース》
2011-2012
鉛筆、紙 (13点組)
各 / 51.0×36.0

015
《横浜のためのエスキース》
2011
インク、紙 (2点組)
29.5×42.0/ 21.0×29.5

016
《In the Milky Lake / Thinking One》
2011
アクリル、カンヴァス
259.2×181.8

017
《夜まで待てない》
2012
アクリル、カンヴァス
197.0×182.5

018
《春少女》
2012
アクリル、カンヴァス
227.0×182.0

019
《Under the Hazy Sky》
2012
アクリル、カンヴァス
194.8×162.0

020
《ブランキー》
2012
アクリル、カンヴァス
194.8×162.0

021
《Young Mother》
2012
アクリル、カンヴァス
194.8×162.0

022
《Middle Finger》
2012
アクリル、カンヴァス
53.2×45.5

023
《Cosmic Eyes (未完)》
2012
アクリル、カンヴァス
259.5×249.5

024
《Let's Talk About "Glory"》
2012
アクリル、麻布を貼った板
151.0×108.0

025
《両手フタバ》
2011
アクリル、板
135.5×82.0

026
《フタバ》
2011
アクリル、板
135.5×82.0

027
《Hey Ho Let's Go ! (ぼとふ Version)》
2011
アクリル、板
194.0×240.0×8.5

028
《体重計少女》
2011
アクリル、板
171.5×117.8

029
《山少女》
2011
アクリル、板
141.0×144.5

030
《Real One》
2012
アクリル、板
169.5×194.0×7.5

031
《My Bear》
2012
アクリル、板
174.0×174.0×9.0

032
《One Foot in the Groove》
2012
アクリル、板
187.5×310.0×8.5

033
《ダルシマー (アバラチアン)》
2012
アクリル、板
67.5×57.0×10.0

034
《EXIT》
2012
アクリル、板
90.8×57.0×9.2

035
《女の子》
2011
鉛筆、紙
51.0×36.0

036
《Don't Forget Me》
2011
鉛筆、紙
51.0×36.0

037
《It's Not Enough!》
2011
鉛筆、紙
51.0×36.0

038
《悲しみをぶっとばせ》
2011
鉛筆、紙
51.0×36.0

039
《学生 A 》
2011
鉛筆、紙
51.0×36.0

040
《学生 M 》
2011
鉛筆、紙
51.0×36.0

041
《Peace Sign》
2011
鉛筆、紙
65.0×50.0

042
《Young Mother》
2011
鉛筆、紙
65.0×50.0

043
《Should I Go?》
2011
鉛筆、紙
65.0×50.0

044 《News》 2011 鉛筆、紙 65.0×50.0	055 《Tell Me I》 2011 色鉛筆、紙 42.0×29.5	066 《ミラーボール盆踊り》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	077 《He Is Bad I Am Good.》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0
045 《Searching》 2011 鉛筆、紙 65.0×50.0	056 《Diebe sind im Haus》 2011 色鉛筆、紙 36.5×26.0	067 《Crap Boy》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	078 《Kills Fascists》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0
046 《Pimples》 2011 鉛筆、紙 65.0×50.0	057 《きのこハウス》 2011 色鉛筆、紙 36.5×26.0	068 《Don't Call Me》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	079 《最後のチャンスさ》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0
047 《No Way》 2011 鉛筆、紙 65.0×50.0	058 《Tell Me II》 2011 色鉛筆、紙 36.5×26.0	069 《Don't Forget Me》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	080 《Lone Star》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0
048 《Solid Fist》 2011 色鉛筆、紙 24.0×37.0	059 《Bow Wow Wow》 2011 色鉛筆、紙 42.0×29.5	070 《Don't Mind My Girl》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	081 《OMG!》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0
049 《Super Super》 2011 色鉛筆、紙 77.0×56.0	060 《だけど何をやればいいのだろう》 2011 色鉛筆、紙 35.5×35.5	071 《Dragged Out Fight》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	082 《On Your Feet》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0
050 《Stars》 2011 色鉛筆、紙 42.0×29.5	061 《D' dorf Zoo》 2011 色鉛筆、紙 35.5×35.5	072 《Face》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	083 《Poor Sinners》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0
051 《Dream Time》 2011 色鉛筆、紙 42.0×29.5	062 《Let's Move Ont!》 2011 色鉛筆、紙 35.5×35.5	073 《Get Fooled Again》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	084 《Three Stars》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0
052 《Stay Good》 2011 色鉛筆、紙 42.0×29.5	063 《No!》 2011 色鉛筆、紙 32.0×32.0	074 《God Save Us》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	085 《Unknown...》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0
053 《Hope So》 2011 色鉛筆、紙 42.0×29.5	064 《Song for You to Sing》 2011 色鉛筆、紙 35.5×35.5	075 《Green Lady》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	086 《1.2.3.4》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0
054 《無題》 2011 色鉛筆、紙 42.0×29.5	065 《ナイフ》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	076 《Hearts on Fire!》 2012 色鉛筆、紙 32.0×32.0	087 《朝の中央線で》 2012 色鉛筆、紙 35.5×35.5

088 《あの娘が歌う AIKO が好きだ》 2012 色鉛筆、紙 35.5×35.5	099 《もみの木》 2012 色鉛筆、インク、紙 31.0×23.0	凡例 ・作品番号は、彫刻および彫刻制作の準備 段階で制作された作品、絵画（カンヴァス ／板）、ドローイング、インスタレーション の順に記載した。 ・データは、作品番号、《作品名》、制作年、 素材、サイズ（縦もしくは高さ × 横 × 奥 行 [cm]）の順に記した。
089 《年貢のおさめどき》 2012 色鉛筆、紙 35.5×35.5	100 《Don't Forget It.》 2012 色鉛筆、紙 31.0×23.0	
090 《I Wanna Be Your...!》 2012 色鉛筆、紙 35.5×35.5	101 《Help》 2012 色鉛筆、紙 23.0×16.0	
091 《My Girl》 2012 色鉛筆、紙 35.5×35.5	102 《樅の子》 2012 鉛筆、紙 65.0×50.0	
092 《Rock' n Roll Show》 2012 色鉛筆、紙 35.5×35.5	103 《I Know Who You Are》 2012 鉛筆、紙 65.0×50.0	
093 《Stand Up Again》 2012 色鉛筆、紙 35.5×35.5	104 《使者》 2012 鉛筆、紙 65.0×50.0	
094 《...Words Mean Nothing at All》 2012 色鉛筆、紙 35.5×35.5	105 《Baby Rocker Help Help》 2012 鉛筆、紙 65.0×50.0	
095 《Red Cross Kranken Schwester》 2012 色鉛筆、インク、紙 73.0×105.5	106 《Trommelschlägerin》 2012 鉛筆、紙 65.0×50.0	
096 《2012》 2012 色鉛筆、紙 33.5×24.0	107 《Five Years》 2012 鉛筆、紙 65.0×50.0	
097 《お手あげです》 2012 色鉛筆、紙 32.5×23.0	108 《頭痛》 2012 鉛筆、紙 65.0×50.0	
098 《マラカス》 2012 色鉛筆、紙 32.5×23.0	109 《2011年7月の僕のスタジオから / 水戸 (2011年7月)、横浜(2012年7月14日～9 月23日)での展示を経由して2012年10月の 青森へ》 2006-2012 ミクストメディア サイズ可変	

掲載記事

朝日新聞

2012年8月14日（火）
子ども描写、原点へ 奈良美智展、深み増す

2012年9月4日（火）
「あおもり犬」に帽子を 県立美術館、来月企画 養護学校生徒ら制作

2012年10月6日（土）
「奈良美智展 きょうから県美で」 初挑戦のブロンズなど109点

2012年10月27日（土）
入場者2万人目 県美「奈良美智」展、東京都の会社員

東奥日報

2012年8月11日（土）
「県美10月から奈良美智展」
全館規模で作品紹介 震災後の変化見どころ

2012年8月21日（火）
奈良美智さんが新作個展 メッセージでなく気持ちで

2012年9月4日（火）
「あおもり犬」に帽子を 青森—高養生古着で制作

2012年10月3日（水）
お似合いだね！「あおもり犬」ニット帽完成

2012年10月6日（土）
奈良美智さんインタビュー 僕の頭の中考えて

2012年10月6日（土）
「奈良美智一色」に 新作展きょう開幕 県立美術館

2012年10月9日（火）
奈良美智展の入場者5千人 県立美術館

2012年10月10日（水）
奈良美智展がやって来た 初のブロンズ製彫刻も

2012年10月15日（月）
入場者1万人突破 奈良美智展

2012年10月26日（金）
アートの散歩道 37 奈良美智作品との距離

2012年10月27日（土）
入場者2万人突破 県立美術館奈良美智展
2012年11月10日（土）
入場者3万人突破

2012年11月20日（火）
奈良美智展への思い （上）

2012年11月21日（水）
奈良美智展への思い （中）

2012年11月22日（木）
奈良美智展への思い （下）

2012年11月23日（金）
県立美術館「奈良美智展」入場者4万人突破

2012年11月24日（土）
しんぐるズナイト・ミュージアム
独身男女がアートで交流

2012年12月8日（土）
県立美術館「奈良美智展」入場者5万人突破

2012年12月11日（火）
奈良美智展 過去の展覧会を知る人々が語る（上）

2012年12月12日（水）
奈良美智展 過去の展覧会を知る人々が語る（中）

2012年12月13日（木）
奈良美智展 過去の展覧会を知る人々が語る（下）

2013年1月5日（土）
県立美術館「奈良美智展」入場者6万人突破

2013年1月10日（木）
県立美術館「奈良美智展」入場者7万人突破

2013年1月15日（火）
8万人目は上野さん 県立美術館 奈良美智展が閉幕

2013年1月22日（火）
メモリアルドッグ 原型当面展示

デーリー東北

2012年8月28日（火）
奈良さん（弘前出身）の新作集めた個展
青森県立美術館 10月6日から

2012年10月6日（土）
奈良美智さんが新作個展をPR 青森県立美術館 きょう開幕

読売新聞

2012年7月26日（木）
奈良美智さん個展 悲しみ、苦悩からの再生
深化する少女たちの表情

2012年10月10日（水）
奈良美智展がやって来た 初のブロンズ製彫刻も

河北新報

2012年9月26日（水）
奈良美智さん 地元青森で6年ぶり個展
来月6日開催

2012年10月6日（土）
震災と心境変化 作品からにじむ 青森で奈良美智展

2012年10月28日（日）
美術家・奈良美智さん（青森）個展「君や僕にちょっと似ている」 震災の影響 色濃く反映

2013年1月7日（月）
夜の個展じっくり鑑賞—きょうから青森県立美術館— 美術家奈良さん 絵画や彫刻110点

毎日新聞

2012年10月26日（金）
奈良美智さんの企画展 県立美術館 彫刻、絵など109点

聖教新聞

2012年10月26日（金）
「情報プラザ」

平成 24 年度常設展示

Permanent Exhibition 2012

第 1 期：デザイン関連企画：菊地敦己、minä perhonen ほか
2012 年 4 月 7 日（土）－ 6 月 3 日（日）

開催日数：57 日間

アレコホール：「マルク・シャガールによるバレエ〈アレコ〉
の背景画」（通年展示）

展示室 F 奈良美智インスタレーション（通年展示）

青森県弘前市出身の奈良美智（1959－）は、弘前市の高校を卒業後、東京と名古屋の大学で本格的に美術を学び、1980 年代半ばから絵画や立体作品、ドローイングなど精力的に発表を続けている。当館では、1997 年から奈良美智作品の収集をはじめ、現在その数は 150 点を超える。

《Hula Hula Garden》（1994 年）と《ニュー・ソウルハウス》（2006－2008 年）という 2 点のインスタレーション（空間設置作品）を中心に、奈良美智の世界を紹介。

展示室 G 成田亨：怪獣デザインの美学

成田亨（1929－2002）は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に多大な影響を与えた彫刻家兼美術監督。美術家としての高い感性によってデザインされたヒーロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在する動植物を引用して生み出された形の面白さに特徴がある。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから「フォルムの意外性」を打ち出していくというその一貫した手法により制作された怪獣デザイン原画の中から 32 点を展示。

棟方志功展示室 ふるさとの四季

生まれ育った青森市の八甲田連峰や津軽の岩木山、十和田の奥入瀬渓流など、棟方志功（1903－1975）は故郷の美しい風景を作品に描き表した。21 歳で上京し東京で生活した棟方にとって、故郷青森はいつも心の拠り所となっていた。随筆にも故郷に対する想いを亡き父母の思い出とともに繰り返し綴っている。ふるさとの山は豪快な父を、海は深い愛を注いでくれた母の姿を思わせたのであろう。また、大好きなねぶた祭りをはじめ、県内各地の風物も生き生きと描いている。

棟方にとって青森時代は「わだばゴッホになる」と画家を志した出発点であった。1956 年第 2 回ヴェネツィア・ビエンナーレにて《二菩薩釈迦十大弟子》（1939）などの作品がグランプリを受賞し、板画で世界の頂点に立った棟方は、晩年自らの来

し方を振り返るように故郷をテーマにした作品を多数制作した。

新たに棟方志功記念館に寄託された作品を含めた風景図を中心に、棟方がふるさとへの想いを込めて描いた作品など 18 点を紹介。

展示構成：棟方志功記念館

展示室 MN 石井康治：光と風の詩・季・彩

石井康治（1946－1996）は、青森の自然を愛し、光と風が織りなす北国の四季を彩り豊かなガラスによって作品にうつし取った。

「色ガラスを用いて自分のイメージを詩のような感じで作りたい」と語っていた石井の創作は、ドローイングやデッサンなどで自然を写生することからはじまった。そして工房で熱したガラスを中空の棹に巻き取り、息を吹き込んで膨らませ、そこに選び抜いた色彩を溶着させ、最終的なかたちを作る。繊細な感性と優れた造形感覚、そして確かな手の技に裏打ちされつつ、自然との対話、ガラスという素材との対話から生まれた作品は、それぞれが一編の詩のように石井康治の世界へと私達を誘う。

「青森で作った作品を、青森の人たちに見てもらえるスペースを作りたい」という石井の遺志を受けて、現在、170 点余の作品が遺族から青森県立美術館に寄託されている。今回はそのなかから、20 点を紹介。

展示室 PQ 菊地敦己：PLAY

青森県立美術館の VI（ヴィジュアルアイデンティティ）計画を担当するアートディレクター／グラフィックデザイナーの菊地敦己（1974－）の作品の中から約 50 点を紹介。

武蔵野美術大学在学中より、作品制作と並行してデザインの仕事を開始した菊地は、大学卒業後、若手美術家たちによるアーティスト・ラン・スペース「スタジオ食堂」のプロデュースに携わった後、2000 年にはデザイン事務所「ブルーマーク」を設立。企業のブランディングをはじめ、数々のグラフィックワークを手がける一方、出版活動や自社プロダクトの開発、飲食店経営等幅広い活動を展開している。

今回の展示は、ファッションブランド「minä perhonen」、「sally scott」のために制作されたグラフィックワークの他、新しい印刷表現を試みた実験的作品、2009 年に当館で開催された企画展「ラブラブショー」出品作などを用いたインスタレーションにより構成された。

展示室 O ミナ ペルホネン 私たちと私 minä perhonenの仕事

ミナ ペルホネンは、デザイナーの皆川明（1967-）により設立されたファッションブランド。「特別な日常服」をコンセプトに、ブランド設立当初より一貫してテキスタイルをオリジナルでデザインし、織りやプリント、刺繍で表現。国内外の職人や工場との緊密な連携によって生み出されるクオリティの高い「ものづくり」においても高く評価されている。また、近年は、家具やうつわなどの生活デザインもオリジナルプロダクトとして発表するなど独自性の高い取り組みを行っている。

青森県立美術館では、2009年にフロアスタッフのユニフォームをリニューアルするにあたり、ミナ ペルホネンにデザインを依頼した。美術館カラーのスモッグタイプのワンピースに、定番柄の《tambourine》（2000年）や《chouchou》（2002年）の刺繍がほどこされたそのデザインは、以来、美術館の建物やサインとともに当館の魅力の一つとして、多くの来館者に愛されている。

これまでに発表されたテキスタイルや洋服とともに、ミナ ペルホネンの「ものづくり」に携わるさまざまな作り手の写真を展示し、ミナ ペルホネンの仕事の一端を紹介。

第2期：常設展＋特別展示「超群島－ライト・オブ・サイレンス」
2012年6月9日（土）－7月8日（日）

開催日数：29日間

※以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

特別展示「超群島－ライト・オブ・サイレンス」（棟方志功展示室、展示室BCENOPQ、映像室を使用）

2011年3月11日の東日本大震災以後、都市インフラの脆弱性、財政危機、中央と地方の不均衡など、1960年代以後構築してきた近代社会全体の限界が顕わになった。複雑化しすぎた社会のシステムはウルリヒ・ベックがいう「危険社会」的状況を全面化させ、コントロール不可能な「新たな自然」として人々の恐怖の対象となった。

そこで本展では、日本列島全体を交通インフラによってネットワーク化する1960年代以後の群島状況と、情報インフラのネットワークによる1990年代以後の新たな群島状況が構成する現代の「超群島－Hyper Archipelago」的状況のありようを描き、そこに新しいコミュニケーションを生み出そうとするアーティスト／アーキテクトに焦点を当て、青森が持つ深い森と大地のイメージを、複雑なシステムの上に生と死が隣り合う現代社会の静かなる光＝「ライト・オブ・サイレンス」に満たされた風景として描く試みをおこなった。

出品作家：磯崎新／キュルル feat. チハルチロル／大庭大介／ダレン・アーモンド／阿部合成／中村宏／小島一郎／工藤甲人／森万里子／マーク・ダイオン／石井七歩／リチャード・ロング／高山良策／伊藤隆介／棟方志功／荒川修作／スプツニ子！／チームラボ／工藤哲巳／今井俊満／mashcomix＋TEAM ROUNDABOUT／藤村龍至／動線設計：青木淳

関連企画：トヨダヒトシ スライドショー

日時：6月29日（金）－7月1日（日） 18:00－

場所：三内丸山遺跡 大型竪穴式住居内

ニューヨークを拠点に、映写機を自らが操作して上映するライブ・スライドショーという形式で長・短編の映像日記作品を発表している写真家・トヨダヒトシ（1963-）の3作品《ゾウノシippo》（1999年）、《白い月》（2010年）、《黒い月》（2011年）を、美術館に隣接する三内丸山遺跡竪穴式住居内で上映。

第3期：没後10年特集展示：成田亨 ほか

2012年7月14日（土）－10月3日（水）

開催日数：77日間

※以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

※展示室GKIは企画展「Art and Air ～空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語」展展示会場の一部として使用

棟方志功展示室 女人讃歌

自由に天空を舞う天女や、どっしりと存在感のある豊満な女性など、棟方志功は様々な女人図を描いたが、それらの多くは額に星をつけた姿で描かれている。

「裸體（はだか）の、マッパダカの顔の額の上に丸い星をつけければ、もう立派な佛様になって仕舞うんだから、ありがたく、恭（かたじ）けない」と棟方は語り、しばしは女性を佛の姿に描き表した。棟方にとって女性は、慈悲深い仏にも似た存在であつたのであろう、額の星（白毫）ひとつで仏のようにも生身の人間のようにもみえる神秘的な女人像は棟方が最も得意としたテーマであつた。昭和30年代後半からは、女性の顔だけを大きく表した円窓大首絵とよばれるスタイルの美人画も多く描いた。ふくよかな顔に大きな切れ長の目をした棟方独特の美人画には慈愛あふれる母のイメージも投影されている。

本展示では、女性を讃美した岡本かの子の詩をもとに制作した《女人観世音板画巻》（1949年）、谷崎潤一郎の小説挿絵として制作された《瘋癲老人日記板画柵屏風》（1962年）など様々な主題が込められた棟方の女人図20点を紹介。

展示構成：棟方志功記念館

展示室 M 澤田教一：安全への逃避

1965年9月6日、その日、米海兵隊は、ベトナムのクニヨンという川沿いの村で、掃討作戦を実行していた。ベトコン狙撃兵の発砲を受けた米軍が、ナバーム弾で空から村に攻撃を仕掛けようとした時、避難を呼びかけられた村人の一群が川へ飛び込んだ。対岸にいたカメラマン・澤田教一（1936－1970）は、着のみ着のまま必死に泳いでくる親子の姿を見逃さなかった。《安全への逃避》という名で「ワシントンポスト」をはじめ、数々の紙面を飾ったこの一枚の写真は、その年の第9回世界報道写真展のグランプリを、翌年には、ジャーナリズムの最も権威ある賞とされるピューリッツァー賞を与えられる。澤田がベトナムの戦場で本格的な取材を開始して、わずか2ヶ月ほどのうちに撮った写真であった。

1936年、青森市寺町（現在の本町）に生まれた澤田は、青

森高校を卒業後、三沢基地内の写真店で働きながら写真を学ぶ。1961年夏、プロのカメラマンを目指して上京。半年後、三沢時代に知り合った米軍将校の紹介でUPI通信社東京支局写真部に入社してからは、戦場カメラマンの道をまっしぐらに突き進む。

《安全への逃避》以後も澤田は、第10回世界報道写真展で第一位、第二位を受賞した、《泥まみれの死》(1966年)、《敵をつれて》(1966年)など、たて続けに傑作を生み出している。そして1970年3月にはクーデターの勃発で混乱を極めるカンボジアで取材を始める。同年の10月、UPIプノンペン近郊に取材に出かけた澤田は、移動中にクメール・ルージュと思しき一群の銃弾に倒れる。34歳であった。

本展示では、《安全への逃避》を含む作品21点を紹介。

展示室NPQ 没後10年特集展示 成田亨

成田亨は神戸市に生まれ、直後に青森県へ移った。旧制青森中学(現青森高校)在学中に画家・阿部合成と出会い、絵を描く技術よりも「本質的な感動」を大切に考える方を、さらに彫刻家の小坂圭二から対象物の構造や組み立て方、ムーブマンを重視する方法論を学んだ後、武蔵野美術学校(現武蔵野美術大学)西洋画科へと進学。当初は油彩画を専攻していたが、3年次に彫刻科へ転科。具象性を維持しつつもフォルムを自在に変容させ、動のかつ緊張感ある構成を作り上げていくという成田芸術の基礎がここに形づくられていった。

武蔵野美術学校研究科に在籍していた1954年、成田は入出の足りなかった「ゴジラ」の製作に参加、そこで円谷英二と出会い、以降、特撮美術の仕事も数多く手がけるようになった。

1965年、東宝撮影所で円谷英二と再会し、「怪獣のデザインはすべて自分がやる」という条件のもと「ウルトラQ」の2クールから制作に参加、以降「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」までのシリーズに登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニック等のデザインを手がけた。放映に際し、「これまでにないヒーローの形を」という脚本家・金城哲夫の依頼を受けた成田は、プラトンの「カオス(混沌)とコスモス(秩序)」という考え方を導入、ウルトラマンのデザインではギリシャ彫刻に見られるアルカイックスマイルやギリシャ哲学のカノン(規範・典型)の概念を用いて単純化・純粋化を意図し、対する怪獣のデザインには変形や合成といった混沌の要素を盛り込んでいった。

成田は、ウルトラシリーズ以降も、テレビでは「マイティジャック」や「突撃ヒューマン」、「円盤戦争バンキッド」など、映画では「新幹線大爆破」や「戦争と人間」、「この子を残して」、「トラック野郎」シリーズ、「麻雀放浪記」などを手がける一方で、個展を中心に油彩画や彫刻の作品を次々に発表。また、1990年には京都の大江山に巨大な《鬼のモニュメント》を制作するなど旺盛な活動を続けていった。

新制作展への最後の出品となった《翼を持った人類の化石》(1971年)には、科学技術信仰や経済至上主義に対する痛烈な批判が込められているが、後年の作品でも「悲劇」や「絶望」が繰り返しテーマとなっており、人体や空、雲、海といったモチーフをとおして様々な悲劇の物語が提示されている。こうし

た雲や海の描写は子供の頃に見て感動したという戦争記録画からの影響が指摘できるが、ジオラマやパノラマなどに端を発したその絵画様式が絵画、彫刻や特撮の仕事を含めて成田の芸術観や技法に与えた影響は大きいように思われる。

終生、芸術とサブカルチャーの狭間でジャンルの垣根を越えた活動を展開した作家・成田亨の活動の一端を怪獣デザイン原画の他、油彩画、彫塑、関連資料等111点により紹介。

協力：成田流里、成田湊、大島太郎、相原秀

第4期：奈良美智展関連展示

2012年10月6日(土)－2013年1月14日(月)

開催日数：95日間

※以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

※展示室FGは企画展「奈良美智：君や僕にちょっと似ている」展展示会場の一部として使用

展示室O リチャード・ロング：白神山地を歩く

リチャード・ロング(1945-)は、1997年5月末、世界遺産・白神山地に青森県側から入山し、8日間にわたり単独歩行した。この「歩行」の中で、フォトワーク《白神山地歩行シリーズ》が生み出された。「青い森の歩行」、「キャンプ地の石」、「初夏の円環」、「白神の線」、「白神の円環」の5点からなるこのシリーズは、作家自身がそこに存在したことを示すわずかな痕跡を含んだ風景写真と短いテキストから構成されている。

展示室O 小島一郎：津軽

「青森駅から奥羽線に乗り、弘前の手前の川部駅で五能線にのりかえて、五所川原あるいは木造で下車して津軽半島に向かって北上する」(※小島一郎「雪の津軽を撮り続ける」、『カメラ毎日』1960年8月号)。これが写真家の決まりの撮影行であった。

大正13(1924)年、青森市大町(現本町)に、県内で最も古い写真材料商を営む家の長男として生まれた小島一郎(1924-1964)は、昭和30年代、青森県内をくまなく歩き、津軽の農村や厳冬の下北の風景を撮った写真家である。若くして命を落とした小島が、写真家として活動した期間はおよそ10年にすぎない。しかし、その短い間に、独特の造形感覚と複雑な印画の技法によって、郷土への熱い思いに裏打ちされた印象的な写真の数々を残した。

青森県立美術館は、2005年より3000点以上に及ぶ小島の写真や資料を遺族から寄託されているが、今回はそのなかから津軽を撮影した作品22点を展示。

第5期：常設展示+特別展示「寺山修司 dialogue ケネス・アンガー」

2013年1月19日(土)－3月10日(日)

開催日数：48日間

※以下、展示替えの行われた展示室のみ記載。なお、展示室Fは、企画展「奈良美智：君や僕にちょっと似ている」以降、一部展示作品を変更した。

棟方志功展示室 東北への祈り

1937年、東京銀座の鳩居堂で開催された日本民芸館主催「新
作実用工芸展・棟方志功第1回新作展」に棟方志功は板画《東
北経鬼門譜》(1937年)を出品した。東北の飢饉の悲惨な有様
を詠った佐藤一英の詩「鬼門」に触発され制作したもので、板
木120枚からなる大作であった。

「わたくしは東北の生まれですが、東北も一番はじの冬が長
く夏が短い、苦難の多い土地に育ちました。そこでは、百姓は
苦勞して仕事をして、わずかの収穫しか得られず、夏あたり
から寒い風が吹いて、いつも凶作ばかり、豊作という言葉は聞
いたことのない土地に生まれました。(中略) こういう宿命は
自分ひとりのものでなく、土地のうけた宿命です。これを一つ
仏の力をかりて幸あらしめる念願を仕事の上にあらわそうと思
いました。」(棟方志功『板画の道』1956年)

青森で生まれ育った棟方は、画家を目指して上京した後も故
郷を忘れることはなく、後年、随筆や自伝の中で子供の頃の思
い出を綴っている。自然豊かな青森の風景や、色とりどりの風
絵やねぶた祭りなどの情景とともに繰り返し記されるのは、貧
しかった生活や贅沢をすることなく亡くなった両親の思い出
だった。棟方にとって故郷は懐かしく愛しい土地でありながら、
どこかせつなく、もの哀しい想いのする土地であった。一英の
詩を読んだ棟方は、故郷東北を仏の力で幸福にしたいという祈
りの想いをこめ、作品を制作した。

本展示では、故郷を題材にした作品などを中心に22点展示。
展示構成：棟方志功記念館

展示室 HIJ 阿部合成：新収蔵作品を中心に

阿部合成(1910ー1972)は青森市浪岡生まれの画家。画壇か
ら背を向け、独自の芸術を追及したその苦悩に満ちた生涯は、
針生一郎の評伝のタイトル「修羅の画家」とともによく知られ
ている。

また、阿部は青森中学で作家・太宰治の同級生であり、生涯
を通じての親友としても知られ、1965年には太宰の故郷、金
木町(現五所川原市)芦野公園の太宰治碑を制作している。

青森県立美術館では開館前より阿部合成の作品を収集してき
たが、平成23年度にはコレクターより戦後の油彩画を中心に
75点の作品を寄贈いただいた。今回はそれらの新収蔵作品を
中心に、3つのコーナーに分けて戦後の作品を紹介した。

展示室 J 死の国から シベリア抑留の記憶

《シベリアの想い出に》と題された作品の他、骸骨の描かれ
た作品、死者達への鎮魂の祈りを思わせる作品5点を展示。

展示室 I 帰還、そしてメキシコへ

シベリア抑留から帰還後の作品の他、戦後、2回にわたり滞
在したメキシコにおいて、独自のスタイルを開花させた一連
の作品20点を展示。

展示室 H 晩年 道化とキリスト

阿部合成が好んで描いたサーカスや道化の主題と、最晩年、
病に苦しみながら独自の表現を深めていったキリスト教的な
祈りの作品16点を展示。

展示室 LM 関野準一郎：版木から解き明かす創作の秘密

関野準一郎(1914ー1988)は、故郷、青森をはじめ日本や世
界各地の風景を描き、また身近な人々から著名人までをモデル
にした人物像などで、多くの人々に親しまれている。

青森県立美術館では、関野のアトリエに残されていた版木を
はじめとする貴重な資料を多数所蔵しており、2014年の生誕
100年に向けて、その創作の全貌を明らかにすべく調査を進め
ている。

関野の創作の多くを占める版画作品では、繊細さと大胆さを
兼ね備えた色遣いと、彫りや摺りの様々な技法を駆使した版画
ならではの造形的な効果をいかして画面構成が練り上げられて
いる。

なかでも関野が最もよく手がけた多色摺木版画は、複数の版
木と色を用い、10回を超えることも珍しくない摺り重ねを経
て作品が完成する。普段、作品を観ているだけでは分からない
創作の秘密を、版木等を用いて紹介した。

展示室 M 人間を彫る《棟方志功像》

《棟方志功像》(1968年)は、敬愛する同郷の先輩画家、「わ
だばゴッホになる」と青森から世界に飛び出した棟方志功を
描いた関野準一郎の代表作。

本作品に関しては、当館では遺族から寄贈された版木とと
もに、版木を摺り重ねて作品が出来上がっていく過程を連続
して解説した摺り重ね見本と、版木のいくつかを個別に刷っ
た見本を所蔵している。

今回は、本作品の他、これらの摺り見本、版木も併せて展示。

展示室 L 「雪」を描く

太宰治の生家を描いた作品《津軽金木(青森)》(1976年)
など雪国に生まれた関野が描く雪景色を6点の版画作品によ
り紹介。また、併せて作品に使用された版木の一部も展示。

展示室 N 成田亨：怪獣デザインの美学

成田亨は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウ
ルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、
日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督で
ある。美術家としての高い感性によってデザインされたヒー
ロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然
界に存在する動植物から引用して生み出される形の面白さが特
徴である。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこか
ら「フォルムの意外性」を打ち出していくというその一貫した
手法からは成田の揺らぐことのない芸術的信念が読みとれる。
怪獣デザイン原画の中から22点を展示。

展示室 O 青木野枝+青森県立むつ養護学校 「鉄のワーク ショップ」

2013年1月28日ー30日、青森県立むつ工業高等学校において、
青森県立むつ養護学校高等部の生徒13人が彫刻家・青木野枝
(1958ー)とともに3日間にわたるワークショップをおこない、
初めての鉄による作品制作をおこなった。制作の過程を記録し
た写真とともに、生徒が制作した作品を展示。

※本展示は2月2日(土)より開始

展示室PQ 寺山修司 dialogue ケネス・アンガー

本展の開催経緯は、三島由紀夫がケネス・アンガー（1927ー）の映画《スコピオ・ライジング》（1963年）をニューヨークで観たというエピソードが契機となっている。映画・演劇プロデューサーで日本アートシアター・ギルド（ATG）の主要な映画館「アートシアター新宿」の総支配人葛井欣士郎が新宿に映画館を開館する際、葛井が三島にその映画館の命名を依頼し、映画《スコピオ・ライジング》に因んで「蠍座」と名付けられた。その劇場で寺山修司がケネス・アンガーの映画に出会い影響を少なからず与えられた。

今回の展示では神話的アンダーグラウンド・カルチャーの旗手として活躍した東西2人のアーティスト、寺山修司とケネス・アンガーの作品を通じた邂逅を基にダイアログ形式で彼らの活動を紹介。ケネス・アンガーの映画短編集『マジック・ランタン・サイクル』に収められている代表的な作品《スコピオ・ライジング》を上映するとともに、映画のシーンを自ら写真化した作品11点を展示。一方、寺山修司の映画作品《二頭女―影の映画》（1977年）を併せて上映することにより、アンガーの映像や写真作品との対話を試みた。

関連企画：寺山修司 × ケネス・アンガー映画特集上映会

日時：2月9日（土）10:00ー、2月10日（日）13:30ー

場所：青森県立美術館シアター

寺山修司の実験映画を上映する「寺山修司デー」（2月9日）と、ケネス・アンガーの『マジック・ランタン・サイクル』を上映する「ケネス・アンガー デー」（2月10日）を開催。

寺山修司「審判」上映 ※臨時休館により中止

日時：3月10日（日）16:00ー

場所：青森県立美術館展示室P

釘を打つという観客の行為によって上映のたびに異なる情景がつくられる偶然性を内蔵した実験映画「審判」を展示室内において上映。

学芸

美術資料収集

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ × 縦 × 横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料収集

平成24年度収集美術資料

石井康治
水指
1987以前
18.0×21.0
ガラス・宙吹き
寄贈

石井康治
風
1988
35.0×29.5×15.0
ガラス・宙吹き
寄贈

石井康治
彩烈文器
1991
40.5×18.0
ガラス・宙吹き
寄贈

石井康治
彩烈文器
1991
33.0×20.0
ガラス・宙吹き
寄贈

石井康治
径
1988
31.0×27.0×8.5
ガラス・宙吹き
寄贈

石井康治
波文花瓶
1988
19.0×22.0
ガラス・宙吹き
寄贈

石井康治
彩流モール花瓶
1993
54.0×17.5
ガラス・宙吹き
寄贈

石井康治
花吹雪鉢
1990
15.0×27.0
ガラス・宙吹き
寄贈

石井康治
テーブルランプ
1991
60.0×29.0
ガラス・宙吹き
寄贈

石井康治
煌
1990
42.0×20.0
ガラス・宙吹き
寄贈

柿崎卓治、根市良三
松下千春宛葉書
1932-37
葉書6枚
寄贈

工藤哲巳
年賀状1976年
1976
14.3×10.4
紙、絵具、蛍光塗料
寄贈

今純三
大震災風景(ブラック小屋)
1923
12.0×18.0
紙・銅版
寄贈

奈良美智
バンコク猫 1
2008
イメージ 19.0×25.3
インクジェットプリント
寄贈

奈良美智
バンコク猫 2
2008
イメージ 19.0×25.3
インクジェットプリント
寄贈

奈良美智
バンコク猫 3
2008
イメージ 19.0×25.3
インクジェットプリント
寄贈

奈良美智
バンコク猫 4
2008
イメージ 19.0×25.3
インクジェットプリント
寄贈

奈良美智
バンコク猫 5
2008
イメージ 25.3×19.0
インクジェットプリント
寄贈

奈良美智
バンコク猫 6
2008
イメージ 19.0×25.3
インクジェットプリント
寄贈

奈良美智
バンコク犬 1
2008
イメージ 19.0×25.3
インクジェットプリント
寄贈

松江泰治
JP-02 01
2012
50.2× 61.1
type C print
寄贈

松江泰治
JP-02 02
2012
50.2× 61.1
type C print
寄贈

松江泰治
JP-02 03
2012
50.2× 61.1
type C print
寄贈

松江泰治
JP-02 04
2012
50.2× 61.1
type C print
寄贈

村上善男
疋町に釘打ち
1985
91.0×72.5
ミクストメディア
寄贈

村上善男
釘打ち
1983
80.9×72.7
アクリル・キャンバス
寄贈

山口勝弘
「試験飛行家 W.S.氏の眼の冒険」(スチール写真)
1953 / 2012
29.7×42 (4点)
RCペーパー、パネル貼
寄贈

美術資料貸出状況

平塚市制80周年記念 棟方志功展

貸出先

・平塚市美術館

展示施設（会期）

・平塚市美術館（12/4/14－6/3）

貸出点数：16

作品名

- ・棟方志功「大和し美し」
- ・棟方志功「幻想板画欄」
- ・棟方志功「勝鬘譜善知鳥版画曼陀羅」
- ・棟方志功「山間風景図」
- ・棟方志功「花矢の欄」
- ・棟方志功「桃真盛り」
- ・棟方志功「群鯉図」
- ・棟方志功「大印度の花の欄」
- ・棟方志功「青森山之神図」
- ・棟方志功「御吉祥大辨財天御妃尊像図」
- ・棟方志功「angeles (A)」
- ・棟方志功「Angels (B)」
- ・棟方志功「鍵板画欄 全 59 欄」
- ・棟方志功「御三尊像図」
- ・棟方志功「雪国風景図」
- ・棟方志功「八甲田山麓図」

「ウルトラマン・アート！」展

貸出先

- ・北海道新聞社
- ・埼玉県立近代美術館
- ・高松市美術館

展示施設（会期）

- ・埼玉県立近代美術館（12/7/7－9/2）
- ・高松市美術館（12/9/15－10/28）

貸出点数：24

作品名

- ・成田亨「ウルトラセブン初稿」
- ・成田亨「ウルトラマン」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「ウルトラ警備隊隊員コスチューム」
- ・成田亨「エレキング」
- ・成田亨「カネゴン決定稿」
- ・成田亨「キングジョー決定稿」
- ・成田亨「ケムール人」
- ・成田亨「ゴーガ注意書き」
- ・成田亨「ゴドラ星人」
- ・成田亨「ゴモラ決定稿」
- ・成田亨「シーボーズ」
- ・成田亨「ジャミラ」
- ・成田亨「ゼットンイラスト」
- ・成田亨「ダダAイラスト」
- ・成田亨「ダダBイラスト」
- ・成田亨「ダダCイラスト」
- ・成田亨「バルタン星人初稿」
- ・成田亨「ピット星人」
- ・成田亨「ブルトン」
- ・成田亨「ベムラー」
- ・成田亨「ベムラー（ウルトラマン）初稿」

- ・成田亨「メトロン星人」
- ・成田亨「レッドキング」

館長 庵野秀明 特撮美術館 ミニチュアで見える昭和平成の技

貸出先

・東京都現代美術館

展示施設（会期）

・東京都現代美術館（12/7/10－10/8）

貸出点数：12

作品名

- ・成田亨「ウルトラセブン決定稿B案」
- ・成田亨「ウルトラセブン頭部」
- ・成田亨「ウルトラホーク2号」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「ウルトラ警備隊マーク」
- ・成田亨「ウルトラ警備隊隊員コスチューム」
- ・成田亨「キングジョー初稿」
- ・成田亨「にせウルトラマン」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「科学特捜隊基地セット」
- ・成田亨「特殊潜航艇s号（3面図）」

棟方志功展

貸出先

・北海道立函館美術館

展示施設（会期）

・北海道立函館美術館（12/9/15－11/7）

貸出点数：5

作品名

- ・棟方志功「桃真盛り」
- ・棟方志功「大印度の花の欄」
- ・棟方志功「青森山之神図」
- ・棟方志功「御吉祥大辨財天御妃尊像図」
- ・棟方志功「御三尊像図」

開館30周年記念展「自然共生」ー福田豊四郎と工藤甲人ー

貸出先

・小坂町立総合博物館郷土館

展示施設（会期）

・小坂町立総合博物館郷土館（12/9/28－11/4）

貸出点数：2

作品名

- ・工藤甲人「蓮」
- ・工藤甲人「夢と覚醒」

「東京 1955－1970 新しい前衛」展 "Tokyo：1955－1970 A New Avant-Garde"

貸出先

・国際交流基金

展示施設（会期）

・ニューヨーク近代美術館（12/11/18－13/2/25）

貸出点数：1

作品名

- ・篠原有司男「コカコーラ・プラン」

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

サポートスタッフ

メンバーシッププログラム

平成24年度 普及プログラム

1 一般プログラム

(1) 県美土曜ゼミ

美術作品の解説に止まらず、社会のあらゆるジャンルとの関わり、様々な視点から「美術とは何か」を参加者と美術館スタッフがディスカッションを重ね、考えるゼミ形式の講座を6月から2月まで月1回開催した。

時間：各日13:30-15:00

①2012年6月9日(土)「超群島」

②2012年7月21日(土)「Art&Air：空と飛行機の話」

③2012年8月25日(土)「成田亨の人と芸術」

④2012年9月8日(土)「アートプロジェクトが生み出すもの」

⑤2012年10月13日(土)「奈良美智：創造の原点」

⑥2012年11月10日(土)「阿部合成：修羅の画家の苦悩と表現」

⑦2012年12月8日(土)「世界の現代美術状況の最前線」

⑧2013年1月12日(土)「寺山修司とケネス・アンガー」

⑨2013年2月9日(土)「青木野枝：彫刻における触覚領域」

定員：各回30人

参加者：153人

2 創作支援プログラム

(1) オープンアトリエ

①Art&Air 展関連「ゼロ戦プロジェクトの作品製作体験」

講師：美術館スタッフ

日時：2012年6月16日(土) - 22日(金) 10:00 - 16:00

講師：普及スタッフ

場所：ワークショップ

参加者数：41人

②柿崎真子「アオノニマス」アーティストトーク

日時：2012年12月15日(土)

講師：柿崎真子

場所：コミュニティギャラリー

参加者数：50人

③柿崎真子「アオノニマス」写真展

日時：2012年12月15日(土) - 24日(月) 9:30 - 17:00

場所：コミュニティギャラリー

参加者数：900人

④柿崎真子「アオノニマス」オープンアトリエ

館内外でテーマに沿った写真撮影をして、コミュニティギャラリーに展示した。

講師：出展作家及び美術館スタッフ

日時：2012年12月15日(土) - 21日(金) 10:00 - 16:00

参加者数：90人

⑤いろいろつくる

講師：美術館スタッフ

日時：2013年2月16日(土) - 22日(金) 10:00 - 16:00

場所：ワークショップ

参加者数：26人

3 展覧会関連プログラム

(1) フィンランド展「出前講座」

弘前実業高校、青森中央短期大学、青森市ろうあ協会に美術館スタッフが赴き、フィンランド展の内容やその見どころをわかりやすく紹介した。

実施日：2012年4月26日(木)、5月14日(月)、5月17日(木)

対象：生徒、学生、一般

料金：無料

参加者数：230人

(2) フィンランド展「トークセッション ムーミンが住む森の生活」

ムーミンの原画を所蔵するタンペレ市立美術館学芸員ほかにより、世界中の人々の心をとらえるムーミンの物語の魅力、その背景にあるフィンランドの自然や伝統的な生活について語った。

トーカー：エリナ・ボネリウス(タンペレ市立美術館ムーミン谷コレクション学芸員)、橋本優子(宇都宮美術館主任学芸員)、池田亨(青森県立美術館学芸主幹)

日時：2012年4月7日(土) 13:30 - 15:30

場所：シアター

料金：無料

定員：220人

参加者数：150人

(3) フィンランド展「マリメッコ生地でファブリックパネルをつくる」

「フィンランドと言えばマリメッコ」というほど日本でも人気の生地を使った室内装飾用のパネルの制作。

講師：あおもりインテリアコーディネーター倶楽部

日時：2012年3月28日(水) 10:00 - 11:30

2012年4月11日(水)、30日(月) 10:30 - 12:00

場所：ワークショップ、A-Factory

料金：2,000円

定員：60人
参加者数：75人

(4) フィンランド大使来青記念レクチャー「フィンランドデザイン」のルーツ」

フィンランド展開催を機に来青したフィンランド大使夫妻により、フィンランドデザインのルーツについての記念レクチャーを開催した。

レクチャー：ヤリ・グスタフソン（フィンランド国特命全権大使）

フィンランド展 Q&A：ヤリ・グスタフソン（フィンランド国特命全権大使）、アンナ・グスタフソン（大使夫人）、橋本優子（宇都宮美術館主任学芸員）

日時：2012年5月8日（火） 10:30－11:30

場所：シアター

料金：無料

定員：220人

参加者数：80人

(5) フィンランド展ワークショップ「あおり犬meetsムーミン！」

樹脂粘土を使って、あおり犬とムーミンのキーホルダーを制作した。

講師：美術館スタッフ

日時：2012年5月12日（土） 13:30－16:00

場所：ワークショップ

料金：材料費 1,000円

定員：30人

参加者数：30人

(6) フィンランド展「講演会 島崎先生とあるくフィンランド展」

日本における北欧家具の第一人者で「生活デザイン」の提唱者である島崎信氏による北欧デザインとフィンランドのモダンデザインについての講演会を開催した。併せて本展覧会のギャラリートツアーも実施した。

講師：島崎信（日本フィンランド協会理事長、武蔵野美術大学名誉教授）

日時：2012年5月16日（水） 15:00－17:00

場所：ワークショップ、企画展示室

料金：ギャラリートツアー＋講演会 1,500円

講演会のみ 500円

定員：50人

参加者数：30人

主催：公益社団法人 インテリア産業協会東北支部

共催：あおりインテリアコーディネーター倶楽部、フィンランドのくらしとデザイン展実行委員会

(7) フィンランド展「あおり北欧フェア」

フィンランド展開催を機に、いろいろな場所でフィンランドを

知ってもらい、県立美術館に親しんでもらうため、県内のカフェ、菓子店、雑貨店などでフィンランドや北欧にちなんだオリジナル商品等を販売してもらうフェアを開催した。

期間：2012年4月1日（日）－6月3日（日）

協力：青森県菓子工業組合

参加店舗数：飲食店・菓子店24店舗、雑貨屋11店舗

(8) Art&Air展「アーティストトーク」

本展出展作家によるギャラリートークを実施し、作家自らが出展作品について説明を行った。

講師：青秀祐、中ハシクシゲ、中村哲也、八谷和彦

日時：2012年7月21日（土） 10:30－12:00

場所：企画展示室

料金：無料

参加者数：50人

(9) Art&Air展「青秀祐ワークショップ in 七戸養護学校」

作家本人が養護学校に赴き、生徒に紙飛行機を実際に折ってもらいながら、作家本人が作品を解説した。また生徒が折った紙飛行機は、本展プレイベント「青秀祐インスタレーション「OperationA」の一部として美術館1階に展示された。

講師：青秀祐（出展作家）

日時：2012年6月28日（木）

場所：青森県立七戸養護学校

料金：無料

参加者数：11人

（障害者文化芸術活動等特別啓発事業）

(10) Art&Air展「青秀祐ワークショップ in 三沢航空科学館」

作家本人が会場に赴き、こどもを主な対象として、紙飛行機を実際に折ってもらいながら、作家本人が作品を解説した。また参加者が折った紙飛行機は、本展プレイベント「青秀祐インスタレーション「OperationA」の一部として美術館1階に展示された。

講師：青秀祐（出展作家）

日時：2012年7月1日（日）

場所：三沢市航空科学館

料金：無料

参加者数：30人

(11) Art&Air展「中ハシクシゲ ゼロ戦プロジェクト」

本展において展示する作品製作のため、1/30プラモデルの立体物とゼロ戦の実機（部分）を微細に接写した2万数千枚の写真プリントを、作家とボランティアスタッフが共同でつなぎ合わせて実物大の「ゼロ戦52型」と「桜花」を制作した。

期間：2012年6月1日（金） 会場設営、資材搬入

2012年6月2日（土） 作家によるレクチャー

2012年6月3日（日）－7月19日（木） 作品制作

制作日数：49日間

参加ボランティア：320人

参加団体：青森県ろうあ協会、青森市ろうあ協会、青森聾学校、
青森第一高等養護学校、三内丸山応援隊、青森市西近野町会、
県立美術館サポートスタッフ・草刈隊、県障害福祉課
(障害者文化芸術活動等特別啓発事業)



中ハシクシゲ ゼロ戦プロジェクト

(12) Art&Air展「aaa-2012青空音楽会」

本展テーマ音楽を作曲した伊藤ゴロー氏と、チェリスト徳澤青弦氏によるスペシャルライブを開催した。

日時：2012年7月27日(金) 15:00-15:30、18:00-18:30

場所：地下2階ベンチスペース

料金：無料

定員：各回30人程度

参加者数：60人

(13) Art&Air展「講演会 いつかある晴れた日に、きっとまた会えるでしょう」

当館学芸員により、本展を振り返っての講演を実施した。

講師：工藤健志(青森県立美術館学芸主幹)

日時：2012年9月17日(月) 14:00-15:30

場所：シアター

料金：無料

定員：220人

参加者数：100人

(14) Art&Air展「夏休み親子ツアー」

「Art&Air展を楽しむ」をテーマに、親子向けの展示解説とギャラリートークを行うツアーを実施した。

講師：美術館スタッフ及び鑑賞サポーター

実施日：2012年7月31日(火)、8月1日(水)、2日(木)、
7日(火)-9日(木)

時間：11:00-、14:00- (各回40分程度)

料金：無料(但し、当日有効の観覧券必要)

参加者数：62人



夏休み親子ツアー

(15) 奈良美智展「あおり犬帽子プロジェクト」及び「もうひとつのあおり犬プロジェクト」

十和田市現代美術館、NPO法人harappaとの共同、さらに青森盲学校、七戸養護学校、青森第一高等養護学校生徒はじめ、多くの県民参加によって作られた秋の帽子をかぶる「あおり犬」を公開した。また、会期中、キッズルーム(展示室Hに設置)では「もうひとつのあおり犬プロジェクト」として、帽子制作のようすを写真で紹介し、秋の帽子と共布で制作した帽子を展示し写真撮影コーナーとした。

帽子制作期間：2012年7月-9月

帽子制作場所：十和田市現代美術館、NPO法人harappa、各学校及び県立美術館

帽子設置期間：2012年10月6日(土)-11月11日(日)

制作参加者数：300人余

(障害者文化芸術活動等特別啓発事業)



あおり犬帽子プロジェクト

(16) 奈良美智展「レクチャー 奈良美智の肖像論」

本展公式カタログのメインテキストを執筆した加藤磨珠枝氏による、奈良美智作品の魅力や肖像の歴史との関わりから説くレクチャーを開催した。

講師：加藤磨珠枝氏(美術史家、立教大学准教授)

日時：2012年11月3日(土) 14:00-15:30

場所：シアター
料金：無料
定員：200人
参加者数：80人

(17) 奈良美智展「あおり犬キーホルダーをつくる」
樹脂粘土を使って小さなあおり犬を制作した。
講師：美術館スタッフ
日時：①2012年10月20日（土）、②2013年1月5日（土）
①②とも13:30-16:00
料金：無料
定員：各回30人
参加者数：①36人②34人

(18) 奈良美智展「50歳から出会う奈良美智ワールド」
学芸員によるシニア向け鑑賞ワークショップを開催した。作家と
同世代の参加者を対象に、作品鑑賞とレクチャーを行い、鑑賞後
は互いの感想を発表しあった。
講師：美術館スタッフ
日時：①2012年10月20日（土）②2012年11月17日（土）
③2012年12月15日（土）
①②③とも10:00-11:30
料金：無料（但し、当日有効の観覧券必要）
定員：各回20人
参加者数：①18人 ②21人 ③6人

(19) 奈良美智展「アーティストトーク」
奈良美智氏が新作について語った。
講師：奈良美智氏
日時：2012年12月24日（月） 14:00-15:00
場所：シアター、（中継会場・ワークショップA）
料金：無料（但し、当日有効の観覧券必要）
定員：220人
参加者数：シアター220人（中継会場170人）計390人

(20) 常設展冬コレクション関連「青木野枝+むつ養護学校彫刻
ワークショップ」
青木野枝氏とむつ養護学校高等部の生徒13名が3日間にわたり、
鉄による作品製作に挑むワークショップを実施し、作品は
常設展冬コレクション会場に展示・公開した。
講師：青木野枝
制作期間：2013年1月28日（月）-30日（水）
展示期間：2013年2月9日（土）-3月17日（日）
制作場所：青森県立むつ工業高校
参加者数：13人
（障害者文化芸術活動等特別啓発事業）

(21) 常設展寺山特別展示関連「ワークショップ 触れる手によ
る対話」
晴眼者及び視覚障害者を対象として、参加者が持ち寄った「思

い出の布」に触れながら、参加者同士のコミュニケーションを
深め、各人の体験・感情を布や木片等を用いて、共同でコラ
ージュ作品を製作した。

講師：及部克人（東京工科大学教授、武蔵野美術大学名誉教授）
日時：2013年2月16日（土） 13:00-16:00
料金：無料
定員：20人
持ち物：思い出のある大きな布、晴眼者はアイマスク持参。
参加者数：20人
（障害者文化芸術活動等特別啓発事業）



ワークショップ 触れる手による対話

(22) 常設展寺山特別展示関連「ギャラリートーク 造形による
対話」
障害者・年長者・こども等多様な人々とのワークショップ「造
形による対話」の事例を紹介し、アートの力についての話をし
た。
トーカー：及部克人（東京工科大学教授、武蔵野美術大学名誉
教授）
日時：2013年2月17日（日） 13:30-15:00
料金：無料
定員：50人
参加者数：25人
（障害者文化芸術活動等特別啓発事業）

(23) 障害者文化芸術活動等特別啓発事業+アート体験促進事業
平成24年度成果展示
障害者文化芸術活動等特別啓発事業関連プロジェクト及びキッ
ズルームおはなし会等について、写真やワークショップ成果品
を通じて紹介した。
期間：2013年2月9日（土）-3月3日（日） 9:30-17:00
場所：展示室A
料金：無料
入場者数：1,113人
（障害者文化芸術活動等特別啓発事業）

平成24年度 スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地域や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視したギャラリートークに力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（ギャラリートークコース、自由鑑賞コース）、
鑑賞＋創作プログラム、鑑賞＋遺跡見学プログラム、オリジナルプログラム（学校の自主企画）

月	常設展 (人数)	企画展 (人数)	団体数				
			合計	小	中	高	特
4月	544	544	6	4	2	0	0
5月	1,145	1,102	18	13	3	1	1
6月	1,177	81	20	14	1	4	1
7月	701	0	13	2	8	1	2
8月	562	548	14	4	8	2	0
9月	441	196	10	6	1	0	3
10月	0	714	14	8	2	3	1
11月	0	742	18	13	5	0	0
12月	0	70	4	1	2	0	1
1月	7	0	1	0	0	0	1
2月	31	0	1	1	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	4,608	3,997	119	66	32	11	10

合計 8,605人

出前講座

県内各地の学校に出向き、当館の特徴やコレクション作品にまつわるエピソードの紹介、鑑賞教材「アートカード」を使ったゲームや、ギャラリートーク体験といった鑑賞活動を通じ、来館の難しい学校の児童生徒に対して美術に親しむ機会を提供した。

実施日	学校名	人数
11月 2 日	鯉ヶ沢町立西海小学校	39
11月 7 日	つがる市立車力小学校	22
11月 8 日	平内町立小湊小学校	59
11月14日	つがる市立瑞穂小学校	54
11月26日	田舎館村立田舎館中学校	69
11月29日	六ヶ所村立尾駈小学校	66
11月28日	十和田市立高清水小学校	18
11月30日	青森市立新城小学校	53
12月 4 日	弘前市立第五中学校	131
12月 6 日	平川市立碓ヶ関中学校	52
12月 7 日	八戸市立松館小学校	12
12月10日	弘前市立常盤野中学校	7
12月17日	青森市東陽小学校	48
12月18日	藤崎町立常盤小学校	56
12月19日	青森県立田名部高等学校	48
12月20日	六ヶ所村立泊小学校	82
1 月16日	板柳町立小阿弥小学校	60
1 月22日	七戸町立榎林中学校	45
1 月29日	弘前市立文京小学校	65
2 月 1 日	南部町立南部小学校	36

合計 1,022人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

また、平成23年度には県内10地区の小学校教育研究会図工部会にアートカードを提供し、利用促進を図っている。さらに、当館主催の教職員研修会、県総合学校教育センターや市町村教育委員会主催の教員研修会において、アートカードを使ったゲームを体験する演習を行った。

貸出施設一覧

施設・機関名	所在地	電話番号
青森県立美術館	青森市安田字近野 185	017-782-1919 fax 783-5244
青森市教育研修センター	青森市栄町 1-10-10	017-743-4900 fax 743-4919
つがる市生涯学習交流センター「松の館」	つがる市木造若緑 52 (つがる市教育委員会指導課)	0173-42-5532 fax 42-5542
五所川原市立図書館	五所川原市字栄町 119	0173-34-4334 fax 34-3256
弘前市教育研究所	弘前市末広 4-10-1	0172-26-4802 fax 26-2250
十和田市民図書館	十和田市西 13 番町 2-8	0176-23-7808 fax 25-3838
むつ市立図書館	むつ市中央 2 丁目 3-10	0175-28-3500 fax 28-3400
北通り総合文化センター「ウイング」	大間町大字大間字内山 48-164	0175-32-1111 fax 37-5110
八戸市美術館	八戸市番町 10-4	0178-45-8338 fax 24-4531

貸出し実績（青森県立美術館）：4件

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカードの活用、ギャラリートーク演習等）などをテーマに、当館主催の研修会、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施した。

主催	月日	研修講座の名称	会場	人数
県立美術館	7月28日（土）	先生のための鑑賞講座	県立美術館	2
	8月25日（土）			0
と県・市町村教育委員会 と共催	6月29日（金）	弘前市教育委員会と共催 図工・美術鑑賞講座	弘前市総合学習センター	4
	8月1日（水）	青森市教育委員会と共催 教職員初任者研修講座	県立美術館	32
	8月9日（木）	青森県総合学校教育センターと共催 初任者研修（小・中学校）教職一般 研修講座		43
	9月25日（火） ～26日（水）	青森県総合学校教育センターと共催 図画工作・美術科教育講座〔鑑賞〕 ～美術館と連携した鑑賞指導の在り方～		31
教育研究団体等と共催	7月24日（火）	三戸郡図工部会＋中学美術部会研修	県立美術館	16
	8月3日（金）	碓ヶ関小学校 教員研修	碓ヶ関小学校	7
	8月20日（土）	上北地方小学校教育研究会図工部会 夏季研修会	県立美術館	10
	12月3日（月）	南部町 小中学校教員合同研修	南部小学校	40
	12月26日（月）	上北地方小学校教育研究会図工部会 冬季研修会	おいらせ町立百石小学校	64
	1月7日（月）	青森市小学校教育研究会図工部会 冬季研修会	県立美術館	70

合計 319人

鑑賞サポーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導にあたる鑑賞サポーター（平成22年度までの「ファシリテーター」を呼称変更。）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。

平成24年度3月末現在：14人

印刷物

スクールプログラムの周知及び活用促進のため、スクールプログラムガイドブック（教員用）を作成した。

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるよう常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。

その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

さらに、今年度より青森県立美術館のコンテンツの理解を促したり、来館者に寄り添って多角的にサポートを提供する「県美コンシェルジュ」を配置し来館者の満足度向上を図っている。

募集・登録

募集概要

募集期間：2012年5月30日－6月30日

募集人数：50人程度

応募条件：

- ・満18歳以上（2012年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：44人（24年度末現在）

※このうち県美コンシェルジュ活動希望者21人

活動内容

1 研修

第1回研修会 7月11日（水） 9:30－15:00

内容：平成24年度事業概要及び活動内容説明

常設展「コレクションの力・あおもりの力」鑑賞及びギャラリートーク

コンシェルジュとは（コンシェルジュ活動希望者のみ対象）

第2回研修会 9月29日（土） 10:30－16:00

内容：活動実績報告及び視覚障害者対応研修

2 サポート活動

(1) 学芸（企画展関連イベント補助）

活動日数：11日

参加人数：延べ28人

(2) 教育普及（レクチャー、ワークショップの運営補助）

活動日数：18日

参加人数：延べ67人

(3) 舞台芸術（コンサート、ダンス上演の補助）

活動日数：13日

参加人数：延べ46人

(4) 運営管理（資料整理等）

活動日数：19日

参加人数：延べ64人

(5) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

活動日数：34日

参加人数：延べ504人

(6) 自主企画イベント実施（おはなし会、自主企画コンサート等）

活動日数：4日

参加人数：延べ17人

(7) 県美コンシェルジュ活動

活動日数：104日

参加人数：延べ246人

対応客数：延べ15,289人

メンバーシッププログラム

概要

当館では、芸術を、より多くの人に身近に楽しんでいただけるような環境づくりを進めるため、会員制度「青森県立美術館メンバーシッププログラム」を設けている。

入会した会員に対して、当館で開催する展覧会やパフォーミングアーツ事業への招待・優待などの特典付与、会員への情報提供などを行うものであり、本年度展開した事業内容は以下のとおりである。

会員証は奈良美智氏と、当美術館のシンボルマーク、ロゴタイプなど、ヴィジュアル・アイデンティティ（VI）を考案した菊地敦己氏のコラボレーションによるもの。

会員カテゴリ及び年会費

一般会員：3,000円

学生会員：2,000円（学生のためのプログラム）

こども会員：500円（小・中学生のためのプログラム）

特別会員：10,000円（一般会員をさらにすすめたプログラム）

コーポレート会員 A：50,000円

コーポレート会員 B：30,000円

（10月以降入会の場合は各半額）

会員数

（2013年3月31日現在）

一般会員：171人

学生会員：5人

こども会員：12名

特別会員：1人

コーポレート会員 B：1人

計 211人

事業内容

（一般会員・学生会員・こども会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を2枚配付するほか、いつでも前売料金で観覧可
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待

（特別会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を6枚配付するほか、

いつでも前売料金で観覧可

- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待

（コーポレート会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 会員証の提示により5名（B会員については3名）まで無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を20枚配付
- ・館内及びホームページに法人名を掲示（A会員のみ）
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待（A会員のみ）

会員への情報提供

- ・年に3～4回、美術館スケジュール等のご案内を送付

特典

- ・館内ミュージアムショップでの商品購入 5%割引（一部商品を除く）
- ・館内カフェでの飲食代 5%割引（一部商品を除く）

その他事業

- ・研修視察旅行 岩手県立美術館外を訪ねる日帰り鑑賞・研修ツアーを実施した。

パフォーミングアーツ

演劇

ドラマリーディング

音楽

演劇

日・中・韓 国際共同制作作品

演劇「祝／言」

主催 青森県立美術館・国際交流基金

1 事業概要

平成25年度に青森県立美術館と国際交流基金の共同主催により、日本・中国・韓国の俳優・舞踊家、音楽家による現代演劇国際共同プロジェクト「祝／言」を3カ国8箇所で開催するため、平成24年度は、日中韓の舞踊家・俳優・演奏家の調査をし、各国で出演者オーディションを実施したほか、上演のための劇場を調査、決定した。

2 公演趣旨

日本・中国・韓国は、長い歴史の中で様々な影響を互いに与えてきた近隣国でありながら、国民感情の中に複雑な思いを抱え現在に至る。

演劇「祝／言」は、互いが「異なる」ことを認識し、寄り添おうとしたとき、そこに人間本来の持つ普遍的な優しさや慈しみの心が生まれ、自分の中に新たな一面を見出すことができる、芸術にはそのような力がある、と信じて取り組まれたプロジェクトである。

俳優として参加する東北の演劇人と、中国・韓国の表現者が、それぞれの思いを持ってこの作品と対峙し、これからの日本と中国と韓国とのつながりを問う作品を目指す。

また、この演劇プロジェクトは、2011年3月に東北を襲った大震災を正面から扱うこととした。

平成24年度は、プレイベントとして、日韓で活躍する2名の写真家の手により、日中韓の登場人物のそれぞれの生い立ちや家族関係、その国に生まれついた宿命を、ロードムービーのような手法により撮影された写真を出版した。また、俳優の語り、演奏、舞踊が一体となったドラマリーディングを、日本は青森県、宮城県、東京都、韓国はソウル、全州にて上演した。

また、韓国では、併せて制作発表を行った。

3 演劇「祝／言」構成メンバー

共催

【日本】仙台市市民文化事業団

【韓国】ソウル国際公演芸術祭

太田文化芸術の殿堂、全州ソリの殿堂

【中国】上海話劇芸術センター・北京蓬蒿劇場

協力

【日本】新国立劇場

【韓国】パク・クニョン（劇団コルモッキル劇作家）

【中国】ユィ・ロンジュン（上海話劇芸術センター：劇作家・演出家）

海外コーディネーター

【韓国】国際交流基金ソウル日本文化センター、石川樹里

【中国】国際交流基金北京日本文化センター、上海総領事館

作・演出 長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

韓国語翻訳 石川樹里

中国語翻訳 施 小煒

出演

【日本】

俳優：相澤一成（宮城県）

なかじょうのぶ（宮城県）

佐藤隆太（福島県）

高橋淳（岩手県）

小笠原真理子（青森県）

田邊克彦（新潟県）

舞踊：中村登世之丞（青森県）

津軽三味線：斉藤沙希（青森県）

【韓国】

俳優：キム・ソナ（ソウル）

イ・ヨンスク（大田）

舞踊：チョン・ヨンドゥ（ソウル）

国楽：アンサンブル・シナウィ6名（ソウル）

【中国】

俳優：李丹（上海）

楊子奕（上海）

王小欢（北京）

プロデューサー 小笠原真理子（青森県立美術館）

アドバイザースタッフ 大信ペリカン（福島県）

舞台制作 （有）エボック

舞台美術 高橋 淳

舞台監督 田邊克彦

音響 本多大公／寺山紀幸

照明 中村昭一郎

プロジェクション 齊藤耕平
 写真 鈴木理策／キム・ジヨン（韓国）
 宣伝美術 デザイン工房エスパス
 制作 青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会
 仙台公演制作協力 仙台市市民文化事業団
 東京公演制作協力 くわはらよしこ

4 プレイベント概要

■青森県：2月2日

会場：青森県立美術館シアター 220名

【ドラマリーディング公演】

演奏：アンサンブルシナウィ、齋藤沙希

舞踊：中村登世之丞

リーディング：キム・ソナ、イ・ヨンスク、李丹、なかじょうのぶ、佐藤隆太



（青森県立美術館プレイベント公演）

■宮城県：2月23日

会場：せんだいメディアテーク

1階オープンスクエア 100名

【ドラマリーディング公演】

演奏：浅野清

リーディング：キム・ソナ、李丹、なかじょうのぶ、佐藤隆太

【シンポジウム】「震災以後と震災前」

コーディネーター：

なかじょうのぶ（なかじょうのぶ独人芝居事務所）

パネリスト：

絵永 けい（Theatre Group “OCT/PASS” 女優）

大信 ペリカン（満塁鳥王一座主宰）

横道 文司（国際交流基金文化事業部アジア・大洋州チーム長）

長谷川 孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

助言者：李丹、キム ソナ



（仙台：シンポジウム）

■東京都：3月8日

会場：駐日韓国文化院 ハンマダンホール 269名

【ドラマリーディング公演】

演奏：アンサンブルシナウィ、齋藤沙希

舞踊：中村登世之丞

リーディング：キム・ソナ、イ・ヨンスク、李丹、佐藤隆太、高橋淳

【パネルディスカッション】

「テーマ 日中韓における共同制作の可能性と課題」

コーディネーター：

横道 文司

（国際交流基金文化事業部アジア大洋州チーム長）

パネリスト：

ユイ ロンジュン（上海話劇芸術センタープロデューサー）

パク グニョン（韓国劇団コルモッキル劇作・演出家）

長谷川 孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）



■ソウル：3月18日

会場：アルコホール

対象：マスコミ各社・一般150名

主催：青森県立美術館・国際交流基金・ソウル国際公演芸術祭・
テジョン文化芸術の殿堂

【第一部】 記者発表（アルコ屋上小ホール）

登壇者：チェ・チリム（HanPac 理事長）

横道文司（国際交流基金文化事業部アジア大洋州チーム長）、
長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督、「祝／言」劇作・
演出家）、なかじょうのぶ（宮城県・独人芝居事務所俳優）、キム・ソナ（韓国・劇団コルモッキル俳優）、イ・ヨンスク（韓国・俳優）、李丹（中国・俳優）、アンサンブルシナウィ（韓国・国楽アンサンブル）、齋藤沙希（青森県・津軽三味線奏者）、キム・ジヨン（韓国・写真家）



【第二部】 トークセッション&ミニイベント

（アルコ地下小劇場）

テーマ

「演劇の果たす役割～東日本大震災からの復興」

コーディネーター：

パク グニョン（韓国劇団コルモッキル劇作・演出家）

パネリスト：

なかじょうのぶ（宮城県劇作・演出家・俳優）

キム サンヨル（テジョン演劇評論家）

長谷川 孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

ミニイベント（演奏&リーディング）

演奏・リーディング：アンサンブルシナウィ、齋藤沙希、キム・ソナ、イ・ヨンスク、なかじょうのぶ、李丹、田邊克彦、小笠原真理子

■全州：3月20日

会場：ソリ文化芸術の殿堂

全羅北道全州市徳津区ソリ路31（徳津洞1街）

対象：マスコミ各社30名

主催：青森県立美術館・国際交流基金・ソリ文化芸術の殿堂

内容：制作発表・ミニコンサート

【第一部】 記者発表

登壇者：イ・インクォン（韓国ソリ文化殿堂代表）、横道文司、
長谷川孝治、なかじょうのぶ、キム・ソナ、イ・ヨンスク、
李丹

【第二部】 ミニイベント

演奏・歌：アンサンブルシナウィ、齋藤沙希、なかじょうのぶ、
キム・ソナ、イ・ヨンスク、李丹

5 韓国制作発表

演劇「祝／言」韓国での制作発表・プレ公演放送一覧（国際交流基金：ソウル文化センター調べ）

韓国：KBS 全国放送

YTM 全国放送・ネット配信

朝鮮日報（新聞紙面・ネット配信）

東亜日報（新聞紙面・ネット配信）

中央日報（新聞紙面・ネット配信）

韓国日報（新聞紙面・ネット配信）

全州日報（新聞紙面・ネット配信）

全北中央新聞（新聞紙面・ネット配信）

全北道民日報（新聞紙面・ネット配信）

日本：NHK・BS ワールド Wave トゥナイト

アメリカ America's world news site（新聞紙面・ネット配信）

フィリピン Balita（新聞紙面・ネット配信）

インドネシア Antara（新聞紙面・ネット配信）

マレーシア BERNAMA（新聞紙面・ネット配信）

New Straits Times（新聞紙面・ネット配信）

6 演劇「祝／言」写真集作成

写真は現在をそのまま写し取る装置であると共に、写真家の思想と情緒も如実に表れるジャンルである。韓国人と中国人が現在の日本をどう捉えているか、日本人が中国と韓国をどう見ているかを写し出す。演劇「祝／言」のストーリーに寄添い、中国人女優と日本人劇作家、さらには写真家たちの視点から、ロードムービーとし、もうひとつの「祝／言」として写真集を作成した。

写真は、プレイベントおよび本公演の舞台美術として使用するほか、写真集「祝／言」として販売。

【日本】 鈴木 理策

1963年和歌山県新宮市生まれ

東京芸術大学美術学部先端芸術表現科准教授。立教大学兼任講師・東京総合写真専門学校講師。早稲田大学第二文学部非常勤講師を務めたこともある。ロードムービーのような作風で知られる。

受賞歴－ 2008 日本写真協会年度賞 2006 平成18年度和歌山県文化奨励賞 2006 第22回東川賞国内作家賞 2000 第25回木村伊兵衛写真賞受賞。

【韓国】 キム・ジヨン

ソウル在住（ドキュメンタリー写真家）

フランス CTI (Cour Technique L' image)

映像専攻_1992

フランス国立芸術大学 (Ecoles des Beaux-arts St-etienne)

純粋芸術学専攻_1995

梨花女子大 大学院_写真専攻_1998



価格：2,000円＋税

販売：株式会社 赤々舎

発行：国際交流基金・青森県立美術館

7 演劇「祝言」シノプシス

三陸海岸沿いのとある街、そのホテルのロビーが主舞台となる。開幕すると、花嫁を中心にした韓国人の一团と、その一团を迎える日本人花婿を中心に場面がすすむ。さらには、花嫁花婿の共通の友人である中国人たちも遅れてやってくる。

どうやら、次の日に控えた結婚式の打合せをするらしい。花嫁と花婿はお互いに日本語と韓国語で会話しているのだが、その家族・親戚たち、それに中国人たちは言葉の問題もあって何かぎこちない。やがて、演奏が始まる。それまでのぎこちなさが、音楽と踊りで次第に和んでいく。夫婦の馴れ初め、それぞれの家族のエピソードをちりばめながら舞台は進行していくが、やがて14時46分、巨大な地震とそれに続く津波がホテルのロビーを襲い、すべてを飲み込んでいく。

暗転 無音のままに続く、5分間のホリゾン全体を覆う日本、中国、韓国のスチル写真・・・・・・ 溶明・・・・・・

音楽が聞こえて光が入ってくる。人々は何事もなかったかのように会話し始める。しかし、その会話はどこかぎこちない。彼らは死んでしまったのだろうか。だとしたら、そこに展開する物語の「続き」とはなんだろうか。

日中韓の伝統音楽のセッション。3国の舞踊の絡み合い。言葉はない。

大震災以前と以後、変わったもの、変わらないものを舞台上でダイレクトに描き、日・中・韓の未来を考える。藝術の使命

は未来に賭けること、未来を語ることにあると信じ、観客に向き合う120分。

8 広報宣伝、営業等概要

宣材物として、チラシ、ポスターを各会場ごとに作成。国内外教育機関、演劇関係者、顧客、各報道機関へ配布、掲示を依頼した。



(青森県立美術館プレ公演チラシ)



(仙台メディアテークプレ公演チラシ)



(駐日韓国文化院プレ公演チラシ)



(韓国プレ公演チラシ)

ドラマリーディングクラブ事業

1 事業概要

県立美術館に県民が積極的に参加できる環境を舞台芸術企画部門からアプローチする。

「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ（2009年設立）」を軸として、参加意欲のある県民を募り、舞台芸術に関わる機会を提供し、公演を実施した。また、「子ども」に視点を置いて舞台芸術の活性化を図るため、県内読み聞かせ団体・図書館などと連携し「なつやすみ！おはなしフェスタ」を実施、また冬には子供向け公演「あらしのよるに」の上演を実施し、美術館の幅広い年齢層の利用促進を図った。

運営主体：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

2 ドラマリーディングクラブ

(1) 設立 2009年度

(2) 参加条件

- ・青森県立美術館での稽古に参加できること
- ・年齢、経験不問（未成年者は保護者の同意が必要）
- ・年間に最低1公演には参加できる
- ・交通費や食費等、活動に際して個人に係るものは全て自己負担

(3) 活動場所

青森県立美術館施設内を基本とする。

(4) 募集期間

募集定員に達するまで随時募集

(5) 定員

50名（欠員が出た場合は補充）

(6) 参加料

無料（交通費・食費等の個人に係わるものは全て自己負担）

(7) 選考方法

書類選考とし、書類受理後に随時面談を行う。

(8) 稽古内容・日程

- ・青森県立美術館パフォーミングアーツ専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章

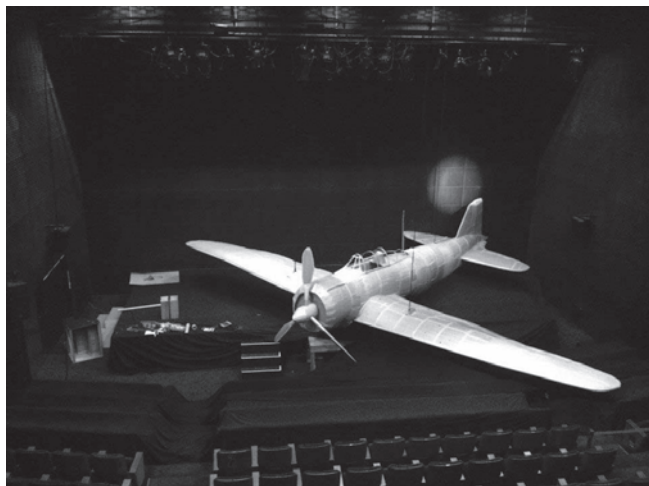
を使い、空間を意識しつつ朗読する。

- ・定期公演に向けた稽古を実施する。
- ・青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する。
- ・その他公演に向けた稽古を実施する。
- ・週1回の稽古を基本とする。
- ・公演1週間前は毎日稽古を行う。

3 公演詳細

(1) 定期公演

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ公演 vol.7 『あおぞらにピュピュン』



日時：2012年6月23日（土） 14:00開演

19:00開演

6月24日（日） 14:00開演

※上演時間50分

会場：青森県立美術館シアター（1公演100席）

料金：前売り500円（当日700円）

※中学生以下無料

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

プロデュース担当：

小笠原真理子（青森県立美術館舞台芸術プロデューサー）

作・演出：田邊克彦（青森県立美術館舞台芸術ドラマツルク）

出演：ドラマリーディングクラブ員 13名

助成：財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

観客動員数：155名

青森県立美術館舞台芸術企画 冬休み特別企画ドラマリーディング『あらしのよるに』

上演作品：『あらしのよるに』『あるはれたひに』『くものきれまに』『きりのなかで』『どしゃぶりのひに』『ふぶきのあした』『まんげつのよるに』（講談社「あらしのよるに」シリーズより）

日時：2013年1月5日（土） 14:00開演

1月6日（日） 10:00開演

14:00開演

会場：青森県立美術館シアター（200席）

料金：前売り500円（当日700円）

※高校生以下無料

作：きむらゆういち

絵：あべ弘士

構成・監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

プロデュース担当：

小笠原真理子（青森県立美術館舞台芸術プロデューサー）

演出：田邊克彦（青森県立美術館舞台芸術ドラマトゥルク）

出演：ドラマリーディングクラブ員 14名

助成：財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

観客動員数：501名

(2) 青森県立美術館企画サポート公演

- ・県立美術館の企画展等をテーマとした公演。
- ・県立美術館の教育・普及活動に寄与する公演。

青森県立美術館「奈良良智：君や、僕にちょっと似ている」展
関連企画 ドラマリーディング『あおり犬のおはなし〜ピー
トルズの引用による〜』

【第1回】日時：10月6日（土） 13:00－13:30

会場：あおり犬前

【第2回】日時：12月22日（土） 13:00－13:30

会場：青森県立美術館シアター

料金：無料

作・監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

プロデュース担当：

小笠原真理子（青森県立美術館舞台芸術プロデューサー）

演出：田邊克彦（青森県立美術館舞台芸術ドラマトゥルク）

出演：ドラマリーディングクラブ員 18名

観客動員数：（1回目）40名

（2回目）85名

(3) 「なつやすみ！おはなしフェスタ」

①プレイベント 絵本作家「いとうひろし」先生講演会

内容：絵本作家のいとうひろし氏を講師に、「見えないものを描いてみよう」をテーマに、大人も子供も一緒に参加出来るワークショップを開催。

日時：2012年7月28日（土） 13:00－15:00

会場：青森県立美術館シアター（120名限定）

料金：無料（往復ハガキによる予約制）

講師：いとうひろし（絵本作家）

コーディネーター：秋田敏博（親子ふれあい読書アドバイザー）

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

プロデュース担当：

小笠原真理子（青森県立美術館舞台芸術プロデューサー）

助成：財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

観客動員数：97名

②プレイベント 読み聞かせ団体「地域交流会」

内容：「おはなしフェスタ」出演団体を対象に、県立美術館との連携及び各団体との交流を目的に、作品上演・情報交換・参加者全員による群読を行う交流会を実施。

日時：2012年7月29日（日） 10:00－16:00

会場：青森県立美術館シアター

コーディネーター：秋田敏博（親子ふれあい読書アドバイザー）

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

プロデュース担当：

小笠原真理子（青森県立美術館舞台芸術プロデューサー）

助成：財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

参加団体数：13団体135名

③「なつやすみ！おはなしフェスタ」

内容：青森県内各地域の読み聞かせ団体29団体が出演。メイン会場シアターでの上演の他、美術館施設内に読み聞かせ特設ブースを設置し、美術館内の至る所で、絵本・昔語り・ドラマリーディング・パネルシアター等を上演。



日時：2012年8月18日（土） 10:00－15:00

8月19日（日） 10:00－15:00

8月25日（土） 10:00－15:00

8月26日（日） 10:00－15:00

会場：青森県立美術館シアター、ワークショップA、ワークショップB、スタジオ、コミュニティーホール、八角堂周辺、3番出口周辺

料金：無料（シアターのみ往復ハガキによる予約制）

コーディネーター：秋田敏博（親子ふれあい読書アドバイザー）

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

プロデュース担当：

小笠原真理子（青森県立美術館舞台芸術プロデューサー）

助成：財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

参加団体数：29団体（184名）

上演作品数：約110作品

観客動員数：2,205名

(4) その他

ドラマリーディングクラブ出張公演『あらしのよるに』

上演作品：『あらしのよるに』『あるはれたひに』『くものきれ
まに』『どしゃぶりのひに』『ふぶきのあした』『まんげつの
よるに』（講談社「あらしのよるに」シリーズより）

日時：2012年7月20日（金） 13:00開演

会場：青森県立田名部高等学校大畑校舎

料金：無料

作：きむらゆういち

絵：あべ弘士

構成・監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

プロデュース担当：

小笠原真理子（青森県立美術館舞台芸術プロデューサー）

演出：田邊克彦（青森県立美術館舞台芸術ドラマトゥルク）

出演：ドラマリーディングクラブ員 10名

観客動員数（全校生徒＋教員）：120名

4 広報宣伝、営業概要

宣材物として、チラシ・ポスターを作成し、県内文化施設・教育機関・観光施設等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内の劇団公演への折り込み、PA顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。県内新聞等へ告知・取材の依頼、県内FMラジオ局・民放ラジオ局・コミュニティーFM局・青森市内ケーブルテレビ局へ番組上での告知をお願いした。

(1) 宣 伝

・「ドラマリーディングクラブ員募集」チラシ	300 枚
・「あおぞらにビュンビュン」チラシ	3,000 枚
・「なつやすみ！おはなしフェスタ」チラシ	15,000 枚
・「なつやすみ！おはなしフェスタ」B2ポスター	300 枚
・「あらしのよるに」チラシ	72,000 枚

(2) 広 報

- ・県内新聞各社において公演の告知依頼。
- ・県内テレビ・ラジオにおいて告知依頼。

(3) 記 録

各公演とも、記録写真撮影、記録映像収録、DVD制作を実施。

音楽

アレコホール国際強化戦略事業 チャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディション ー偉大なる芸術家の思い出にー



1 事業概要

青森県立美術館が所蔵するマルク・シャガールのバレエ「アレコ」の背景画は、チャイコフスキーのピアノトリオにインスパイアされて、レオニード・マシーン振付によるバレエ「アレコ」の舞台美術として制作されたものである。

背景画が舞台美術として生きた時代を観客に伝えることを目的に、本物の舞台背景画3幕と空間を共有するコンサートを開催するため、チャイコフスキーの「ピアノトリオ イ短調 作品50 “偉大なる芸術家の思い出に”」の演奏者を募集した。

(1) オーディション参加資格

- ①参加者の国籍・居住地・年齢・プロ・アマチュアの別を問わない。
 - ②オーディションで選考された場合、2013年1月19日（土）、県立美術館で行われる公開演奏会に、チャイコフスキーのピアノトリオ全楽章を含む50～70分のプログラムを持って出演・演奏が可能な組。
- ※オーディション参加団体数は15組とする（先着順。15組を超える応募があった場合は、書類選考を実施）。

(2) 選考方法

- ①オーディションは、青森県立美術館にて指定の時間に公開で行う。
- ②公開オーディションでの演奏作品は、チャイコフスキーの

「ピアノトリオ イ短調 作品50」とし、演奏楽章は当日指定する。

(3) 主催

青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館

(4) 審査委員

浅野清（弘前大学教授・ピアニスト）、野平多美（作曲家・音楽評論家）、花崎薫（愛知県立芸術大学准教授・チェリスト）、松原千代繁、長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

(5) 日程

オーディション実施日：2012年12月1日（土）

応募締切：2012年11月11日（日）必着

(6) 応募方法

代表者・その他参加者の住所・氏名・年齢・電話番号・担当楽器・音楽履歴を明記し、郵送又はFAX、Eメールにて送付するか、当館へ直接持参する。

2 オーディション詳細

背景画が舞台美術として生きた時代を観客に伝えることを目的に、全国から8組（24名）の演奏者が参加し、一般公開でチャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディションを開催した。

(1) オーディション日時

2012年12月1日（土）12:55～16:25

8組演奏 途中休憩（20分）

(2) 審査結果

- ・応募数 10組（30名）
- ・辞退者数 2組（6名） 辞退理由：故障者等
- ・参加者数 8組（24名）

(3) 申込者居住地

埼玉県、東京都、茨城県、神奈川県、新潟県、千葉県

(4) 最優秀組

「Trio DELTA」

ピアノ：三又瑛子

ヴァイオリン：中島麻

チェロ：中実穂

3 コンサート詳細

最優秀組に選ばれた「Trio DELTA」は、2013年1月19日（土）開催の青森県立美術館「チャイコフスキー・ピアノトリオコンサート」に出演した。

- ・演奏会名：「チャイコフスキー・ピアノトリオコンサートー偉大なる芸術家の思い出にー」
- ・演目：
ドビュッシー
「ピアノ三重奏曲 ト長調」
チャイコフスキー
「ピアノ三重奏曲 イ短調 作品 50」
- ・日時：2013年1月19日（土）
- ・開演19:00ー 開場18:00 受付17:00
- ・会場：青森県立美術館アレコホール
- ・料金：一般2,500円 学生2,000円
(当日は全て500円増し)

◎小中高校生先着60名まで無料（往復はがきにて事前申込み。）

- ・前売り発売開始：10月1日（月）
- ・チケット取扱先

青森市：サンロード青森／成田本店しんまち店／青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：弘前大学生協／日弘楽器

八戸市：八戸ポータルミュージアムはっち

- ・来場者サービス

(1) 託児サービス

コンサートの開場から終演までの間、キッズルームにて無料で託児サービスを実施。

(2) 終演後の無料送迎

コンサート終演後、青森駅までの無料送迎を実施。

(3) カフェ「4匹の猫」臨時営業

コンサート当日は、開場時間まで営業時間を延長。

(4) 小中高校生先着60名無料招待

県内の小・中・高校生に対し、無料招待プログラムを実施。

- ・観客動員数：152名（76%）

4 広報宣伝、営業概要

オーディションでは宣材物として、募集要項、ポスターを作成。募集要項は日本語版・英語版の両方を作成し、国内の文化施設、教育機関、音楽教室、音楽団体等を中心に配布、掲示を依頼したほか、国内各地のコンサート等への折り込みを依頼した。

海外については、海外音楽大学と提携している大学に依頼し、英語版募集要項を送付・周知を依頼した。

コンサートでは、チラシ・ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関、音楽教室、音楽団体等に配布した。

(1) 宣伝・広報

- ・オーディションでは、ポスター・募集要項を作成。うち募

集要項は、英語版も作成。

- ・コンサートでは、チラシ・ポスターを作成。
- ・新聞各社（地方紙、全国紙）及び音楽専門誌への告知を依頼。

(2) 記録

- ・記録写真撮影、記録映像収録、DVD 制作を実施。

アレコホール定期演奏会 2012ー2013

「主題と変奏」

1 事業概要

アレコホールコンサートを、海外（東アジア）へ広く発信し、「すべての芸術の融合を目指す美術館」として平成24年度は、「主題と変奏」と題して、青森県にゆかりの演奏家による演奏会を6月からおおむね2ヶ月に一度、計5回開催した。

2 運営主体

主催 青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館

3 入場料金

前売：一般券（一般） 2,000円
（学生） 1,500円
(当日は全て500円増し)

4 広報宣伝、営業概要

演奏会宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、県内道の駅、県内音楽教室、県内音楽団体、各商店街等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地のコンサート等への折り込み、PA顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。

また、小中高校生無料招待を行うため、県内小・中学校は生徒数分を、県内の高校は吹奏楽部のある高校へチラシを送付した。

(1) 宣伝

- ・宣材物作成枚数

「主題と変奏」チラシ（A4版）	カラー	8,000枚
	白黒	64,000枚
小中学生無料招待チラシ	白黒	100,000枚
ポスター（B2版）		50枚

- ・宣材物配布開始 5月中旬ー

(2) 広報

- ・新聞各社において告知・公演開催の模様を取材依頼。
- ・県内ラジオにおいて告知。

5 来場者サービス

(1) 託児サービス

各公演の開場から終演までの間、託児サービスを実施。

(2) シャトルバス代行タクシーの運行

演奏会終演後、無料で青森県立美術館から青森駅までの無料送迎を実施。

美術館のシャトルバスの運行は、平成23年度をもって終了したため、タクシーをシャトルバス代行として運行し、利用申し込み者の乗り合いにより美術館から青森駅まで運行した。

(3) カフェ「4匹の猫」臨時営業

演奏会公演日は、開場時間まで延長営業を実施。

6 各公演詳細

各公演共通事項

会場：青森県立美術館アレコホール

席数：200席（全席自由）

※県内在住の小学校4年生から高等学校までを、事前予約の上、各回とも先着60名に限り、無料で招待した。

第1回 2012年6月9日（土）

19時開演 18時30分開場 18時受付開始

「ピアノ・コンチェルト」

・演奏者

ピアノ：浅野 清

第一ヴァイオリン：二川原 静、長内 由紀子

第二ヴァイオリン：白鳥 俊治、前田 一明

ヴィオラ：二川原 健、西崎 紀

チェロ：山形 聡

コントラバス：原子 尚之

・演奏曲目

W.A. モーツァルト：「ピアノ協奏曲 第12番 イ長調 KV414」

F. ショパン：「ピアノ協奏曲 第1番 木短調 Op.11」

・観客動員 232名（116%）

うち、招待 小・中学校生招待 71名

一般招待 1名

第2回 2012年9月15日（土）

19時開演 18時30分開場 18時受付開始

「ギターの詩情」

・演奏者

ギター：佐野弘和

・演奏曲目

佐野弘和：「青空の向こうに」、「夏の終わり～秋の訪れ」、
「9月の雨」、「素朴な歌、津軽の雪」、

「チェリー・ブロッサムズ」

民謡：「グリーン・スリープス～スカボロー・フェア」

A. ルビラ：「禁じられた遊び」

民謡：「アメイジング・グレイス」

G. ピエルネ：「昔の歌」

横尾幸弘：「さくら変奏曲」

S. マイヤーズ：「ポートレイト、カヴァティーナ」

F. ソル：「エチュード “月光” Op.35-22」

佐野弘和：「エチュード “月蝕”」

糸川玲子：「ミュカレ」

F. タレガ：「ラグリマ」

E. クランプトン：「ティアーズ・イン・ヘブン」

・観客動員 110名（55%）

うち、招待 小・中学校生招待 14名

一般招待 22名

第3回 2012年11月10日（土）

18時開演 17時30分開場 17時受付開始

「ピアノと語るコンサート」

・演奏者

ピアノ：矢野 吉晴

・演奏曲目

F. ショパン：「ノクターン op.15-3 ト短調」

C. ドビュッシー：エチュード「アルペジオのための」、「仮面」、
前奏曲集 第1巻より「沈める寺」

E. ナザレ：「エポニーナ」

A. ピアソラ：「ピカソ」「チャオパリ」

P. チャイコフスキー：「ドゥムカ Op.59」

・観客動員 152名（76%）

うち、招待 小・中学校生招待 71名

一般招待 2名

第4回 2013年1月26日（土）

18時開演 17時30分開場 17時受付開始

「オペラのハイライトシーン」

・演奏者

ソプラノ：杉原 かおり

ピアノ：浅野 清

解説：鎌田 龍

合唱：弘前大学有志（小笠原聡也・村上康太・玉井捷太郎・
山田修平・田澤佑亮・松永翔一郎・工藤雅絵・大坪千佳・
佐々木美里・木村恵理・藤田百子・八木橋 真君）
青森県立青森高等学校音楽部（2年 嶋中沙恵・今
良暉・森田向日葵・田名辺二葉 1年 鎌田拓実・
井上晴菜・橋本綾乃・櫻田菜・萌出佳穂・山田啓明・

金野亜紀・畑中凜子)

・演奏曲目

G.F. ヘンデル：オペラ《セルセ》第1幕より セルセ王の
 aria「オンブラ・マイ・フ」

G. パイジェット：オペラ《市のジプシーたち》第1幕より
 ルクレティアのカンツォネッタ 「ジプ
 シー娘をお望みの方はどなた？」

G.F. ヘンデル：オペラ《アルチーナ》第2幕 第8場より ア
 ルチーナの aria 「ああ、わたしの心よ」

G.B. ペルゴレージ：オペラ《奥様女中》第1幕より セルピー
 ナの aria 「怒りん坊さん、わたしの怒
 りん坊さん」セルピーナ：杉原かおり・
 ウベルト：鎌田龍

C.W. グルック=A. シロティ：オペラ《オルフェオとエウリ
 ディーチェ》よりピアノソロ
 「メロディ」

W.A. モーツァルト：オペラ《フィガロの結婚》
 第3幕より 花娘と村人の合唱「心変わらぬ恋人たち」

花娘1：佐々木美里 花娘2：工藤雅絵
 第2幕より スザンナの aria 「さあ、ひざまづいて」
 スザンナ：杉原かおり ケルビーノ：大坪千佳

第3幕より 手紙の二重唱「そよ風にのせて」
 スザンナ：杉原かおり 伯爵夫人：佐々木美里

A.L. ドヴォルジャー：オペラ《ルサルカ》前奏曲
 第1幕より ルサルカの aria 「白銀に輝くお月様」

G. ヴェルディ：オペラ《椿姫》序曲
 G. ヴェルディ：オペラ《オテッロ》
 第4幕より デズデーモナのシェーナ 「柳の歌」
 デズデーモナ：杉原かおり

エミーリア：佐々木美里

G. ヴェルディ：オペラ《ナブッコ》
 第3幕より ヘブライの民の合唱「行け、想いよ、黄金の翼
 にのって」

E. ヴォルフ=フェッラーリ：オペラ《イル・カンピエッロ》
 第3幕フィナーレより ガスパリーナの aria 「さようなら、
 愛しのヴェネツィアよ」

・観客動員 129名 (65%)

うち、招待 小・中学校生招待 25名
 一般招待 17名

第5回 2013年3月2日(土)

18時開演 17時30分開場 17時受付開始

「オーケストラ・ピアノ」

・演奏者

ピアノ：浅野 清

・演奏曲目

F. リスト：「ヘクサメロン」

J.S. バッハ / M. ヘス：「主よ、ひとの望みの喜びよ」

P. サラサーテ：「チゴイネルワイゼン」

N.A. リムスキー=コルサコフ / S. ラフマニノフ：「熊蜂の飛
 行」

C. サンサーンス / L. ゴドフスキー：「白鳥」

J. シュトラウス / シュルツ=エヴラー：「美しき青きドナウ」

F. ショパン：「アンダンテ・スピアナートと大ポロネーズ」
 変木長調 作品 22

G. ガーシュウィン：「ラプソディー・イン・ブルー」

・観客動員 125名 (63%)

うち、招待 小・中学校生招待 41名
 一般招待 6名

7 演奏家プロフィール

(1) 浅野 清 piano

1975年国立音楽大学卒業。同年レナード・バーンスタイン、
 クリストフ・エッセンバッハの推薦によりニューヨークの
 ジュリアード音楽院に入学、ヤコブ・ラタイナーのもとで学
 び、1978年大学院を修了。その後ニューヨーク大学にて故ユー
 ジン・リストに師事する。

1981年ドイツのマンハイム音楽大学演奏科を首席で卒業。
 ドイツ各地、パリでソロ及び室内楽の演奏会、シュヴェービッ
 シュ・シンフォニーオーケストラとの共演等で好評を博し、有
 力紙等で絶賛される。カイゼルスラウテルン市立音楽学校専任
 講師、マンハイム音楽大学非常勤講師を務め、84年帰国。リ
 サイタルはもとより、大野一雄の舞踏公演を始め東京バレエ団
 や世界のトップバレリーナのためにも演奏を行い、埼玉純真女
 子短期大学講師を経て1987年弘前大学へ赴任。以来数多くの
 器楽・声楽・映画の伴奏並びに室内楽リサイタルやオーケスト
 ラとの共演を重ねているほか、二度のベートーヴェン「32の
 ソナタ」全曲演奏(1989-90、2006-07)、ドイツで行われた「フ
 リッツ・ヴンダーリッヒ没後25年追悼演奏会」、ルーマニアの
 「国際現代音楽祭」で招待演奏をするなどソロリサイタルを中
 心に国内外で精力的に活躍している。弘前大学教育学部教授。

(2) 弦楽アンサンブル

2011年、「マイ・ショパン・イヤー」のピアノ協奏曲共演を機
 に結成。未だアンサンブルの名称は決めていないが、今後も活
 動を続けていく予定。

二川原 静 violin

弘前大学教育学研究科音楽教育専修修了。弘前交響楽団コン
 サートマスター。

ヨークカルチャーセンター弘前ヴァイオリン講師。

長内 由紀子 violin

八戸市出身。地元の八戸市民フィルハーモニー交響楽団に所属。

白鳥 俊治 violin

青森市出身。会社員。6歳からピアノ、10歳からヴァイオリンを始める。ピアノを宮本久美子、ヴァイオリンを藤井一志に師事。福島大学管弦楽団コンサートマスター。2008年から2011年まで青森市民交響楽団コンサートマスター。ヨークカールチャーセンター弘前ヴァイオリン講師。

前田 一明 violin

弘前大学教育学部生涯教育課程芸術文化専攻3年。

弘前大学フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター。

二川原 健 viola

弘前大学フィルハーモニー管弦楽団でヴィオラを始める。

須藤三千代氏に師事。現在弘前交響楽団でヴァイオリンを担当。弘前大学医学部附属病院内分泌内科医師。

西崎 紀 viola

弘前大学フィルハーモニー管弦楽団にてヴィオラを始める。

現在ヒロムジカ・カンマー・オーケスター首席、弘前交響楽団、NHKフレンドシップオーケストラに所属。NHK文化センター弘前教室勤務。

山形 聡 cello

11歳よりチェロを始める。これまでに、藤澤俊樹、青木十良の各氏に師事。

現在、弘前大学医学部附属病院内分泌内科医師。

原子 尚之 contrabass

大鰐町在住。りんご、胡瓜を中心に生産。給食センターや産直、そして皆様においしい食材を提供している。県内外のオーケストラや室内楽のコントラバス奏者として幅広く活動している。

(3) 佐藤 弘和 Guitar

1966年青森県弘前市生まれ。

14歳よりギターを、そしてほとんど同時期に作曲も独学で始める。ピアノを北岡敦子、波多江啓子、工藤勝衛各氏に師事。弘前大学教育学部音楽科卒業。作曲を島一夫氏に師事。上京しギターを渡辺範彦氏に師事。

1990年第21回新人賞選考演奏会（現クラシカルギターコンクール）で2位入賞。同年、作曲で「ピアノのためのロンド」がPTNA ヤングピアニスト・コンペティションF級課題曲に採用。「F.タレガのラグリマによる変奏曲」が第1回ピアノデュオ作曲コンクールB部門入賞。その後、ギターを永島志基氏に師事。'91年カンマーザール立川にてデビューリサイタルを行う。この頃からギター作曲・編曲作品を現代ギター誌上に多数発表。

曲集として「佐藤弘和作品集秋のソナチネ」「季節をめぐる12の歌」「ギター四重奏のための20歳の頃」「G.フォーレ：ドリー（編曲）」など現代ギター社より出版。小品「素朴な歌（シンブル・ソング）」がギタリスト小川和隆、福田進一、大沢正

雄にCD録音されたのをはじめ、アマチュア諸氏に愛好される。1998年ギタリスト村治佳織のCD「カヴァティーナ」に収録された「マイ・フェイバリット・シングス」「コーリング・ユー」のアレンジを手がける（共編B.スターク）。

2006年NHKニューイヤーパーラの幕間のフルート&ギター（鈴木大介）のデュオ、2008&9年NHK・FM「きまにクラシック」番組内で演奏されたアンサンブル曲のアレンジを手がける。村治佳織によるCD、2009年「ポートレイト」2010年「ソレイユ」にアレンジ作品を多数提供、好評を得る。また、2009年5月より自身の作品の回顧シリーズ「佐藤弘和ギター作品展」を通算5回（vol.1 合奏 vol.2 ソロ I vol.3 デュオ vol.4 他楽器とのアンサンブル vol.5 ソロ II）開催。

CDに「佐藤弘和作品集 1 秋のソナチネ・素朴な歌」「作品集2 季節をめぐる12の歌」、楽譜その他に「ベイビーズ・ソング13集」「山と風と湖と」「花曲」「田園組曲」「森の中へ青い花を探しに」など多数。ギター作曲のモットーは「弾き易くわかり易くメロディックであること」

(4) 矢野 吉晴 piano

山口県光市出身。

五嶋加代子、杉田谷道の各氏に師事

山口県立光高等学校、エリザベト音楽大学器楽学科卒業

「第3回日本ピアノコンクール」第2位、「第1回かやぶき音楽堂ピアノ連弾コンクール」第2位、「第1回スーパークラシックオーディション アンサンブル部門」ディプロマ賞、「第10回日本クラシックコンクール」ディプロマ賞など、多くのコンクールに入賞。

ソロ・ピアノデュオを中心に、室内楽・伴奏など多数のコンサートに出演、聖パトリック教会などでオルガニストとしての活動もしている。ホールでのコンサートの他、サロンコンサートやトークコンサートも好評。各種コンクール審査員や、講座を行い、高校、短大などで後進の育成にも努める。また、（故）工藤正 元青森市長市民葬、淡谷のり子市民葬に於ける献呈演奏、青森公立大学卒業式での記念演奏、青森市教育委員会主催の中学生音楽コンクールの審査員を務めるなど、青森市民として地域に根差した音楽活動も多い。近年は、プログラムに現代音楽家の作品を積極的に加え初演の機会も多い。また、絵画・彫刻の展覧会場での演奏や、詩の朗読と音楽を交えたコンサートを試みるなど、精力的に活躍中である。

(5) 杉原 かおり soprano

山形大学教育学部特設音楽科（声楽）卒業。東京音楽大学大学院音楽研究科（声楽）修了。

大学1年の時、今後を期待される新人として「音楽現代」の新人賞を受賞し、こまばエミナース（東京）でのコンサートに出演。大学卒業後、教職に就きながらコンサート活動が続ける中、（故）東敦子女子に認められ東京音大大学院に進学する。大学院在院中は、NHK オペラの集い（黒田恭一氏とともに）、東京音大オペラ公演「ラ・ボエーム」主役（ミミ）他、数多くのコンサートに出演。また、国内の優秀な音楽家に贈られる（財

ローム・ミュージック・ファンデーションの奨学金（1996－97）を受けたほか、ウィーンにおける若手オペラ歌手の登竜門国際ベルヴェデーレ・オペラコンクール日本代表に選ばれるなど活躍しながら、1997年同大学院音楽研究科を首席で修了した。

1998年、ロータリー財団奨学生（－1999）としてイタリアに留学、ミラノ音楽院に在学しながら数多くのコンサートやオペラに出演。コンクールにおいても、第4回国際音楽コンクール＜J. ブラームス＞第2位、国際オペラコンクール＜サンレモ音楽祭オペラ部門＞特別賞、第9回国際トルトーナ音楽コンクールオペラ部門入賞、第6回リニャーノ・サッピアドーロ国際オペラコンクール入選など数多くの受賞歴を持つ。また、オーストリアにおけるヴィットーリオ・テッラノーヴァ氏のマスタークラスで優秀歌手に選ばれ、優秀歌手賞・奨学金を受ける。

2000年にはミラノのテアトロ・ナツィオナーレの「ラ・ボエーム」の主役（ミミ）でデビュー、イタリアの音楽新聞『RASSEGNA MELODRAMMATICA』紙上で「可憐なミミー 確かな歌唱技術・優れた表現力・イタリア人（地中海）の響きで叙情的な声を持つ。しかも中音域においても安定している」と高く評価された。その後も「ラ・ボエーム」をはじめとして、「蝶々夫人」「トスカ」のタイトルロール、「カヴァッレリーア・ルスティカーナ」ローラ役でイタリア各地の劇場に出演し、いづれも好評を博した。特に、ヴェルディの子孫が列席した2001年のヴェルディ・イヤーのコンサートではドラマ性と表現力について翌日の新聞紙上で賞賛を得た。

日本において、加藤千恵、石井忠吉、金内馨子、東敦子、野村陽子（ドイツ歌曲）、滝沢三重子（ロシア歌曲）、イタリアにおいて、ロゼッタ・エリー、ダンテ・マッツォーラ、レナート・カッツァニーガ、ロベルト・ネーグリ他の諸氏に師事。

2004年4月より弘前大学教育学部助教授。日本演奏家連盟会員。

アレコホール国際強化戦略事業 アンサンブル・シナウィ コンサート



1 事業概要

青森県立美術館が所蔵するマルク・シャガールのバレエ「アレコ」の背景画を、東アジアに発信するため、韓国の No.1 グループが初来日し、本県の津軽三味線、日本舞踊とのコラボレーションを実施した。

上演方法は、青森県立美術館シアター稼働壁を降ろし、シアター客席から「アレコ」を鑑賞できる状態とし、シャガールの舞台背景画「アレコ」と、韓国国楽と日本舞踊が空間を共有するコンサートに展開した。

・出演

申鉉植 シン・ヒョンシク（リーダー、アジェン _ 牙箏）
河セラ ハ・セラ（カヤグム _ 伽耶琴）
李逢根 イ・ボングン（ソリ _ ボーカル）
金智慧 キム・ジヘ（打楽器）
鄭松熙 チョン・ソンヒ（ピアノ、作曲）

斎藤沙希（津軽三味線）

中村登世之丞（日本舞踊）

・演奏曲目

18：30 時間旅行 じかんりょこう 시간여행
18：38 冷雨（歌）冷つめたい雨あめ 찬비가
18：45 カヤグム（伽耶琴）散調 가야금 산조
18：55 夜行 やこう 야행
19：05 津軽たんと節 (Tsugaru Tanto-Bushi)
/ 三味線 + アンサンブル・シナウィ (사미센 + 시나위)
19：10 月光遊戯 げっこうゆうぎ 달빛유희
/ 三味線 + アンサンブル・シナウィ (시나위 + 사미센)
19：18 芙蓉山 부용산
19：25 霊木 れいぼく 영목
19：33 魂 たましいのカデンツァ 영혼을 위한 카덴자

- 19:41 月蝕 げっしょく 월식 / アンサンブル・シナウィ
+ 日本舞踊 (시나위 + 일본무용)
- 19:50 東海とうかいラプソディー 동해랩소디 / アンサンブル・シナウィ (시나위)
- 19:58 アンコール 앙코르 / 桜 さくら 사쿠라 (アンサンブル・シナウィ)

- ・日時：2012年12月8日（土）
- ・開演18:30ー 開場18:00 受付17:00
- ・主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会
- ・会場：青森県立美術館シアター
- ・観客動員：200名（100%）

◎小中高校生先着60名まで無料（往復はがきにて事前申込み。）

- ・料金：前売り一般 2,000円
学生 1,500円
(当日は全て500円増し)
- ・前売り発売開始：10月1日（月）
- ・チケット取扱先
全 国：ローソンチケット（Lコード:28176）
弘前市：弘前大学生協／日弘楽器
青森市：サンロード青森／成田本店しんまち店／青森県立美術館ミュージアムショップ

- ・来場者サービス
- (1) 無料託児サービス
コンサートの開場から終演までの間、キッズルームにて無料で託児サービスを実施。
- (2) 終演後の無料送迎
コンサート終演後、青森駅までの無料送迎を実施。
- (3) カフェ「4匹の猫」臨時営業
コンサート当日は、開場時間まで営業時間を延長。
- (4) 小中高校生先着60名無料招待
県内の小・中・高校生を無料招待するプログラムを実施。

2 広報宣伝、営業概要

宣材物として、チラシ、ポスターを日本語版・英語版の両方を作成し、国内の文化施設、教育機関、音楽教室、音楽団体等を中心に配布、掲示を依頼したほか、国内各地のコンサート等への折り込みを依頼した。

3 出演者プロフィール

アンサンブル・シナウィ

アンサンブル・シナウィは韓国の伝統音楽が持つ粋と深みを、現代に通用する音楽として新たに生まれ変わらせるために、優れた力量を持つ演奏者たちで構成された伝統音楽演奏グループである。

「シナウィ」とは、韓国伝統音楽の核心である長短（リズム

周期）を基盤とし、それぞれの楽器の特性を生かして即興で演奏する音楽を意味する。アンサンブル・シナウィは、さまざまなワークショップや公演を通して、シナウィを根幹とする伝統音楽の幅を広げ、発展させている。

2007年に開催された「伝統音楽の変形と変容」というワークショップ以降、フュージョンやクロスオーバーより、むしろ伝統的な要素を極大化させることを目標に、シナウィの本質に対する模索と演奏活動に力を入れている。

韓国の伝統音楽のさまざまなジャンルー散調、巫楽、長短、パンソリなどを即興演奏であるシナウィとして捉え、韓国音楽の未来の可能性を提示し、多様なジャンルとのコラボレーション、または海外公演を通じ、韓国伝統音楽の魅力を広く伝えるために努力している。

アンサンブル・シナウィのメンバーは、シン・ヒョンシク（牙箏）、イ・ボンゴン（ボーカル）、チョン・ソンヒ（ピアノ・作曲）、ハ・セラ（伽耶琴）、キム・ジヘ（打楽）の5人で構成されている。全員、韓国の国立芸術大学である韓国芸術総合学校伝統芸術院の卒業生である。2011年1月にファーストアルバム『魂のカデンツァ』発表、2012年9月にセカンドアルバム『時間の中に』を発売。

中村登世之丞

8歳で東宝芸能学校に入学、15歳で中等科を卒業するまでクラシックバレエ、歌唱、演劇、日本舞踊、モダンダンス、タップダンスのレッスンを受ける。昭和38年の新宿コマ劇場で、宮城マリ子主演の新春ミュージカル公演「そばかすマリ子の恋物語」に子役として出演。その他テレビ出演や声優の活動を行う。

18歳まで初代家元、坂本晴江に地唄舞の手ほどきを受け、名取として「黒髪」「鐘が岬」を踊る。

現在は十世家元七代目中村虎治のもとで歌舞伎舞踊の研さんを積みながら、県民文化祭や華扇会（於国立劇場）などに出演する一方、青森県立美術館での日本舞踊版「阿礼児」の善比羅や香港の作曲家による「Shadow Dancing」を踊るなど意欲的に活動が続けている。

本名 浅野清（ピアニスト・弘前大学教授）

斎藤沙希

出身：青森県弘前市

2001年12月 津軽三味線を習い始める。

弘前実業高校（商業科）卒業

現在、大学に通いながら東京都内にて毎週土曜日演奏を実施。

受賞歴 多数

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム・フリーアトリエ

博物館実習

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

①展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名（面積）	使用料（入場料等を徴収しない場合）		
	9：30－12：00	13：00－17：00	左記以外の時間帯
A（148.76㎡）	2,130 円	3,400 円	1 時間 850 円
B（60.47㎡）	880 円	1,400 円	1 時間 350 円
C（131.30㎡）	1,880 円	3,000 円	1 時間 750 円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の 2 倍とします。

※ 2 コミュニティギャラリーの 1 室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーが使用できない場合があります。

■ 企画展示室

室名（面積）	使用料（入場料等を徴収しない場合）		
	9：30－12：00	13：00－17：00	左記以外の時間帯
A（182.70㎡）	2,500 円	4,000 円	1 時間 1,000 円
B（140.39㎡）	2,000 円	3,200 円	1 時間 800 円
C（389.51㎡）	5,500 円	8,800 円	1 時間 2,200 円
D（228.06㎡）	3,250 円	5,200 円	1 時間 1,300 円
E（105.91㎡）	1,500 円	2,400 円	1 時間 600 円
映像室（70.38㎡）	1,000 円	1,600 円	1 時間 400 円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の 2 倍とします。

※ 2 企画展示室の使用については、県立美術館との共催事業に限りです。

②シアター等を使用する場合

室名（面積）	使用料（入場料等を徴収しない場合）
シアター〔220 席〕（348.20㎡）	1 時間 2,400 円
映写室（36.36㎡）	1 時間 260 円
アナウンスブース（6.35㎡）	1 時間 50 円
ワークショップ A（124.38㎡）	1 時間 900 円
ワークショップ B（185.28㎡）	1 時間 1,300 円
暗室（22.45㎡）	1 時間 160 円
スタジオ（100.98㎡）	1 時間 720 円
映像編集室（24.77㎡）	1 時間 180 円
スタジオ映写室（28.88㎡）	1 時間 210 円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の 2 倍とします。

※ 2 暗室は、ワークショップ A を利用する場合、又はワークショップ A が利用されていないとき使用できます。

※ 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できます。

※ 4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できます。

(3) 使用期間

①展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として月曜日始まり、日曜日終わりの 1 週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き 5 週間を超えることはできません。
- ・企画展示室については、1 週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き 5 週間を超えることはできません。

②シアター等

- ・1 時間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き 10 日を超えることはできません。

※ 美術館のすべての施設において

- ・美術館の休館日は、使用できません。（準備、撤去作業の場合は除く。）
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

①美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間〔9 時 30 分から 17 時まで（6 月－9 月は、9 時から 18 時）〕とします。

なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1 時間単位で 21 時（シアター利用に限り 22 時）まで延長することができます。開館時間前の使用については、ご相談ください。

②施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。（延長した場合であっても 21 時（シアターについては 22 時）には撤収が完了していなければなりません。）

③展示施設は、9 時 30 分から 12 時、13 時から 17 時の使用区分とし、それ以外は 1 時間単位での使用とします。

④シアター等は、1 時間単位での使用とします。

■企画展示室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
3/16-6/9	青森放送（株）、（株）東奥日報社	大哺乳類展	A B C D E 映像室 シアター、映写室 ワークショップA	19,730

※入場者数は3/16-3/31までの分

■コミュニティギャラリー

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
5/11-5/13	阿部重組	第17回未来をのぞく住宅展	A B C	233
5/17-5/20	柳谷俊彦	柳谷俊彦作品展 HYAGUDON	B	130
5/25-5/29	美術による国際交流実行委員会	第2回アート&アーティストリインカネーション交流展	A B C	345
6/14-6/24	櫛桁幸一	櫛桁幸一写真展	C	621
8/6-8/12	木戸永二	木戸永二絵画個展	B C	466
8/12-8/24	青森県企画調整課	片桐仁個展ジンドー・ジョーンズ展	A	3,222
8/25-8/26	住友生命	第36回スミセイこども絵画コンクール	A B C	600
8/30-9/2	現代芸術の展望北東北展事務局	現代芸術の展望北東北展2012	A B C	691
9/7-9/9	阿部重組	第18回未来をのぞく住宅展	A B C	171
9/25-10/1	青森県文化振興会議	第19回県展2012	A B C	1,197
10/3-10/7	青森県高等学校文化連盟	青森県高等学校総合文化祭	A B C シアター ワークショップ AB	835
10/12-10/15	すまいのエコロジー展実行委員会	第3回すまいのエコロジー展	A B C	504
10/19-10/21	第24回MOA美術館青森児童作品展実行委員会	第24回MOA美術館青森児童作品展	A B C シアター 映写室	1,645
10/27-10/28	平舘福祉会	kefa作品展2012	B	100
10/29-11/5	須藤ありさ	須藤ありさ展	B	403
11/10-11/11	角田聡	Satoshi Kakuta Trio Session #3	A	53
11/16-11/18	阿部重組	第19回未来をのぞく住宅展	A B C	180
11/27-12/11	青森県木造住宅生産体制強化推進協議会	青森県住宅省エネルギー施工技術講習会	A B C	70
11/22-11/25	津軽金山焼サークル「小窯の会」	津軽金山焼サークル「小窯の会」陶芸展覧会	A B C	353
2/8-2/11	津軽白神森林環境保全ふれあいセンター	津軽白神森林環境保全ふれあいセンター「活動展」	A	65
2/15-2/19	青森県選挙管理委員会	平成24年度明るい選挙啓発ポスターコンクール作品展示	A B C	40
2/22-2/24	阿部重組	第20回未来をのぞく住宅展	A B C	48

■シアター・映写室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
9/27	青森市養護教諭会	青森市養護教諭会50周年記念講演会及び秋季全体研修	シアター	180
11/16-11/18	弘前劇場	公演2012「素顔」	シアター	265
11/22・24	KIDS Campus	KIDS Campus 2012年度 第4回	シアター	100
12/23	ROSE RECORDS	サニーデイ・サービス コンサート	シアター 映写室	305
3/24	青森映研	映画上映「かいけつゾロリ」	シアター 映写室	240

■ワークショップ

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
6/30、7/14、8/11、8/25	蒔苗正樹	B-Plainsワークショップ	ワークショップA B	80
8/18-19	北村会	「ねぶた面製作」講習会	ワークショップA	40
9/15	岩木遼足実行委員会	岩木遼足2012トークレクチャー	ワークショップA	20
9/25-9/26	青森県総合学校教育センター	図画工作・美術科教育講座	ワークショップA	71
10/11	青森市観光ガイドタクシー認定乗務員の会	青森市観光ガイドタクシー認定乗務員の会研修会	ワークショップB	57
10/20、11/18	蒔苗正樹	B-Plainsワークショップ	ワークショップB	70
1/12-1/14	青森県県民生活文化課	アーティストによる芸術文化活動応援事業	ワークショップA B	185
1/7	青森市小学校教育研究会図画工作科研究部会	図画工作研究部会冬季研修会	ワークショップB	95

合計 33,410 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

また、図書室所蔵の絵本を利用し、当館キッズルームではおはなし会を開催するなど、当館の美術教育普及事業の支援機関としての機能も担っている。

設備：来館者用パソコン端末 2台、図書閲覧席 20席

開館日・開室時間：美術館開館日の10：00－16：00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1）近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2）青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3）今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4）1－3を理解するために必要なものを購入および寄贈により収集した。

蔵書数

（平成20年度3月末現在）

・美術図書	1,768冊
・デザイン・建築関係図書	250冊
・写真関係図書	145冊
・絵本・イラスト関係図書	946冊
・民族・歴史関係図書	122冊
・音楽・映画・舞台関係図書	166冊
・展覧会カタログ	3,381冊
・雑誌（52タイトル）	1,004冊

（平成21年度登録分）

・美術図書	786冊
・デザイン・建築関係図書	152冊
・写真関係図書	61冊
・絵本・イラスト関係図書	238冊
・民族・歴史関係図書	87冊
・音楽・映画・舞台関係図書	82冊
・展覧会カタログ	3,310冊

・雑誌（37タイトル） 1,783冊

（平成21年度3月末現在）

・美術図書	2,555冊
・デザイン・建築関係図書	402冊
・写真関係図書	206冊
・絵本・イラスト関係図書	1,183冊
・民族・歴史関係図書	209冊
・音楽・映画・舞台関係図書	248冊
・展覧会カタログ	6,691冊
・雑誌（57タイトル）	2,787冊

（平成22年度3月末現在）

・美術図書	3,184冊
・デザイン・建築関係図書	438冊
・写真関係図書	232冊
・絵本・イラスト関係図書	1,202冊
・民族・歴史関係図書	268冊
・音楽・映画・舞台関係図書	404冊
・展覧会カタログ	8,024冊
・雑誌（57タイトル）	6,587冊

（平成23年度3月末現在）

・美術図書	3,690冊
・デザイン・建築関係図書	403冊
・写真関係図書	313冊
・絵本・イラスト関係図書	1,323冊
・民族・歴史関係図書	315冊
・音楽・映画・舞台関係図書	662冊
・展覧会カタログ	9,045冊
・雑誌（57タイトル）	7,664冊

（平成24年度3月末現在）

・美術図書	3,966冊
・デザイン・建築関係図書	402冊
・写真関係図書	327冊
・絵本・イラスト関係図書	1,308冊
・民俗・歴史関係図書	354冊
・音楽・映画・舞台関係図書	719冊
・展覧会カタログ	10,006冊
・その他（自然科学、文学など）	1,537冊
・雑誌（60タイトル）	8,432冊

※継続購入は28タイトル

サービス

図書資料閲覧

所蔵美術作品、蔵書のデータベース検索

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

美術に関するポスターやチラシの設置

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：331日

利用者数：10,688人

レファレンス利用件数：11件

図書室利用統計表

	開室日数（日）	入室者数（人）		レファレンス	
	月計	月計	1日平均	月計	1日平均
4月	24	740	30.8	0	0.0
5月	30	1,845	61.5	3	0.1
6月	24	508	21.2	1	0.0
7月	35	396	11.3	1	0.0
8月	31	1,235	39.8	0	0.0
9月	26	625	24.0	1	0.0
10月	28	1,313	46.9	1	0.0
11月	29	1,052	36.3	0	0.0
12月	27	739	27.4	2	0.1
1月	26	1,200	46.2	0	0.0
2月	26	191	7.3	1	0.0
3月	25	844	33.8	1	0.0
計	331	10,688	32.3	11	0.0

事業

1 美術館事業への支援・連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。

また、当館キッズルームで行ったおはなし会に所蔵絵本を活用した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム・フリーアトリエ

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」及びワークショップ前廊下のスペースを利用した「フリーアトリエ」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、800冊以上の絵本をはじめとして、スイスの naef（ネフ）社製やおもりの木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木などを楽しめる空間で、また、「フリーアトリエ」は、紙や粘土などを常置し、お絵かきやものづくりを自由に楽しめる空間となっている。

また、当館サポートスタッフによる「おはなし会」を定期的で開催し、絵本や工作などを通じて美術や美術館への関心を高める活動を行っている。

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日 10:00－15:00

平成 24 年度キッズルーム利用実績

	開室日数（日）	入室者数（人）		月計	平均
	月計	こども	おとな		
4 月	24	274	342	616	25.7
5 月	30	410	523	933	31.1
6 月	10	125	133	258	25.8
7 月	17	153	160	313	18.4
8 月	31	425	470	895	28.9
9 月	19	156	159	315	16.6
10 月	25	—	—	2,918	116.7
11 月	29	1,178	2,333	3,511	121.1
12 月	27	572	1,524	2,096	77.6
1 月	18	978	2,418	3,396	188.7
2 月	9	14	18	32	3.6
3 月	20	304	302	606	30.3
計	259	4,589	8,382	12,971	50.1

※10 月はこども・おとな別の集計なし。

「キッズルームおはなし会」実施状況

未就学児とその保護者を主な対象に、美術や美術館に親しみを持つきっかけ作りの場として、絵本読み聞かせ、創作体験などを行う「おはなし会」を開催した。

企画運営は、当館サポートスタッフが担当した。

- (1) 2012年 4 月28日（土） 11:00－12:00 フィンランド展関連
- (2) 2012年 5 月26日（土） 11:00－12:00 フィンランド展関連
- (3) 2012年 6 月23日（土） 11:00－12:00 体で遊ぶ
- (4) 2012年 7 月28日（日） 11:00－12:00 飛ぶ①紙飛行機
- (5) 2012年 8 月25日（土） 11:00－12:00 飛ぶ②紙飛行機
- (6) 2012年 9 月22日（土） 11:00－12:00 紙で遊ぶ

- (7) 2012年10月27日（土） 11:00－12:00 形であそぶ
- (8) 2012年11月24日（土） 11:00－12:00 凸凹で遊ぶ
- (9) 2012年12月22日（土） 11:00－12:00 袋で遊ぶ
- (10) 2013年 1 月26日（土） 11:00－12:00 色で遊ぶ
- (11) 2013年 2 月23日（土） 11:00－12:00 パターンで遊ぶ

全11回開催 参加者：480人



キッズルームおはなし会

博物館実習

概要

博物館法施行規則第 1 条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2012年 8 月23日（木）－ 8 月27日（月）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：7 名

岩手大学（2 名）、東北芸術工科大学（1 名）、弘前学院大学（2 名）、弘前大学（1 名）、宮城学院女子大学（1 名）

プログラム

平成24年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第 1 日目 8 月23日（木）

- ・オリエンテーション
- ・青森県立美術館の概要
- ・学芸員の仕事
- ・美術館の施設およびサイン計画（＋施設見学）
- ・来館者対応、ホスピタリティー
- ・実習日誌作成

第 2 日目 8 月24日（金）

- ・コレクションの形成、作品のデータ管理
- ・作品の保存・管理
- ・作品の取扱いおよび調書作成（日本画、油彩画、立体、紙作品）
- ・地域に根ざした美術館の役割
- ・地域の芸術文化の発信
- ・実習日誌作成

第 3 日目 8 月25日（土）

- ・美術館におけるパフォーミングアーツ活動
- ・展覧会の普及活動（＋ワークショップ等参加）
- ・実習日誌作成

第 4 日目 8 月26日（日）

- ・展覧会の企画と実施
- ・展示デザイン（展示方法、造作、照明、キャプション等）
- ・展覧会の運営および広報活動
- ・〔演習〕展覧会を企画してみよう
- ・実習日誌作成

第 5 日目 8 月27日（月）

- ・〔演習〕展覧会を企画してみよう
- ・〔演習〕企画した展覧会を発表してみよう
- ・実習日誌作成

資料

広報

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広報

県の広報媒体を活用した広報活動を中心としつつ、TwitterやFacebook等のソーシャルディアネットワークによる活動も展開した。

(1) 県広報による実績

- ・ABA「メッセージ」
- ・RAB「活彩あおもり」
- ・ATV「森の雫」
- ・RAB ラジオ「広報タイム」
- ・エフエム青森「情報ぱれっと」
- ・メルマガあおもり
- ・東奥日報、デーリー東北、陸奥新報「広報あおもりけん」
- ・県民だより
- ・Ustream「あおもり県庁なう」

(2) ソーシャルディアネットワーク

- ・Twitter
アカウント：aomori_museum_of_art@aomorikenbi
- ・Facebook
アカウント：https://www.facebook.com/aomori.museum
- ・Youtube
アカウント：http://www.youtube.com/user/aomorikenbi

(3) ホームページ

URL：www.aomori-museum.jp（PC版）

www.aomori-museum.jp/ja_mobile（モバイル版）

年間アクセス数（2012.4－2013.3）：546,509 件

(4) 雑誌等掲載実績（主なもの、順不同）

- ・rakra
- ・旅鶴
- ・ニッポンの名建築50選
- ・日経サイエンス
- ・じゃらん
- ・まっぷる
- ・るるぶ
- ・MEN' S NON-NO
- ・OZmagazine
- ・美術の窓
- ・日経トレンディ
- ・和楽
- ・日経大人のOFF ほか多数

広聴

青森県立美術館運営諮問会議

青森県立美術館の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため設置。

知事の諮問に応じて美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べるほか、美術館の運営に関する助言を行う。

青森県立美術館運営諮問会議委員：青木淳氏（県立美術館設計者）、奈良美智氏（本県出身アーティスト）、熊倉純子氏（東京芸術大学音楽学部教授）

開催状況

第12回

開催日：平成25年3月26日（火）

会場：青森県ビジネスサポートセンター会議室（東京都中央区）

県民のための美術館づくり懇話会

県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的に設置。

平成24年度

懇話会委員

座長：一町田工（三内丸山応援隊会長）

副座長：村山康子（前十和田市現代美術館館長）

委員：中村泰子（青森市立千刈小学校長）

委員：野坂佳孝（十和田市立南小学校教諭）

委員：大黒亜紗子（はちえきキャンパス in 八日町スタッフ）

委員：増田由美子（フリーアナウンサー）

委員：成田英久範（青森県立美術館サポートスタッフ）

委員：鷹山ひばり（青森県立美術館館長）

開催状況

開催日：平成25年3月20日（水・祝）

会場：青森県立美術館

入館者数

(単位：人)

		18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度 ①	24 年度 ②	増減 (②-①)
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	233,192	141,904	177,266	35,362
	スクールプログラム	12,685	6,968	6,668	9,098	11,574	6,777	5,798	△ 979
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	244,766	148,681	183,064	34,383
企画展	シャガール展	192,918							
	縄文と現代展	14,894							
	工藤甲人展	1,680	10,950						
	旅順博物館展		30,065						
	舞台芸術の世界展		6,282						
	棟方志功・崔榮林展		4,156						
	寺山修司展			9,533					
	大ナポレオン展			46,609					
	小島一郎展			8,660					
	ウィーン展				36,884				
	(特別展 太宰治と美術展)				(23,191)				
	馬場のぼる展				25,464				
	ラブラブショー				5,160				
	ローマ展					45,622			
	ロボット展					25,076			
	芸術の青森展					3,530			
	印象派展						105,758		
	今和次郎展						4,807		
	フィンランド展							31,876	
	Art and Air展							18,267	
	奈良美智展							80,275	
	企画展計	209,492	51,453	64,802	90,699	74,228	110,565	130,418	19,853
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	7,087	7,272	7,368	6,310	△ 1,058
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	718	11,365	2,565	△ 8,800
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	1,119	537	1,250	1,022	△ 228
	展示関係プログラム			625	1,526	7,546	1,328	909	△ 419
	その他	500		464	266	399	387	351	△ 36
	教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	16,472	21,698	11,157	△ 10,541
パフォーミングアーツ	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	1,085	2,962	3,468	506
	ダンス			1,419	1,089	520	0	0	0
	音楽	1,559	471	1,583	1,959	970	979	1,133	154
	映画	975	1,954	1,584	685	0	0	0	0
	パフォーミングアーツ計	4,704	4,246	6,102	5,066	2,575	3,941	4,601	660
貸館		10,568	26,481	194,807	104,625	144,520	20,735	33,410	12,675
図書館		2,552	7,727	12,910	10,012	7,864	6,561	10,688	4,127
キッズルーム			2,850	3,690	3,127	3,555	20,501	15,889	△ 4,612
合 計		456,273	202,594	412,914	424,183	493,980	332,682	389,227	56,545

※ キッズルームは平成19年4月28日からオープン

※ 特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

運営予算・決算

平成 24 年度

一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	48,819	使用料及び手数料	179,791	職員費	人件費
	1,773	財産収入			
	60,214	繰入金	524,621	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	48,680	諸収入	15,626	公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
	560,552	一般財源			
合計	720,038		720,038		

平成 24 年度

一般会計決算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	48,526	使用料及び手数料	179,266	職員費	人件費
	1,768	財産収入			
	59,051	繰入金	414,694	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	48,741	諸収入	15,355	公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
	451,229	一般財源			
合計	609,315		609,315		

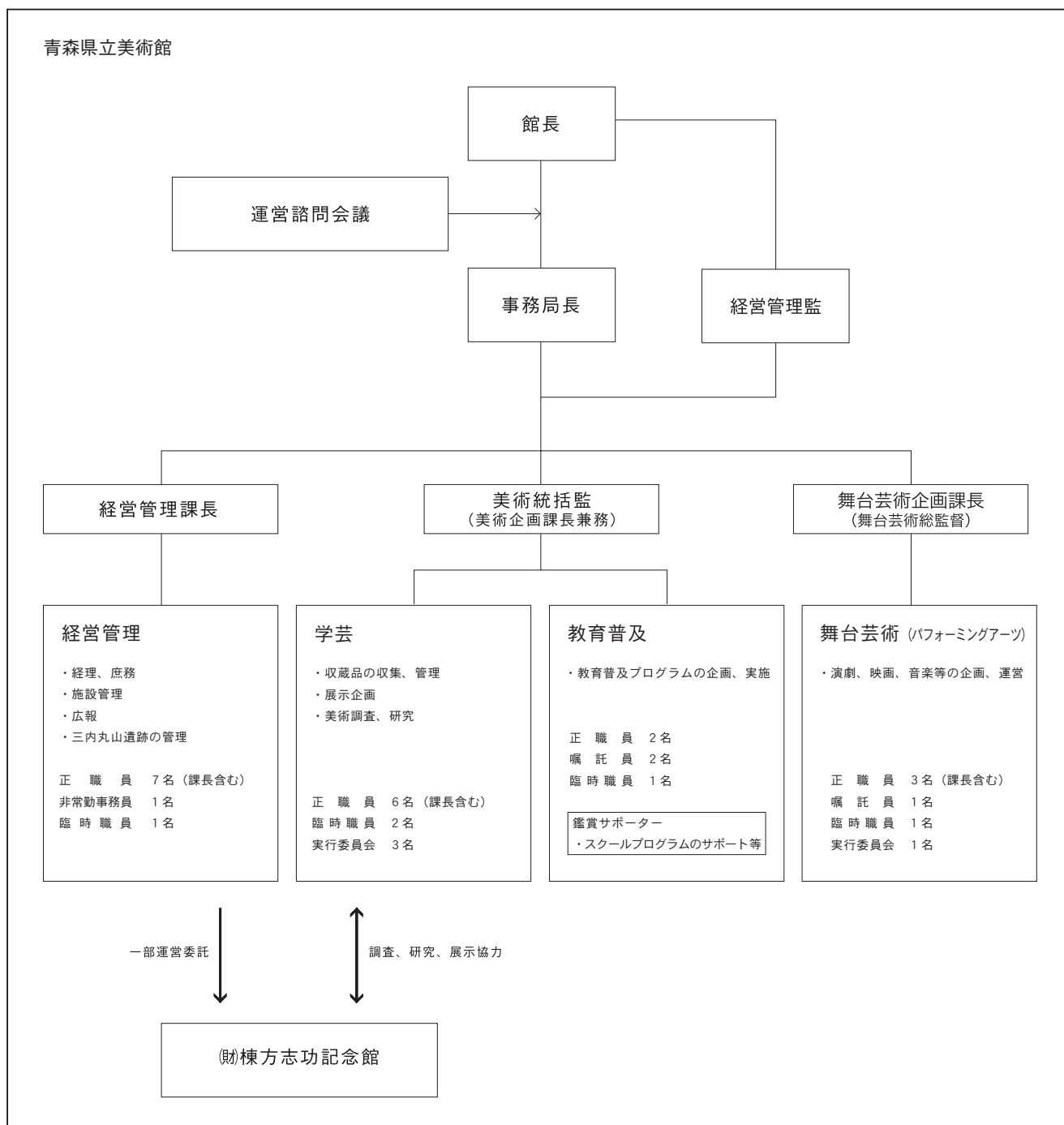
組織

□県立美術館の運営は、運営諮問会議からの助言を得ながら行っている。

□文化観光の拠点形成を図る観点から、三内丸山遺跡（縄文時遊館を除く）との一体運営を行っている。

□このために館長の下、特別職の経営管理監、県職員19人、嘱託員及び臨時職員9人の計30人が美術館運営にあたっている。このほか、企画展実行委員会職員3名、パフォーミングアーツ実行委員会職員1名が配置されている。

（平成24年4月1日現在）



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めたときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則

この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から十二時まで	十三時から十七時まで	九時三十分以前、十二時から十三時まで及び十七時以降（一時間につき）
コミュニティギャラリーA	二千三百十円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千円	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合
イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百円
ワークショップB	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合
イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の事務局長は（以下「事務局長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

（休館日等）

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二、第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日に当たるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 事務局長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外に休館することができる。

（使用の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該申込者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 事務局長は、美術館を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限する

ことができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 事務局長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特殊教育諸学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4

項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。） 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律 123 号）第 45 条第 2 項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）

使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第 1 号、第 2 号及び第 5 号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第 4 号様式）を事務局長に提出しなければならない。

3 事務局長は、条例別表第 2 号又は第 3 号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和 22 年法律 26 号）第 1 条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）第 7 条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 283 号）第 15 条第 4 項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律 123 号）第 45 条第 2 項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 事務局長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となって、美術館と共催し使用するとき 使用料の 2 分の 1 に相当する額を基本として事務局長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 事務局長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第 5 号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第 7 条 事務局長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第 8 条 事務局長は、別に定めるところにより美術資料の寄託

又は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第 9 条 事務局長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第 6 号様式）を事務局長に提出しなければならない。

附則

この規程は、平成 18 年 7 月 13 日から施行する。

この規程は、平成 19 年 6 月 25 日から施行する。

青森県立美術館運営諮問会議設置要綱

（趣旨）

第 1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため、青森県立美術館運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

（所掌事務）

第 2 諮問会議は、次に掲げる事項を所掌する。

（1）青森県立美術館長（以下「館長」という。）の諮問に応じて、美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べること。

（2）その他美術館の運営に関して助言を行うこと。

（組織等）

第 3 諮問会議は、委員をもって組織する。

2 委員は、所掌事務に関して学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

（任期）

第 4 委員の任期は、委嘱をした日から当該委嘱をした日の属する年度の翌年度の 3 月 31 日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

（会議）

第 5 諮問会議は、館長が招集する。

2 諮問会議の進行は、青森県立美術館事務局長が務める。

3 諮問会議には、委員の同意により必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

（庶務）

第 6 諮問会議の庶務は、青森県立美術館経営管理課において処理する。

（その他）

第 7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、青森県立美術館事務局長が別に定める。

附則

1 この要綱は、平成 17 年 12 月 1 日から施行する。

2 第 4 第 1 項の規定にかかわらず、当初の委員の任期は、委

嘱をした日から平成19年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成21年10月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年3月21日から施行する。

県民のための美術館づくり懇話会設置要綱

(趣旨)

第1 県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的とし、県民のための美術館づくり懇話会（以下、「懇話会」という。）を設置する。

(構成)

第2 懇話会は、10名以内の委員をもって構成する。

(任期)

第3 委員の任期は、年度最初の懇話会開催から1年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第4 懇話会には、座長及び副座長を置く。

2 懇話会は、座長が招集する。

3 座長は、会議の進行を行う。

4 副座長は、座長を補佐し、座長が会議に出席できないときは、座長の職務を代理する。

5 座長は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

(報酬等)

第5 委員の報酬は無償とする。

(庶務)

第6 会議の庶務は、青森県立美術館が行う。

(補則)

第7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

附則

この要綱は、平成19年9月13日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称	青森県立美術館
所在地	青森市大字安田字近野 185
主用途	美術館
事業主体	青森県
設計管理	青木淳建築計画事務所 構造：金箱構造設計事務所 設備：森村設計 音響：永田音響設計 土系素材：I N A X
施 工	竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体 強電：きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体 弱電：奈良・高田特定建設工事共同企業体 空調：高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体 衛生：芝管・五戸特定建設工事共同企業体 昇降機：三菱電機株式会社
面 積	敷地面積：129,536.37 m ² 建築面積：7,223.07 m ² 延床面積：21,222.19 m ² 地下 2 階：4,736.15 m ² 地下 1 階：3,965.11 m ² 1 階：5,339.02 m ² 2 階：2,403.81 m ² 3 階（機械エリア）：4,778.10 m ² 建ぺい率：5.58% 容積率：16.38%
階 数	地下 2 階 地上 3 階
寸 法	最高高：16,160 mm 軒高：15,150 mm 階高：地下 2 階 2,300－19,000 mm 地下 1 階 2,500－7,500 mm 1 階 2,700－11,000 mm 2 階 2,500－4,000 mm 主なスパン：3,000 mm×3,000 mm
地域・地区	都市計画区域内 市街化区域
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造（地下 1・2 階） 鉄骨造（地上 1－3 階） 杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600φ・700φ、 （PHC 杭）600φ

空調設備	A H U・定風量単一ダクト方式、一部 F C U、空冷パッケージ方式 熱源：冷温水発生機（320USRt、280USRt）、加温用蒸気ボイラ
照明設備	スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線カット付）
消火設備	屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒素）消火、加圧式粉末 ABC 消火器 設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備（開放型、予作動型）、窒素ガス消火設備（一部展示室、収蔵庫、熱源機械室）
排煙設備	機械排煙設備（3 系統）
防犯設備	開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内に監視員を置く。展示室内には監視カメラを設置し、監視室にて監視。
衛生設備	給水：受水槽（42 t）＋加圧給水ポンプユニット方式 給湯：局所式（電気温水器）、ガス湯沸器（厨房） 排水：ポンプアップ排水
電気設備	受電方式：高圧電力 3φ3W 6,600V 1 回線受電（業務用電力＋融雪電力） 設備容量：2,650 kVA 契約電力：660 kW 予備電源：非常用発電設備 500 kVA、直流電源設備（非常照明用） 設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設備、動力設備、電灯設備、展示調光設備、避雷設備、外構設備、電話設備、情報設備、インターホン設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、監視カメラ設備、機械警備設備、放送設備、中央監視設備、外構設備、演出照明設備（シアター、スタジオ）、演出音響設備、映写設備（シアター）
昇 降 機	荷物用エレベータ 1 台 乗用エレベータ 8 台
設計期間	1999年12月－2002年 3 月
施工期間	2002年12月－2005年 9 月
外部仕上げ	屋根：ウレタン塗膜防水 外壁：煉瓦＋アクリルシリコン塗装 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ
内部仕上げ	展示室（白）

床：カラーモルタル金こて押え t = 20 mm + 防塵
防汚塗装

壁：合板 t = 15 mm × 2 + プラスターボード t = 12
mm + 全面寒冷紗パテ処理 + E P

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ E P

展示室（土）

床：タタキ t = 50 mm

壁：版築 t = 200 mm

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ E P

コミュニティホール

床：クリフローリング t = 15 mm

壁：プラスターボード 12 mm × 2 + スタッコ

天井：人工木材ローズウッド練り付け

シアター

床：フェルト t = 8 mm + カーペット t = 7 mm

壁：プラスターボード t = 15 mm + グラスウール
ボード + エキスパンドメタル t = 6 mm（樹
脂コーティング処理）

天井：グラスウール + プラスターボード t = 15
mm + エキスパンドメタル t = 6 mm（樹脂
コーティング処理）

オフィス

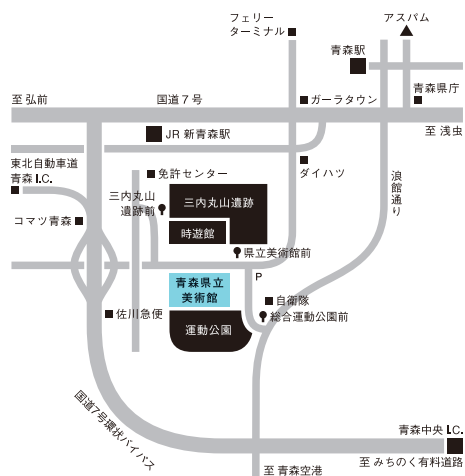
床：システム根太ユニット 600 mm × 600 mm +
コンパネ t = 12 mm + クリフローリング t =
15 mm

壁：プラスターボード t = 12 mm × 2 + E P

天井：プラスターボード t = 12 mm + 吸音板 t = 12
mm + E P

アクセス

- －JR新青森駅から車で約10分
- －青森駅から車で約20分
- －青森空港から車で約20分
- －東北縦貫自動車道青森I.C.から車で約5分
- －（八戸方面から）青森自動車道青森中央I.C.から車で約10分
- －市営バス青森駅前6番バス停から運転免許センター行き
「県立美術館前」下車（所要時間約20分）
- －ルートバスねぶたん号（左回り）新青森駅南口バス停から乗車
「県立美術館前」下車（所要時間約10分）



青森県立美術館年報

平成 24 年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野 185 038-0021
017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2013 年 8 月